

久留米大学医学部産婦人科学教室

同門会誌

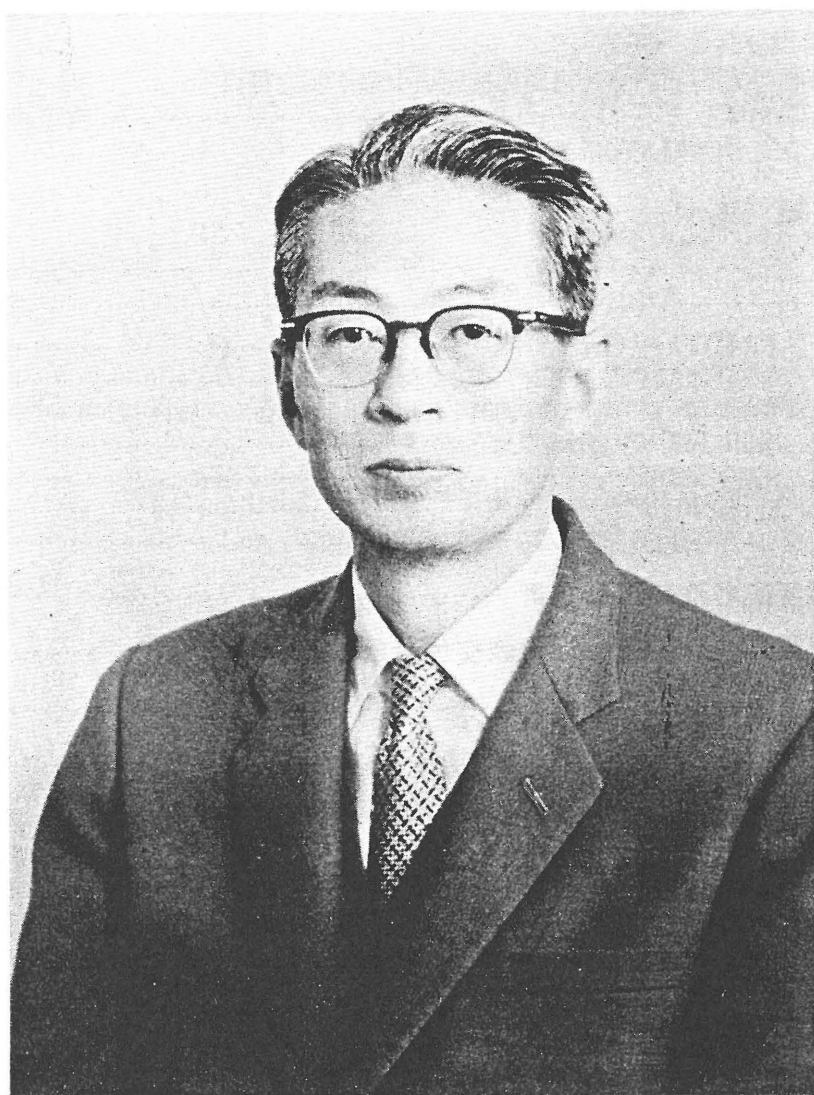
第一号

(宮原教授就任十周年記念号)

1958

目 次

宮原教授写真	
宮原教授略歴	
杉森前教授写真及び略歴	
故向井前教授写真及び略歴	
久留米大学医学部附属病院・宮原教授開講十週年記念写真	
同門会誌発刊に際して	宮原通顕 (1)
久留米大学医学部産婦人科学教室同門会会則	(2)
教 室 業 績 集	
誌 上 発 表	(3)
学 会 発 表	(6)
1. 日本産科婦人科学会総会	(6)
2. 日本産科婦人科学会九州連合地方部会	(6)
3. 日本産科婦人科学会中国・四国・九州連合地方部会	(7)
4. 日本産科婦人科学会福岡県地方部会	(8)
5. 九州医学会総会	(11)
6. 久留米医学会総会	(12)
7. 産婦人科学教室同門会	(13)
学位論文通過者氏名及び論文題目	(19)
文部省科学研究費各個研究助成金被交付者氏名及び研究題目	(19)
十周年記念講演会抄録	(21)
文 藝	
産婦人科医の将来	宮 原 通 顕 (37)
入局当時の思い出	三 浦 智 典 (38)
余 談	桑 野 稔 (38)
私の「母親教室」	畑 瀬 幸 雄 (39)
” 思い出 ”	郷 司 研 一 (39)
デポー性ホルモン剤の功罪	宮 原 泰 之 (40)
排 句	加 藤 黙 声 (41)
” 赤ちやんは下向きに ”	橋 本 正 澄 (41)
国家試験仕末記	富 井 一 衛 (42)
宮原教授開講十周年を祝して	朱 以 春 (42)
月 経 閑 話	鹿 林 仙 人 (43)
『もつとやさしく』	朱 以 春 (44)
第7回産科婦人科学会九州連合地方部会を回顧して	片 淵 陽 一 (44)
想 出	空 閑 彰 (45)
五月帯と子の幸せと	五十嵐 啄 磨 (45)
宮原教授開講十周年を祝して	片 淵 陽 一 (46)
お祝のことは	安 部 宏 (46)
残 照	江 頭 敬 親 (46)
内 外 消 息	(47)
昭和32、33年度同門会会計報告	(52)
同 門 会 名 簿	(55)
編 集 後 記	(64)



宮原通顯教授

宮原通顕教授略歴

明治35年10月15日生

昭和2年3月31日	九州帝国大学医学部卒業
昭和2年4月26日	九州帝国大学副手(医学部産婦人科学)
昭和7年5月20日	附属医院産婆養成科講師
昭和7年6月30日	九州帝国大学助手(医学部産婦人科学)
昭和9年7月14日	婦人科産科医局長
昭和9年7月18日	附属医院看護員養成科講師
昭和10年11月19日	医学博士
昭和11年2月3日	九州帝国大学医学部講師
昭和11年2月12日	産婦人科学研究のため独乙留学
昭和12年4月15日	婦朝
昭和12年5月10日	日本赤十字社山口支部病院産婦人科医長
昭和15年1月22日	日本赤十字社広島支部病院産婦人科医長
昭和15年4月29日	叙勲六等 賜瑞宝章
昭和17年9月5日	財団法人癌研究会附属病院婦人科医長
昭和22年5月20日	久留米医科大学教授兼九州高等医学専門学校教授 (産婦人科学)
昭和26年7月3日	久留米医科大学附属病院看護婦養成所長
昭和27年4月1日	久留米大学教授兼久留米医科大学教授(産婦人科学)
昭和27年10月1日	久留米大学医学部附属病院副院長
昭和29年4月1日	久留米大学准看護婦学校長
昭和31年4月1日	学校法人久留米大学理事 大学院医学研究科委員会委員
昭和32年9月1日	産婦人科学研究のため欧米視察
昭和33年3月2日	婦朝



杉 森 司 前 教 授

杉 森 司 前 教 授 略 歴

明 治 31 年 10 月 13 日 生

大正15年 3 月	九州帝国大学医学部卒業
大正15年 5 月	九州帝国大学副手 (医学部産婦人科学)
昭和15年 1 月	九州帝国大学助手
昭和6年 5 月	医 学 博 士
昭和16年 5 月	九州帝国大学医学部附属病院看護婦養成科講師
昭和7年 1 月	九州医学専門学校教授 (産婦人科学)
昭和9年 1 月	願に依り退職, 福岡市にて開業

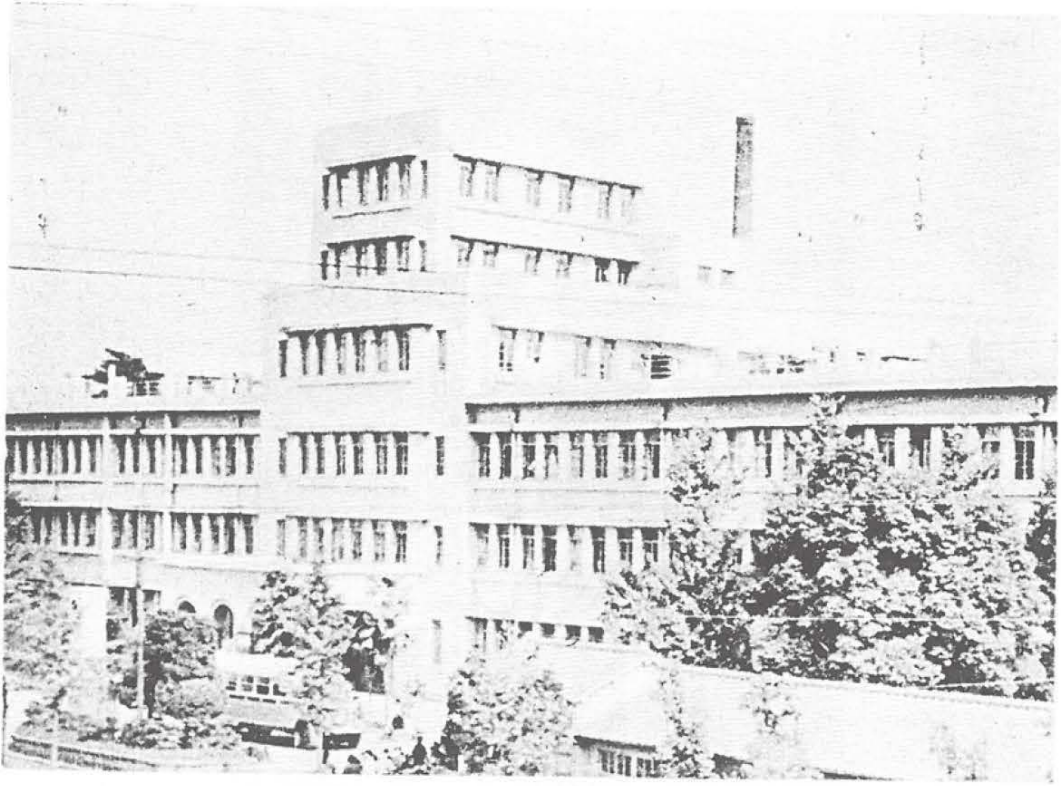


故向井治雄前教授

故向井治雄前教授略歴

明治25年1月12日生

大正8年12月	九州帝国大学医学部卒業
大正8年12月	九州帝国大学副手(医学部産婦人科学)
大正9年9月	九州帝国大学助手
大正10年9月	久留米市立病院産婦人科医長
昭和3年3月	九州医学専門学校教授(産婦人科学)
昭和7年1月	九州帝国大学医学部に於て研究の為休職
昭和9年1月	九州医学専門学校教授に復職
昭和10年10月	九州医学専門学校附属病院副院長
昭和15年7月	九州医学専門学校附属病院院長
昭和21年3月	久留米医科大学教授兼九州高等医学専門学校教授 (産婦人科学)
昭和21年9月	願に依り退職, 久留米市に於て病院経営
昭和33年9月17日	逝去



久留米大学医学部附属病院



宮原教授開講十周年記念

同門会誌発刊に際して

久留米大学医学部産婦人科学教室同門会

会長 宮原 通 顕

診察室の窓越しに見える公孫樹の若葉も、大きく開いて新緑に光り、微風にそよいで、初夏の近づきを感じる季節となつた。

先般の同門会で本誌を発刊する事に決つて、最早数カ月を経過してしまつた。その間医局の各員が夫々諸部門の整理を分擔して、既にその準備はとつづくに完了していたのであるが、私の怠慢のため、遂に今日まで延々になつて、同門の皆さんに全く申訳ない。

本誌は数年前にも発行する話が盛り上つた事もあつたのであるが、遂にその機熟せず、今日に到つてやつと皆さんの御支援により実現の運びとなり、嬉しき極みである。

おもうにこの種会誌は、これを通じて教室の先輩或は関係者お互の動静を知り、又教室の現状を伝えて、以て会員相互の意志の疏通を計り、新旧一致団結して母校の発展、教室の繁栄をはかる絆の大役を擔つている。何卒本誌を意義あるものにし、成長させて戴きたい。

本号は御覧の様に未だ不備の部分が多く、今後改めねばならぬ点が多々ある事と思われるが、何卒先輩各位におかれては、後輩を激励指導する意味をも含めて、どしどし意見をお寄せ下され、一層より良き、みんなから期待を以て迎えらるる会誌にして戴く様お願いする。

久留米大学医学部産婦人科学教室同門会

会 則

- 第一 条 本会は久留米大学医学部産婦人科学教室同門会と称する
- 第二 条 本会の事務所を久留米大学医学部産婦人科学教室におく
- 第三 条 本会は九州医学専門学校九州高等医学専門学校、久留米医科大学、久留米大学医学部産婦人科学教室に籍を有せし者、並に現教室員を以て会員とす尚当教室に特別の関係ある者、並に本会の趣旨に替同する者にして役員会の承認を得たる者は賛助会員たるを得
- 第四 条 本会は会員相互の提携親睦を図り、斯道の進歩に貢献するを目的とす、
- 第五 条 本会には次の役員を置く
会 長 1名
評議員 若干名
会長は本教室現教授を載く
評議員は総会に於て選挙せられたる者但し任期は2年とす
- 第六 条 総会を年一回開催す
- 第七 条 本会の会費は年二百円とす
- 第八 条 同門会誌を発刊し之を会員に配布す

役 員 名

会 長 宮 原 通 顕

評 議 員	三 浦 智 典 (八 女)	畑 瀬 幸 雄 (久 留 米)
	可 兒 栄 (田 主 丸)	渡 辺 静 夫 (久 留 米)
	松 尾 哲 夫 (三 養 基)	宗 進 (佐 世 保)
	朱 以 春 (教 室)	片 淵 陽 一 (教 室)
	空 閉 彰 (教 室)	森 光 敏 行 (教 室)

教 室 業 績

§ 誌 上 発 表

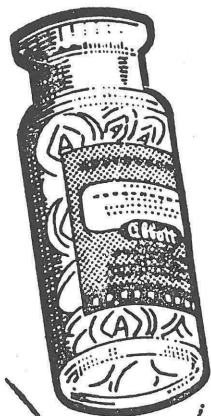
(昭和26年以降)

- 宮 原 通 顕 : 座談会, 鉗子分娩. 産婦の世界, 3巻, 11号, 昭26.
- 宮 原 通 顕 : 婦人科手術前に於ける末梢血行機能検査の
宮 福 田 泰 新 之 価値.
- 宮 原 通 顕 : 子宮位置異常症の原因考察. 日産婦会九州連合地方部会誌, 3号, 昭28.
- 朱 以 春 : 抗ヒ剤の子宮及び腸管に及ぼす作用並に
Vagostigminとの関係. 臨婦産科, 8巻, 3号, 昭29.
- 宮 原 通 顕 : 流産の診断と治療. 産婦の世界, 6巻, 4号, 昭29.
- M. Miyahara : Clinical Studies on the Treatment of
M. Matumoto : Uterovaginal Carcinoma by direct
Injection of Nitrogen Mastasd-N-oxide.
- 宮 原 通 顕 : ナイトロゼン・マスタードN. oxideの腫瘍
宮 本 真 内注入に依る子宮腔部癌の臨床的研究. 臨婦産科, 9巻, 3号, 昭30.
- 宮 原 通 顕 : プロスチグミン・テストの効果と本態につ
宮 朱 以 春 いて.
- 渡 辺 静 夫 : 著名破裂症状を認めざる自然子宮破裂の一
例. 久医学会誌, 18巻, 5-6号, 昭30.
- 片 淵 陽 一 : 腔壁筋腫の一例. 産と婦, 22巻, 6号, 昭30.
- 朱 以 春 : 産婦人科領域に於ける Vagostigmin の作
用に関する基礎的研究並に臨床的応用. 久医学会誌, 18巻, 7-8号, 昭30.
- 宮 原 通 顕 : 手術時及び癌化学療法時の副作用防止はおけ
宮 森 光 敏 行 るクロルプロマジン使用経験.
- 片 淵 陽 一 : 子宮癌に対する松原氏反応の臨床的価値に
ついて.
- 宮 原 通 顕 : 我が教室に於ける Trichomonas
宮 朱 松 本 正 敏 Vaginalis の検査成績.
- 宮 川 俊 介 : 少女に発生せる巨大卵巣嚢腫の一例.
宮 原 豊 福 哲 夫 久医学会誌, 19巻, 4号, 昭31.
- 宮 川 俊 介 : 全身熱傷の一治験例.
宮 原 豊 福 哲 夫 久医学会誌, 19巻, 4号, 昭31.
- 大 隈 克 己 : 短期間に大腫瘍化せる悪性絨毛上皮腫の
一例. 久医学会誌, 19巻, 6号, 昭31.

- 大隈克己：子宮癌腫浸出液の家兎血液成分の二，三並に網内係に及ぼす影響に就て。久医学会誌，19巻，7号，昭31.
- 大隈克己：妊娠子宮癌に就いて。久医学会誌，19巻，7号，昭31.
- 宮原通顯
朱松本以春
本正敏：腔及び膀胱内トリコモナスのトリコマイシン内服治療経験と實際。産婦の實際，5巻，7号，昭31.
- 安部宏：皮様嚢腫より発生したと思われる卵巣癌の一剖検例。産と婦，24巻，2号，昭32.
- 片淵陽一：ポリサツカリード様物質を主体とする胎盤水溶性物質に依る子宮癌反応に就いて。臨婦産科，11巻，4号，昭32.
- 馮岸瑞麒
本正人
角光敏：産婦人科領域に於ける Adrenalin の酸化成体の使用経験と其に伴い変動する好酸球の意義。久医学会誌，20巻，4号，昭32.
- 馮岸瑞麒
本正人
角光敏：腔酸性度に就いて。久医学会誌，20巻，4号，昭32.
- 馮岸瑞麒：産婦人科領域に於ける血液凝固の研究。久医学会誌，20巻，5号，昭32.
- 朔片芳照
松淵陽一
本正敏：吾が教室に於ける悪性絨毛上皮腫及び胎状奇胎の統計的觀察。久医学会誌，20巻，5号，昭32.
- 駒井義治
有吉公：無脳児の一例と本邦文献の統計的考察。久医学会誌，20巻，5号，昭32.
- 馮岸瑞麒
本正人：過去10年間教室に於ける子宮癌根治手術術後自発尿管腔瘻の臨床的觀察。久医学会誌，20巻，5号，昭32.
- 洪江浩
坂本英雄：子宮頸癌手術術後併発した脳栓塞症例。久医学会誌，20巻，6号，昭32.
- 岸川政雄：副胎盤の一例。久医学会誌，20巻，6号，昭32.
- 宮原通顯
馮岸瑞麒
角光敏：吾が教室に於ける腔内及び膀胱内Candida 検索成績。久医学会誌，20巻，6号，昭32.
- 宮原通顯
空閑部
安岩橋信夫：優生手術（女性）についての調査報告。久医学会誌，20巻，8号，昭32.
- 宮原通顯
空閑部
森光敏：強化麻酔の応用とその検討。久医学会誌，20巻，10号，昭32.
- 朱岸以春
松川尾政正
尾正之：3才女兒に発生したトリコモナス膀胱炎とその感染源追究並に治療。産婦の實際，6巻，12号，昭32.
- 宮原通顯
空閑部
岩橋信夫：ブジー挿置法の効果について。臨床と研究，35巻，3号，昭33.

- 片淵陽一：婦人科領域患者に対する組織水溶性物質皮内反応の研究。久医学会誌，21巻，3号，昭33。
- 朱以春：トリコモナス膣炎の治療について，産婦の世界，10巻，8号，昭33。
- 宮原通 顕
朱松本 以春
坂本英 正
坂本英 敏
雄：膣トリコモナスの抵抗力に関する二・三の実験。久医学会誌，21巻，10号，昭33。
- 馮瑞麒
松尾正之
岸川正良
副良弘：最近10年間教室に於ける子宮發育不全症患者の統計的觀察。久医学会誌，21巻，10号，昭33。
- 坂本英雄
有吉芳政
岸川政雄：我が教室に於ける子宮筋腫の統計的觀察。久医学会誌，21巻，11号，昭33。
- 坂本英雄：日本住血吸虫症の産婦人科領域に及ぼす影響。久医学会誌，21巻，11号，昭33。
- 岸川政雄：各種ビタミンのトリコモナス發育に及ぼす影響。久医学会誌，21巻，12号，昭33。

アボット社製品



ペニシリン アレルギーに

最近、話題となつたペニシリンの副作用による事故は、抗生物質の先進国である米国でも早くから問題となつていました。この解決のため、幾多の研究が行われ、1952年ペニシリン過敏症の不安もなく、更に広い抗菌範囲を有する新しい抗生物質エリスロシンが発見されました。

- ★ペニシリン過敏症の方に安心して使用できます。
- ★ペニシリンの適応症に、短時間しかも確実に効果を發揮します。
- ★2時間で有効血中濃度に、3～4時間で最高濃度に達し8時間効力を持続しますので、治療期間が短かく、従つて経済的治療に最も適しています。

(ステアリン酸エリスロマイシン錠)

新抗生物質

エリスロシン

包装(1錠中100mg)25錠 100錠
懸濁液 1CC中20mg 60CC

健保適用 (文献・説明書参照)

大阪市道修町 大日本製薬株式会社 東京都日本橋区

(E15)

◇ 学会発表 (昭和26年以降)

I. 日本産科婦人科学会総会

第3回(昭和26年4月1日)第13回日本医学会第26分科会 於東京

- 1) ヲゴステグミンの Maus 性週期, 卵巣及び子宮に及ぼす影響に就て 朱 以 春

第4回(昭和27年3月30日)於岡山

- 1) ヲゴステグミンの子宮及び腸管に及ぼす作用並に抗ヒ剤の影響に就て 朱 以 春
2) 薬物的陣痛促進法に関する実験的研究 畑 瀬 幸 雄

第5回(昭和28年5月10日)於新潟

- 1) Dimethyl carbaminsäure des m-oxyphnyltrimethylammonium-methylsulfats(Vagostigmin) の流産誘発作用並びにその機序 朱 以 春

第6回(昭和29年4月3日)於神戸

- 1) 「ナイトロゼン・マスタード」腫瘍内注入に依る子宮腔部癌の臨床的研究 松 本 真
2) プシー挿置法の効果に就いて 宮 原 通 顕・空 閑 彰

第7回(昭和30年4月2日)第14回日本医学会第26分科会 於京都

- 1) 産婦人科領域に於る手術的侵襲の血液凝固に及ぼす影響 馮 瑞 麒
2) 「ナイトロゼン・マスタード」の子宮腔部癌腫内注入に依る臨床的及び実験的研究 宮 原 通 顕・松 本 真

第8回(昭和31年4月2日)於東京

- 1) 産婦人科領域に於けるアドレナリン酸化成体の使用経験とそれに伴う好酸球の変動 馮 瑞 麒
2) 子宮癌に対する自家作製抗原皮内反応の応用価値 片 淵 陽 一

第9回(昭和32年6月26日)於札幌

- 1) 日本住血吸虫症の産婦人科領域に及ぼす影響 宮 原 通 顕・坂 本 英 雄

第10回(昭和33年4月4日)於福岡

- 1) クロールプロマジンの実質臓器, 特に副腎皮質, 肝臓及び腎臓に及ぼす影響に関する実験的研究 森 光 敏 行

II. 日本産科婦人科学会九州連合地方部会

第2回(昭和26年6月17日)於熊本

- 1) バリウム塩の子宮作用に就て 畑 瀬 幸 雄
2) ヲゴステグミンの卵巣別出及び自家卵巣移植 Maus 性周期に及ぼす影響 朱 以 春

第3回(昭和27年6月1日)於鹿児島

- 1) 月経週期の血液凝固時間に及ぼす影響 馮 瑞 麒
2) 外来患者の帯下検査成績 橋 本 正 澄

3) 尿中ウロビリノンゲンの螢光学的証明法 加藤 栄 朗

4) 子宮癌転移症に対するナイトロゼン・マスタードの著効例 森 藤 栄 一・福 島 正 名

第4回(昭和29年5月30日)於長崎

1) スパチームの人生体子宮に対する作用 朱 以 春

2) 添加液体のPHの血液凝固に及ぼす影響 馮 瑞 麒

第5回(昭和30年7月24日)於佐賀

1) 処女に発生せる尖圭コンジロームの1例 坂 本 英 雄

2) 子宮癌に対する「ナイトロゼン・マスタード」併用療法の効果 松 本 真・安 部 宏

3) 子宮癌診断用としての自家作製抗原 片 淵 陽 一

4) クロールプロマジンの手術時使用経験 森 光 敏 行

第6回(昭和31年5月20日)於宮崎

1) Trichomonas Vaginalis の抵抗性に関する二、三の実験

宮 原 通 顕・朱 以 春・松 本 正 敏

2) ポリペプチド様物質を主体とする人胎盤水溶性物質の子宮癌反応に就て 片 淵 陽 一

3) 優生手術に就いての調査報告 宮 原 通 顕・空 閑 彰・安 部 宏

第7回(昭和32年5月26日)於久留米

1) 所謂血の道症の治療経験 朱 以 春・大 田 重 勝

2) 過去10年間我が教室に於ける子宮癌根治手術後の自発尿管腔瘻の臨床的觀察 馮 瑞 麒

3) 我が教室に於ける子宮頸癌治療成績 安 部 宏

4) 子宮頸癌患者の腔内容像及び子宮内膜像 駒 井 義 治

5) 長期治療に於ける人胎盤水溶性物質の皮内反応に就いて 片 淵 陽 一

6) 帯下と特殊微生物との関係 朱 以 春・松 本 正 敏・角 光 勲

7) トリコモナス膣炎の治療成績 朱 以 春・松 本 正 敏・岸 川 正 雄

Ⅲ. 日本産科婦人科学会中国・四国・九州連合地方部会

第1回(昭和28年11月22日)於別府

1) 妊娠中期に於ける人工分娩誘導法の再検討 畑 瀬 幸 雄

第2回(昭和33年6月22日)於山口

1) 吾が教室に於ける最近の未熟児哺育について 西 島 重 次・岸 川 政 雄

2) 強化麻酔法の副作用について 森 光 敏 行・古 賀 企 図 志

3) 17才女子に発生せる原発性卵巣癌の1例 大 田 重 勝

IV. 日本産科婦人科学会福岡縣地方部会

第8回 (26.5.27) 於九大

- | | |
|------------------|---------|
| 1) 悪性絨毛上皮腫の一例 | 原 口 初 雄 |
| 2) 松原氏反応の追試成績 | 大 隈 克 己 |
| 3) 子宮癌一新診断法の追試成績 | 空 閉 彰 |

第9回 (26.9.30) 於原鶴

- | | |
|-------------------|---------|
| 1) 手術後の疲労測定成績 | 五十風 琢 磨 |
| 2) 子宮癌腫患者治療時の疲労反応 | 浮 亀 角 助 |
| 3) 蛔虫卵管迷入症の一例について | 原 口 初 雄 |

第10回 (27.1.27) 於九大

- | | |
|----------------------------------------------|---------|
| 1) 大腫瘍化する悪性絨毛上皮腫の1例 | 大 隈 克 己 |
| 2) 胎盤移植の血液に及ぼす作用 | 岸 正 人 |
| 3) 抗ヒスタミン剤の子宮及び腸管に対する作用並びに二、三の子宮収縮剤の作用に及ぼす影響 | 朱 以 春 |
| 4) 羊膜外薬液注入に依る妊娠中絶法の副作用 | 畑 瀬 幸 雄 |
| 5) ナイトロジェン・マスタードの子宮腔部癌に対する局所作用 | 中 村 雄 一 |

第11回 (27.5.11) 於直方市

- | | |
|-------------------------|---------|
| 1) 陰脣象皮病の一例 | 中 村 雄 一 |
| 2) 月経周期の血液凝固時間に及ぼす影響に就て | 馮 瑞 麒 |
| 3) 子宮癌の治療成績 | 橋 本 正 澄 |

第12回 (27.9.28) 於柳川市

- | | |
|---------------------------------|---------|
| 1) 婦人科手術時の出血量に就て | 福 島 正 名 |
| 2) 生活環境の性器位置異常殊に後傾症並びに脱垂症に及ぼす影響 | 浜 井 啓 一 |
| 3) 婦人科領域に於ける手術的侵襲の血液凝固に及ぼす影響 | 馮 瑞 麒 |
| 4) 長崎県五島(浜の浦村)に於ける夏季診療の産婦人科領域成果 | 宮 原 通 顕 |

第13回 (28.1.25) 於二日市

- | | |
|------------------------|-----------|
| 1) 手術・妊娠時に於ける肝臓機能障害に就て | 松 浦 朔 郎 |
| 2) 尿中ウロビリンの螢光的証明 | 加 藤 栄 朗 |
| 3) P. G. S. の追試成績 | 的 場 伊 都 子 |
| 4) ワゴステグミンによる流産は可能か? | 朱 以 春 |
| 5) 妊娠中期に於ける人工分娩誘導法の再検討 | 畑 瀬 幸 雄 |

第14回 (28. 4. 19) 於戸畑市

- ✓ 1) 簡易なる妊娠診断法の追試成績 (ヨードチンキ法) 木下和昭
- ✓ 2) 避妊リング挿入後の経過 谷口博之
- ✓ 3) 妊娠中期に於ける人工分娩誘導法の再検討 (続) 畑瀬幸雄

第15回 (28. 9. 27) 於船小屋

- ✓ 1) 醗酵より見たる月経血の性状 馮瑞麒
 - ✓ 2) 各種静脈麻酔剤の比較 義村泰彦
- 討 論 会
- ✓ 妊産中期に於ける人工妊娠中絶法 司会 宮原通顕
 - ✓ 福岡県下に於ける実施状況報告 畑瀬幸雄

第16回 (29. 1. 24) 於福岡市

- ✓ 1) ナイトロゼン・マスタード局注の悪性腫瘍に対する臨牀的研究 松本真
- ✓ 2) 卵巣出血の二例 朱以春・的場伊都子
- ✓ 3) 後腹膜血腫の一例 朱以春・久保賢治
- ✓ 4) 未分化胚細胞腫の一例 空閑彰・安達椿一郎
- ✓ 5) 子宮外妊娠中絶時の出血型について 畑瀬幸雄
- ✓ 6) 子宮内容除去術後の異常出血の様相と原因の関係 畑瀬幸雄

第17回 (29. 5. 2) 於田川市

- ✓ 1) 液体添加に依る血液凝固の態度 馮瑞麒
- ✓ 2) 産婦人科手術時に於ける腰髄麻酔による血圧変動特に起立試験との関係について 空閑彰・安部宏
- ✓ 3) 月経性精神病の2例 畑瀬幸雄・的場伊都子
- ✓ 4) 腔内容の清浄度及び pH について 朱以春

第18回 (29. 10. 10) 於大川市

- ✓ 1) 松原氏癌反応の臨牀的価値 片淵陽一
- ✓ 2) 我が教室外来患者に於ける淋菌検出成績の推移 宗進・空閑彰
- ✓ 3) トリクロロールエチレン麻酔の臨牀経験 義村泰之
- ✓ 4) 避妊リングの功罪 畑瀬幸雄・辻嘉昌

第19回 (30. 1. 23) 於福岡市名島

- ✓ 1) ナイトロゼン・マスタード子宮腔部癌腫瘍内局注時の量的関係 松本真
- ✓ 2) 腔壁筋腫の1例 片淵陽一
- ✓ 3) 産婦人科領域に於ける日本住血吸虫症について 洪江浩・坂本英雄

第20回 (30. 5. 29) 於門司市

- | | |
|--------------------------------------|---------|
| 1) 高度貧血に対する術前治療 | 朔 芳 照 |
| 2) 「コントミン」の手術時及び癌化学療法時の副作用防止に於ける使用経験 | 森 光 敏 行 |
| 3) 吾教室に於ける腔内カンデイダの検査成績 | 角 光 勲 |

第21回 (30. 10. 9) 於田主丸町

- | | |
|-------------------------------|-------------|
| 1) 吾教室に於ける子宮筋腫の統計的観察 | 坂 本 英 雄 |
| 2) 子宮癌患者の各期に於ける癌反応(自家作製抗原)に就て | 片 淵 陽 一 |
| 3) アドレナリン並びにアドナは好酸球減少に影響を及ぼすか | 馮 瑞 麒 |
| 4) 人工的月経周期変動に関する小実験(第1報) | 朱 以 春・角 光 勲 |
| 5) 婦人神経症序説 | 畑 瀬 幸 雄 |

第22回 (31. 1. 29) 於福岡市

- | | |
|--------------------------------|-----------------------|
| 1) 皮様嚢腫より発生したと思われる卵巣癌の1剖検例 | 安 部 宏 |
| 2) 吾が教室に於ける悪性絨毛上皮腫及び胎状奇胎の統計的観察 | 朔 芳 照・片 淵 陽 一・松 本 正 敏 |
| 3) 婦人科領域に於ける沢田氏反応の意義 | 朔 芳 照 |

第23回 (31. 6. 10) 於飯塚市

- | | |
|-------------------------------|---------------|
| 1) 婦人尿内カンデイダ検出成績, 特に性器陽性例との関係 | 角 光 勲 |
| 2) 月経周期の人工的移動に関する小実験(第2報) | 朱 以 春・古 賀 英 敏 |
| 3) クロールプロマジンの性周期に及ぼす影響 | 森 光 敏 行 |

第24回 (31. 9. 30) 於久大

- | | |
|---------------------------------|---------|
| 1) 人工妊娠中絶後の初回月経発来の時節 | 岩 橋 信 夫 |
| 2) 日本住血吸虫症患者の産婦人科的観察 | 坂 本 英 雄 |
| 3) 子宮癌患者に於ける尿中17-Ketosteroidの消長 | 空 閑 彰 |
| 4) 外陰部に脱出せる巨大子宮腔部筋腫 | 角 光 勲 |
| 5) 副胎盤の一例 | 岸 川 政 雄 |

第25回 (32. 1. 27) 於九大

- | | |
|-------------------------------------------------|---------------|
| 1) Ehrlich腹水癌に及ぼすアンドロゲン及びエストロゲンの影響 | 駒 井 義 治 |
| 2) 各種制癌剤のEhrlich癌に及ぼす影響に就て | 安 部 宏 |
| 3) 広汎性子宮全剔出術後発生せる手拳大リンパ嚢腫の1例 | 中 野 和 一 郎 |
| 4) 急速静脈麻酔について | 朱 以 春・安 藤 嘉 寿 |
| 5) 抗生物質療法に伴う腔内及び尿内カンデイダの消長並びに抗生物質のカンデイダ発育に及ぼす影響 | 朱 以 春・角 光 勲 |

第26回 (32.9.29) 於八幡市

- 1) 生後2ヶ月女児後腹膜下嚢腫の1例 平田尚志・佐野久弥太
- 2) 3才女児に発生したトリコモナス膀胱炎と感染源追求並に治療 岸川政雄
- 3) 人工妊娠中絶後の月経状態について 空閑彰・岩橋信夫

第27回 (33.1.26) 於九大

- 1) 各種ホルモンの腔トリコモナスの繁殖に及ぼす影響 岸川政雄
- 2) コントミンによる和痛分娩 佐野久弥太
- 3) 17才女子に発生せる卵巣癌の1例 大田重勝

第28回 (33.10.12) 於直方市

- 1) クロールプロマジンの家兎子宮運動に及ぼす影響 佐野久弥太
- 2) 産婦人科領域に於けるコンドロイチン硫酸の応用 朱以春・松尾正之
- 3) アトニン0点滴注射による分娩誘導法について 空閑彰・大田重勝・野田制
- 4) 完全重複子宮妊娠の興味ある1例 池田勻・徳安雪子

V 九州医学会総会

第52回 (27.10.25) 於鹿児島

- 1) 成人女子の副腎皮質機能に就いて 朱以春・的場伊都子
- 2) 催陣痛剤に関する知見補遺 畑瀬幸雄
- 3) 子宮位置異常の原因的考察 宮原通顕

第53回 (28.10.24) 於宮崎

- 1) ブジー挿置法のレ線学的検討 宮原通顕・空閑彰
- 2) ワゴスチグミンの臨床的価値 朱以春
- 3) 手術的侵襲の術中、術後の血液凝固に及ぼす影響(第2報) 静麻施行例 馮瑞麒

第54回 (29.11.14) 於大分

- 1) 吾が教室に於けるトリコモナス原虫検出成績 宮原通顕・朱以春・松本正敏
- 2) 添加液体水素イオン濃度の血液凝固に及ぼす影響(続報) 馮瑞麒
- 3) ナイトロゼン・マスタード、N-オキサイドの吉田肉腫に及ぼす影響 松本真

第55回 (30.10.3) 於長崎

- 1) トリコマイシン内服によるトリコモナス膣炎の治療 宮原通顕・朱以春・松本正敏
- 2) ポリサツカリード様物質を主体とする胎盤水溶性物質に依る子宮癌反応に就て 片淵陽一
- 3) 術前に於ける「アドナ」使用経験とそれに伴う好酸球の変動 馮瑞麒

第65回 (31. 10. 3.) 於熊本

- 1) 日本住血吸虫の動物性周期に及ぼす影響 宮原通頭・坂本英雄
- 2) 産婦人科手術時強化麻酔の応用経験 森光敏行
- 3) 制癌剤の毒性並にマウス悪性腫瘍に及ぼす影響について 安部宏
- 4) 子宮癌の予後と松原氏癌反応 片淵陽一

第57回 (32. 10. 19) 於九大

- 1) トリコモナス膣炎の再発に関する二・三の知見 朱以春・松本正敏・岸川正雄
- 2) 合成発情ホルモン長期間投与によるマウス子宮内膜異常増殖について 駒井義治
- 3) 過去10年間わが教室における子宮癌治療患者に関する考察 安部宏

第58回 (33. 10. 26) 於鹿児島

- 1) 術後の疲労度と尿中17-KSに就いて 空閑彰
- 2) 子宮腔部癌に合併せる気腫性膣炎の一例 朱以春・河原浩作
- 3) 子宮頸癌患者の血中遊離 Estrogen 濃度及び尿中 Estrogen 排泄量に就いて 宮原通頭・駒井義治

VI. 久留米医学会総会

第6回総会 (27. 4. 28)

- 1) 我が教室に於ける過去10年間の子宮癌患者に関する統計的観察 橋本正澄
- 2) ワゴステグミンのマウス性週期, 卵巣及び子宮に及ぼす影響 朱以春

第7回 演題なし

第8回 演題なし

第9回 演題なし

第10回 (31. 4. 28)

- 1) 子宮癌に対する自家作製抗原皮内反応の応用価値 片淵陽一

第11回 (32. 4. 28)

- 1) 人胎盤水溶性物質に依る子宮癌特異反応の本態 片淵陽一
- 2) Trichomonas Vaginalis の抵抗性に関する2, 3の実験 朱以春・松本正敏
- 3) 日本住血吸虫症の月経, 分娩並に新生児の発育に及ぼす影響 宮原通頭・坂本英雄

第12回 (33. 4. 28)

- 1) 経血の非凝固性 岸正人
- 2) Ehrlich 癌細胞発育に及ぼす性ステロイドの影響 駒井義治
- 3) 海外視察談 (特別講演) 宮原通頭

VII. 産婦人科学教室同門会

第6回 (27. 11. 16) 附属病院臨床講堂

- | | |
|------------------------------------|--------------|
| 1) 肝臓障碍について | 松浦朔郎 |
| 2) 血清蛋白沈降反応よりみたる疲労に就て | 加藤栄朗 |
| 3) 久留米市に於ける産児の性比について | 森藤栄一 |
| 4) 一侧卵巣剔除後の胎性について | 朔芳照 |
| 5) 産婦人科手術時の出血量について | 福島正名 |
| 6) 月経に関する二三の調査について | 橋本武彦 |
| 7) デビイス氏癌反応について | 空閑彰 |
| 8) 成人女子の流血中好酸球の変動並にその意義に就いて | 朱以春
的場伊都子 |
| 9) 鶏胚臍帯の透過性に関する実験組織学的研究 | 川原賢悟 |
| 10) 日本人胎児各期及び成人に於ける卵管の血管分布機構に関する研究 | 嘉村浩治 |
| 11) 突発不明死を来した外陰部転移癌の一例 | 安達椿一郎 |
| 12) 妊娠中毒性肺水腫の一例 | 森山正種 |
| 13) 吾が教室に於けるビオゲラチン応用成績について | 曾根確郎 |
| 14) 全身水腫を伴える急性羊水過多症 | 宮原泰之 |
| 15) 頑固な腹痛を伴える妊娠悪阻の一例 | 幾島栄三郎 |
| 16) 人工妊娠中絶により誘発されたる精神病例に就いて | 岩橋信種 |
| 17) 腹壁腸管月経瘻の一治験例 | 萩尾右蔵 |
| 18) 卵管による鼠蹊ヘルニヤの一例 | 松尾哲夫 |
| 19) 最近経験せる2, 3の臨床例 | 平野覚 |
| 20) 子宮腔部結核に対するイソニコチン酸ヒドラジツトの局所応用経験 | 近藤忠七 |
| 21) 不妊を訴えし性器子宮結核患者の手術例 | 中村研一 |
| 22) 小倉に於ける業態婦人の性病罹患について | 河井敏夫 |
| 23) 卵胞出血の一例 | 郷司研一 |
| 24) 各種子宮収縮剤の特長とその臨床的応用について | 畑瀬幸雄 |
| 25) 臨床鎖談 | 向井治雄 |
| 26) 子宮位置異常の原因的考察 | 宮原通顕 |

第7回 別府の中国九州連合地方部会の為中止

第8回 (29. 11. 28)

- | | |
|-------------------------|---------------------|
| 1) 腔清浄度と腔内容のPHに就て | 朱以春
○松本正敏 |
| 2) 産婦人科領域に於ける日本住血吸虫症に就て | ○渋谷江浩
福本英雄
島勉 |
| 3) 産婦人科領域に於けるカンテイタ症に就て | 角光勲 |
| 4) 前癌変化に就て | 森光敏行 |

- | | |
|---------------------------------------|---------------------------|
| 5) 昭和22年以降の吾教室子宮癌入院患者に関する各種調査並に遠隔治療成績 | 安 部 宏 |
| 6) 卵巣畸形腫に就て | 辻 嘉 昌 |
| 7) 松原氏癌反応追試成績 | 片 淵 陽 一 |
| 8) 後腹膜血腫の一例 | 朱 以 春
○久 保 賢 治 |
| 9) ナイトロゼンマスタードの子宮腔部癌腫瘍内注入に於ける実験的臨牀的研究 | 松 本 真 |
| 10) ブージー挿入法に就て | 宮 原 通 顕
○空 閑 彰 |
| 11) スパチームの人生体子宮に対する作用並にその臨牀的応用 | 朱 以 春 |
| 12) 人工妊娠中絶術の後遺症に就ての再検討 | 畑 瀬 幸 雄 |
| 13) トリクロールエチレン麻酔の臨牀経験 | 幾 島 栄 三 郎 |
| 14) 興味ある胎盤癒著の一例 | 小 島 満 義 |
| 15) 吾が教室に於けるトリコモナス原虫の検査成績 | 宮 原 通 顕
○朱 松 本 以 正 春 敏 |
| 16) 初期人工妊娠中絶術の変法 | 中 村 研 一 |
| 17) 卵管造影術時にモルヨドール血管侵入の臨牀例 | 宮 原 泰 之 |

座 談 会 ヲ産婦人科よもやまばなし

- | | |
|----------------------|---------|
| 1) 肺結核療養中の婦人に於ける不正出血 | 畑 瀬 幸 雄 |
| 2) 外陰部そう痒症 | 宗 進 |
| 3) 子宮腔部糜爛の治療 | 神 山 光 補 |
| 4) 卵管性不妊に対する施術法 | 畑 瀬 幸 雄 |
| 5) 胎盤漿とは | 天ヶ瀬 憲 治 |
| 6) 人工流産時の麻酔 | 神 山 光 補 |

第9回 (30.11.20)

- | | |
|------------------------------------|---------------------------|
| 1) 我が教室に於ける「カンデイダ」の統計的観察 | 角 光 勲 |
| 2) 我が教室に於ける「トリコモナス」の統計的観察 | 宮 原 通 顕
○朱 松 本 以 正 春 敏 |
| 3) 子宮癌診断用としての自家作製抗原 | 片 淵 陽 一 |
| 4) 産婦人科領域に於ける沢田氏反応の意義に就いて | 朔 芳 照 |
| 5) 産婦人科領域に於ける「17-Ketosteroids」に就いて | 空 閑 彰 |
| 6) 産婦人科領域に於ける「アドレナリン」酸化成体の使用経験 | 馮 瑞 麒 |
| 7) 体腔管レントゲン照射に就いて | ○渋谷 江 浩
古 賀 英 敏 |
| 8) 鹿児島県一孤島に於ける産婦人科患者の統計 | 宮 原 通 顕
○坂 本 英 雄 |
| 9) 卵巣癌の二例 | ○松 本 正 敏
古 賀 企 図 志 |
| 10) 我が教室に於ける子宮頸癌治療成績 | 安 部 宏 |

- | | |
|-------------------------------------------------|------------------------------|
| 11) 「ヒステロスコピー」の子宮腔内所見 | 堀 昭 夫 |
| 12) 8-Azaguanin及びSarkomycinの毒性並びに「マウス」性周期に及ぼす影響 | 安 部 宏 |
| 13) 無脳児の産科学的統計 | 駒 井 義 治 |
| 14) 「トロホプラスチン」による乳汁分泌不全の治療例 | 朱 堀 以 春
○有 吉 昭 夫
公 |
| 15) 低置胎盤による分娩障碍の一例 | 朱 堀 以 春
○平 田 尚 志 |
| 16) 人工的月経周期の移動に関する小実験 | 朱 堀 以 春
○角 光 勲 |
| 17) 「トリコマイシン」の内服による「ト」膣炎の治療 | 宮 原 通 顕
○朱 本 以 正 春
松 敏 |
| 18) 手術時「クロルプロマジン」の使用経験 | 森 光 敏 行 |
| 19) 附属器腫瘍の三例 | 白 水 博 信 |
| 20) 頸管に発生した所謂異所絨毛上皮腫を思はるる一例 | 荻 尾 右 蔵 |
| 21) 巨大児分娩の一例 | 池 尻 泰 一 郎 |
| 22) 妊娠中毒症(黄疽)を伴える一時性精神異常の一例 | 郷 司 研 一 |
| 23) 産婦人科領域に於ける「ワゴステグミン」の作用に関する基礎的並びに臨床的研究 | 朱 堀 以 春 |
| 24) 婦人神経症の理論と実際 | 畑 瀬 幸 雄 |
| 25) 巨大卵巣嚢腫手術時シヨック死の検討 | 宮 原 通 顕 |
| 座 談 会 (臨床よもやまばなし) | |
| 1) 産婦人科領域に於ける「クロルプロマジン」如何に使われているか | 岩 橋 信 種 |
| 1) 人工妊娠中絶後の遅発性大出血について | 浜 井 啓 一 |
| 1) 人工流産後の遅発性出血(失敗談) | 宮 原 泰 之 |
| 1) 乳腺腫瘍の取扱いは如何にすべきか | 畑 瀬 幸 雄 |
| 特 別 講 演 | |
| 1) 日本最南端小島の診療報告 | 宮 原 通 顕 |
| 第10回 (31.12.9) | |
| 1) Ehrlich 癌に及ぼすステロイドホルモンの影響 | 駒 井 義 治 |
| 2) 子宮癌患者血清蛋白の変化に就て | 堀 昭 夫 |
| 3) 各種制癌剤のEhrlich癌に及ぼす影響に就て | 安 部 宏 |
| 4) 子宮癌の予後と松原氏癌反応に就て | 片 淵 陽 一 |
| 5) 子宮癌患者硬「レ」線照射のドナジオ越智反応に及ぼす影響,特に逐時的变化に就て | 朔 芳 照 |
| 6) 産婦人科領域に於ける17K・Sに就て | 空 閑 彰 |
| 7) 膣酸性度を中心とした2, 3の総合関係に就て | ○馮 瑞 麒
松 本 正 敏
角 光 勲 |
| 8) わが教室に於けるトリコモナス原虫の駆除成績 | 朱 堀 以 春
○松 本 正 敏 |

- | | |
|----------------------------------------------------------|---------------------------|
| 9) トリコモス膣炎の再発に関する 2, 3 の考察 | ○朱松 以本 正敏 春敏 |
| 10) ホルモンの膣トリコモナスに及ぼす影響 | ○朱岸 以川 政雄 春雄 |
| 11) Chlorpromazine の下垂体副腎皮質に及ぼす影響 | 森光 敏行 |
| 12) 抗生物質療法に伴う膣内及尿内カンディダの消長並びに抗生物質及び各種薬剤のカンディダ発育に及ぼす基礎的実験 | 朱角 以光 春勲 春勲 |
| 13) 日本住血吸虫症患者の産婦人科的観察 | 坂本 英雄 |
| 14) 日本住血吸虫症の産婦人科領域に於ける実験成績 | 坂本 英雄 |
| 15) 女性不妊症の外来統計 | ○平田 尚志 志太
佐野 久弥 |
| 16) 優性手術に就ての統計的観察 | ○空閑 彰
安部 宏 |
| 17) 教室に於ける男性ホルモンの応用成績 | 朱本 以村 春
○大田 重 彰勝 |
| 18) 環境の変化による月経周期の変化 | 朱古 以賀 春
○中野 和一 敏郎 |
| 19) 妊娠中絶後に於ける月経発来の時期並にその他 2, 3 の観察 | 岩橋 信夫 |
| 20) 3 例の未熟児哺乳の経験 | ○井上 晋
平田 尚 晋
久富 武 博 |
| 21) 副胎盤の一例 | 岸川 政雄 |
| 22) 静脈麻酔に於ける一新考按 | 朱安 以藤 春
○安藤 喜 寿 |
| 23) 広汎性子宮全剝出術後発生せる手拳大リンパ嚢腫の一例 | 中野 和一郎 |
| 24) 嚢腫性筋腫の一例 | ○平田 尚志
武田 良 一 |
| 25) 先天性陰閉鎖症の一例 | ○井上 晋
久富 武 博 |
| 26) 外陰部及び肺転移を来した悪性絨毛上皮腫の一例 | 角光 勲 |
| 27) 外陰部に脱出せる子宮腔部筋腫の一例 | 角光 勲 |
| 28) 婦人科手術時のカクテル麻酔の応用 | 森光 敏行 |
| 29) わが教室に於ける子宮頸癌治療成績 | 安部 宏 |
| 30) 子宮癌術後に於ける脳栓塞の一例 | 渋江 浩 |
| 31) ニ卵性双胎に於ける一胎奇形の一例 | 五十嵐 啄磨 |
| 32) 間質部妊娠の二例 | 宮原 泰之 |
| 33) 瘧毒に就いて | 岩橋 信種 |
| 34) 種々の合併症を有する手術経験例 | 浜口 久明 |
| 35) 無痛分娩の経験 | 中村 研一 |
| 36) 卵巣出血例に就て | 桑野 稔 |

- | | |
|-------------------------------------|-------------------------|
| 37) 子宮破裂の一例に就て | ○佐々木浩之
福島正明 |
| 38) B.B.T. 臨床応用例の体験 | 久保山浩秀 |
| 39) コントミン, ブスコパン注射, ラボナ錠服用による分娩について | 松尾正之 |
| 40) 二, 三疾患に対する新治療法の経験と批判 | 宗進 |
| 41) めずらしい胎盤異常の一例 | 牛島始 |
| 42) 子宮癌に対する CO ₆₀ 照射療法 | 宮原教授 |
| シンポジウム | |
| 月経周期の人工移動に就て | 司会 畑瀬幸雄 |
| 1) 月経周期の人工移動に関する文献的考察 | 宗進 |
| 2) ホルモンによる月経周期の移動 | 朱角以春
古賀英敏 |
| 3) 乳酸カルシウムによる月経周期の移動 | ○古賀英敏
古賀吉敏
古賀企図公志 |
| 4) ホルモンによる月経周期の移動 | 中村研一 |
| 5) 月経周期の人工移動に就て | 松本真 |
| 6) 月経周期の人工移動についての色々の問題 | 畑瀬幸雄 |
| 第11回 (33. 11. 16) | |
| 1) 腹膜偽粘液腫の2例 | ○朱宮以春
空閑重彰
大野田重勝 |
| 2) アトニン0点滴注射による分娩誘導法について | ○中村隆輔 |
| 3) 高年胎状鬼胎の1例とその文献的考察 | 池田雪子
○徳安雪子 |
| 4) 完全重複子宮妊娠の興味ある1例 | ○西岸島重次
久富武博
武田良一 |
| 5) 我が教室に於ける未熟児哺育例について | 大田重勝 |
| 6) ブレンネル氏腫瘍の1例 | 佐野久弥太 |
| 7) パパニコロー氏染色法による子宮癌患者の予後判定について | 駒井義治 |
| 8) クロールプロマジンによる無痛分娩並に動物実験 | 角光敏 |
| 9) 子宮頸癌のエストロゲン代謝機能 | ○森光敏行
古賀企図志 |
| 10) 品胎分娩の1例 | 安部宏 |
| 11) 強化麻酔の副作用について | 空閑影 |
| 12) 我が教室に於ける子宮頸癌治療の現況 | 朱江以春
河口原博浩
河原浩之作 |
| 13) 術後の疲労度と尿中17-KSについて | |
| 14) 子宮腔部癌に合併せる気腫性腔炎の1例 | |

- | | | | |
|---------------------------------|------|------------|-----|
| 15) 3才の少女に発生せるトリコモナス膀胱炎の1例 | 朱松岸 | 以正政 | 春之雄 |
| 16) 産婦人科領域に於けるコンドロイチン硫酸の応用 | 朱 | 以 | 春 |
| 17) 凝血因子カルシウムの代謝からみた止血剤の作用機転 | 川 | 副良弘 | |
| 18) 手術時ノブロン注の使用経験 | 堀 | 昭夫 | |
| 19) カチーフの卵巣に及ぼす実験的研究 | 田 | 辺厚 | |
| 20) 妊娠悪阻に対するグロンサン糖の効果について | ○花 | 淵陽一
田長雄 | |
| 21) 膣トリコモナスの基礎的並に臨床的研究 | 岸 | 川政雄 | |
| 22) 子宮内外妊娠の1例 | 古 | 賀英敏 | |
| 23) 月経血のエストロゲンについて | ○岸 | 正人 | |
| 24) 妊娠腎に対するダイヤモツクスの効果 | 松 | 本真 | |
| 25) 肝機能障害時に於ける家兎妊娠子宮運動について | 岩 | 橋信夫 | |
| 26) アブレル氏人工妊娠中絶法の副作用に関する実験的研究 | 松 | 尾正之 | |
| 27) 日本住血吸虫症の産婦人科領域に及ぼす影響 | 坂 | 本英雄 | |
| 28) トリコモナス膣炎は何故再発し易いか? | ○朱松岸 | 以正政 | 春敏雄 |
| 29) 妊娠2ヶ月で両側卵巣嚢腫摘出後正常分娩せし1例 | ○朔本 | 芳照
村彪 | |
| 30) 人工流産後の遅発子宮出血の1例 | 渋 | 江浩 | |
| 31) 最近2年間当科に於ける腰痛症の分類と治療について | 五十 | 嵐啄磨 | |
| 32) ラミナリマ偶発症二例 | 浜 | 口久明 | |
| 33) 手術時に於けるクロールプロマジンとラボナールの併用麻酔 | 幾 | 島栄三郎 | |
| 34) 無排卵性月経に対する甲状腺剤療法 | 久 | 保山浩秀 | |
| 35) 臨床鎖談 | 宗 | 進 | |
| 36) 双角子宮に於ける卵管結紮後に起りし卵管妊娠の一例 | 郷 | 司研一 | |
| 37) 外妊診療に關しての所感 | 畑 | 瀬幸雄 | |
| 38) サドルプロツク麻酔の実験例 | 桑 | 野稔 | |
| 39) 品胎分娩の経験 | 牛 | 島始 | |
| 40) 産婦人科領域癌患者に対する組織水溶性物質皮内反応の研究 | 片 | 淵陽一 | |
| 41) 産婦人科領域に於ける血液凝固の研究 | 馮 | 瑞麒 | |

特別講演

『産婦人科医の将来』

宮原教授

§ 学位論文通過者氏名及び論文題目

- 朱 以 春 産婦人科領域に於ける Vagostigmin の作用に関する基礎的研究並に臨床的応用
通過年月日 昭和30年11月25日
- 馮 瑞 麒 産婦人科領域に於ける血液凝固の研究
通過年月日 昭和32年 8 月21日
- 片 淵 陽 一 婦人科領域癌患者に対する組織水溶性物質皮内反応の研究
通過年月日 昭和33年10月22日

§ 文部省科学研究費各研究助成金被交付者氏名及び研究題目

- 昭和 28 年度 2 万円
畑 瀬 幸 雄 妊娠中期に於ける人工分娩誘導法に関する実験的並に臨床的研究
- 昭和 29 年度 2 万円
朱 以 春 産婦人科領域に於ける Dimethylcarbaminsäure ester d·m-oxyphenyl trimethylammonium-methylsulfats の作用に関する臨床的並に実験的研究
- 昭和 32 年度 18 万円
宮 原 通 顕 子宮癌に及ぼす性ホルモンの態度
- 昭和 33 年度 20 万円
宮 原 通 顕 子宮癌に及ぼす性ホルモンの態度

※ 調査不行届につき間違い、あるいは漏れがありましたら至急教室迄御知らせ下さい。

※ 昭和25年以前の分は「久留米医科大学産婦人科同門会会員名簿1950年12月発刊」を御参照下さい。

日本で最初の

イチレンイミン系抗腫瘍剤

社会保険採用

チオパミン

(Thio-TEPA) 製法特許

包装

注射液 (蒸溜水付) 5mg×5A
注射液 5mg×50A
錠 2mg×30錠 100錠

新薬価基準・点数(34.3)

注射液 (5mg)		甲表	乙表の一	乙表の二
皮下 筋注	18点	24点	23.6点	
静注		27.4点	26.7点	
単位当 180円20				

適応症

- ★白血病 (慢性骨髄性、亜急性骨髄性、慢性リンパ性)、赤血球過多症
- ★ホジキン氏病
- ★リンパ肉腫、細網肉腫
- ★乳糖、肺癌
- 以上の自覚的並びに他覚的症狀の緩解



大阪市東区北浜五
住友化学工業株式会社

十周年記念講演会抄録

1) 腹膜偽粘液腫の2例

教室 宮原 寧

腹膜偽粘液腫は1884年、Werthにより初めて命名報告された疾患である。

本症は嚢腫を形成する比較的稀な疾病であり、再発し易く、多房性の嚢腫は非常に菲薄で、帯黄白色、粘液膠状の内容を有する特徴を有するものである。

最近教室に於いて、其の2例を経験したので報告する。

患者、38才、及び60才の女性。主訴、下腹部膨隆圧迫感。診断、共に卵巣原発性の腹膜偽粘液腫。前者は剥出不能、後者は粘液腫及び右卵管卵巣を剥出。術後、両者共にコバルト遠隔照射、レ線照射、その他制癌剤を使用し、前者は一時主訴軽快した。然し両者共に約一乃至二ヶ月後には、再び術前と同様の症状を呈した。其の後の予後不明なるも、不良の経過を辿っているものと思はれる。

2) アトニン0点滴注射による分娩誘導法について

教室 空閑 彰・大田重勝・野田 制

初産婦30例、経産婦16例に対し、分娩誘発及び陣痛促進の目的でアトニン0、5国際単位を5%ブドウ糖250cc、又は10国際単位を5%ブドウ糖500ccに溶解、1分間30滴乃至60滴の速度で調節注射し陣痛促進の目的で施行した16例では初産婦、経産婦共に全例有効、平均4.6単位で陣痛促進に成功した。陣痛誘発例では30例中初産婦3例に失敗、経産婦1例に不確実であった外は5乃至10単位の使用で10時間から20時間で陣痛誘発に成功した、その中6例の妊娠腎患者を含んでいるが、いずれも血圧の変動もなく有効であった。子宮口閉鎖例では前日ラミナリヤ桿を挿入し子宮口の開大を計った後、点滴施行した。副作用としては何ら児心音の悪化もなく、何ら著変を認めなかつた。1例に於て胸内苦悶を認めた。子宮口二指半乃至三指開大以上のものに有効なものが多かつた。しかし頸管の拡張度と娩出迄の時間には特に関係が深いとは考へられなかつた。出血量も正常範囲で、2例に於いて弛緩性出血を認めた。陣痛誘発及び促進有効例では1時間乃至10

時間で2単位乃至10単位を必要とした。

3) 高年胞状鬼胎の一例

教室 中村 隆 輔

51才1ヶ月の胞状鬼胎を経験したので茲に報告する。本症の発生は妊孕力の旺盛な性成熟期に多いが諸家の報告によれば40才以上の婦人に比較的多く発生している。欧米でも比較的高年者に多いと云はれ、Seitzによると25%は40~45才、Essen-Mollerは20~44%は40~45才に、36%は45才以上である。本邦では小笠原は37.8%は40~50才であると報告し、三宅は40才以上は13%、20~30才は最も多く半数を占めると報告している。

各年令群に於ける正常分娩数に対する鬼胎数の比は小笠原に依れば20才未満に0.08%、20~30才に0.06%、30~40才に0.16%、40~50才に2.4%であり、鬼胎の実数に於ては妊娠率の高い性成熟期に多いが頻発するとは言えず、むしろ高年者の妊娠例に鬼胎が頻発すると言う事が出来る。東大最近10年間に於ける72例中では41~50才は25%を占め岡大(八木)17年間56例に於ても25%である。

而し乍ら50才以上の高年婦人となると妊娠が比較的稀れであり、鬼胎に於ては尚更の事である。Reeb 53才、Feeders 55才、Calltozollo 56才の各1例を報告し、Hitzmannはドイツ文献より50才以上を20例集め得た。本邦では小笠原 52才、小谷 53才、万蔵 53才、木村 52才、土井 52才、石比 52才、柴生田 55才、今村 53才等の報告があげられるが萩野によれば50才以上は1.5%であるとしているので今回の症例も珍稀の1例として報告する次第である。

4) 完全重複子宮妊娠の興味ある1例

教室 池田 勻・久留米 徳安雪子

28才の初産婦で完全重複子宮を有し、左側子宮よりは最終月経後第26週目に恰も流産様の症状を呈し、胎盤様の組織塊が排出され、右側子宮では妊娠第37週迄持続した後早期破水を来し、内診により自然分娩の遂行不可能なことを確認したので直ちに帝王切開を行い

生児を得た。術後は母児共に経過順調にして術後15日目に退院。尚本例では妊娠20週頃より妊娠腎を併発し、尿蛋白強陽性、血圧158~98mmHgであつたが術後は尿蛋白陰性、血圧128~86mmHgとなつた。左側子宮より排出された胎盤様物質は組織学的検査の結果著明に増殖し脱落様変性を来した子宮内膜であることが解つた。本例の様に完全重複子宮妊娠にて帝王切開により生児を得たものは稀にして興味あるものと思われる。

5) 吾が教室に於ける最近の未熟児 哺育例について

教室 西島重次 岸川政雄

未熟児問題は母子衛生中の一部門であり、且つ予防医学にも関連し、最近医学界に一重要課題として注目されている。現今哺育法は相当進歩せるも、尚一般的に極めて困難である。吾々は生下時体重1000g乃至1840gの未熟児7例にたいし、保育器内収容、O₂吸入、強制栄養並にその他補助療法を併用して哺育に成功した。

6) ブレンネル腫瘍の1例

教室 久富武博・武田良一

卵巣に発生するブレンネル腫瘍は、その特異な組織像により19世紀末より着目されていたが、その発生頻度の低率と肉眼的に線維腫との区別困難なるため、屢々看過され報告例は未だ少く、本邦に於いて20例に満たない。最近本腫瘍の1例を経験したのでここに報告する。

症例は62才、8回経産婦、50才で閉経す。下腹部の膨隆と性器不正出血を主訴とす。右卵巣充実性腫瘍の診断のもとに手術施行す。剔出標本は18×15×12cm一部囊腫性の卵巣充実性腫瘍なり。組織学的には、右卵巣ブレンネル腫瘍(I型)であつた。

7) パパニコロー染色法による子宮 癌患者の予後判定について

教室 大田重勝

本科に入院せる子宮頸癌患者からの腔内容を採集し、腔上皮細胞の放射線性変化を観察し予後の推定を試みた。

腔上皮細胞の変化は放射線療法の種類、治療期間、各個人によつて放射線の感受性を異にするが、大体治療開始後20日目頃より細胞の形態的变化が現れた。即ち細胞変形、細胞質膨大、空胞形成、多核細胞出現、核崩壊等の変化を認めた。又根治手術患者、クレニツヒ手術患者及び手術不能患者に於て夫々細胞の放射線性変化を比較した場合、前者に於ては高度の感受性を認め、後二者に於ては大した感受性は認められなかつた。

8) クロールプロマジンによる無痛 分娩並に動物実験

教室 佐野久弥太

当大学産院に於て入院分娩を行つた妊娠35~43週の初産婦36、経産婦28、計64例に、子宮口3指開大を目標として、C.P.剤筋注による無痛乃至和痛分娩を試み、著効11例、有効25例、稍々有効14例、無効14例を得た。即ち有効例は50例(78.75%)であつたが、4例に死産を認め、15例は鉗子分娩術を行つた。

C.P.剤投与によつて、陣痛発作消失(10.94%)、発作短縮(12.5%)、間歇延長(17.9%)等が現われ、為に鉗子術の必要が生じて来るが、小畑氏の(3.6%)に比し著しく大きい。然しC.P.投与の為に児の仮死が増加する傾向は無い様である。分娩時出血量(平均281.2cc)は稍々増加の傾向がある。

生体家兎子宮を用いてC.P.の子宮運動に及ぼす影響をみると、非妊家兎ではC.P.5mg/kg程度では運動数減少のみが明かであるが、妊娠及流産途中の家兎では明かなる収縮力の減退が同時に現われる。

9) 子宮頸癌のエストロゲン代謝機能

教室 駒井義治

Estrogen(E)は炭水化物系或いはアゾ色素系発癌剤の如き、それ「自身」のみに依る発癌作用はないものと推察されるが、癌細胞発育に対しては、或る一定期間は発育を促進せしめる事が認められた。上記の如き作用を有するEが子宮頸癌患者に、いかなる状態で存在するかを検討する為、頸癌患者のE代謝機能を測定したので茲に報告する。

頸癌患者の血中遊離E濃度及び尿中E排泄量は共に非癌婦人に比べ高E活性度状態を呈して居り、尚尿中E排泄量増加は主としてEstradiol(ED)分割の増加に依る事が認められた。頸癌患者のE処理機能はED

より Estrone (EO) 更に Estriol (ET) への代謝
 転化障害が認められ、特にEDよりETへの転化障害
 の著しい事が認められた。此のE代謝障害は癌進行度
 の進むにつれて著しくなる。

頸癌患者は非癌婦人に比べてEが多く、而かもその
 中特にEDの多い事はEDの増殖刺激作用がEOの10
 倍、ETの20倍以上強力な事から考え頸癌細胞の発育
 に対し促進的に作用し頸癌を悪化せしめ、その為に更
 にED分割が多くなるという悪循環を形成するものと
 思われる。

10) 品胎分娩の一例

教室 角 光 勳

妊娠7ヶ月。羊水過多症、妊娠腎を伴った一卵性品
 胎分娩の一例を経験した。

800gr, 600gr, 600grの女児で、分娩後まもなく死
 亡した。

母の分娩後の経過は良好で、分娩後13日目に退院し
 た。

本例では多胎の遺伝的關係は認めなかつた。

11) 強化麻酔法の副作用について

教室 森光敏行 古賀企図志

クロールプロマジンによる強化麻酔法は今日広く応
 用されているが、最近術前諸検査で異常所見を認めな
 かつた61才の子宮癌患者にカクテルM₁ 50mg 投与後
 10分位で睡眠状態となり、血圧下降、呼吸数減少と共に
 顔面チアノーゼを呈し、脉搏頻数、高度の不整脈を
 発生した。強心剤、テラプチック、ノルアドレナリン
 等の投与により約1時間後に回復し、その後特別の異
 常なく広汎性子宮全剝出術を施行し得た。本麻酔法に
 よる血圧下降、頻脈、心悸亢進、呼吸異常等は常に経
 験するが孰れも軽度で今日迄本症例の如き重篤な副作
 用の発生を経験しなかつた。吾々は本剤の副作用防止
 策として、本剤使用時は、感受性の個人差、又年令、
 疾病等により使用量を加減し、通常2回に分割投与し
 ている。而も麻酔効果は顕著である。然し尚本症例の
 如き副作用の発生を見るので使用時には常に周到な注
 意を要する事を強調したい。

12) 我が教室に於ける子宮頸癌治療 の現況

教室 安 部 宏

過去11年間、我が教室に於ける子宮頸癌治療が如何
 に行われ、又如何なる治療成績を挙げているかについ
 て略述する。

昭和22年より同32年迄の治療患者は636名（I期180、
 II期221、III期201、IV期34名）で、うち346名（54.4
 %）に手術が行われた。

過去11年間、手術（広汎性子宮全剝出術+後放射）
 並に放射線療法は、依然として頸癌治療の主流をなし
 今日に及んでいるが昭和28年より症例に応じて、ナイ
 トロミンその他の抗腫瘍製剤が併用され、又昭和31年
 より、一部の症例にクレーニツヒ氏手術が施行され、
 更に最近ではレ、ラに加うるにCO⁶⁰による治療が漸
 次試みられるに至っている。

治療開始後満5年を経た昭和22年より、同27年に至
 る6年間の患者244名中、永久治癒せるものは107名
 （43.9%）であり、進行期別にみるとI期68.6%、II
 期52.9%、III期28.4%、IV期0%である。又昭和28年
 以降の2年乃至4年治癒率を前者（昭22~27年）のそ
 れと比較すれば総体的に治癒率向上の傾向を示してお
 り、今後更に優秀な治癒成績が得られるものと予測さ
 れる。

13) 術後の疲労度と尿中17-KSに 就いて

教室 空 閑 彰

術後の尿中17-KSの消長に就いては、既に多くの
 発表がある。手術侵襲の大小が、尿中17-KS排泄に
 いかなる影響を与えるかに就いて、術後の疲労度測定
 をなし同時に17-KSの測定をなし、同時に尿量及び
 尿比重の変化をも検討した。その結果、疲労度の高低
 は尿中17-KSの消長に余り影響しない。換言すれば
 手術侵襲の大小は副腎皮質機能に余り影響しない事を
 知った。

尿比重は第1日目が最高で次第に減少6日目に於て
 術前に復した。

尿量は第1日目最低となり、2日目より増加し、6
 日目に於て正常値となつた。

14) 子宮腔部癌に合併せる気腫性膣炎の一例

教室 朱以春・江口博之・河原浩作

気腫性膣炎は稀有な疾患で臨牀的には良性の経過をたどるので左程重要視されていないが、発生原因並に病理組織学的に興味があると思われる。

症例は33才、5回経産婦、後腹膜悪性腫瘍手術後15日目に血性帯下に気付く、排尿排便時に増量するという主訴で来院す。

全身状態が少々衰弱し、家族歴として母が胃癌で死亡している外は特記すべきことはない。

局所所見は子宮腔部著しく糜爛し、接触によつて容易に出血す。腔壁上半分より腔穹隆にかけ無数の小隆起を認め、著しく粗糙で所所に米粒大乃至それ以下の空胞が認められ、圧潰によつて音を立て、ガスが出る。

この部分の組織学的所見は上皮及び上皮下に空胞形成が認められ、空胞の周囲は所謂壁の形成がなく、円形細胞や少数の巨大細胞によつて囲まれている。間質部に軽度の炎症細胞の浸潤を認める。

腔内細菌検査で腔トリコモナス、ブドウ状球菌、グラム陽性桿菌、グラム陽性双球菌が多数に認められた。

毎日腔洗後トリコマイシンK2錠を挿入し、外陰部にもトリコマイシンK末を撒布した。

治療により局所所見は急速に好転し、2週間後には腔壁は全く平滑となり、1月半後には前後唇の腔部糜爛も著しく好転し、数個のOvula nabotiを残すまでに治癒せるも右唇は却つて潰瘍性となり、境界が一層明瞭となつて来た。組織検査によりこの部は基底細胞癌であることが分つた。

腔内細菌叢は治療により減少し、一時緑膿菌が出現したが、ブドウ状球菌とグラム陰性桿菌に落ち付き、治療中止後25日目に於ても同様ブドウ状球菌、グラム陰性桿菌を認め、トリコモナス原虫は再び陽性となつた。

本疾患は稀有な疾患で、偶然に発見されることが多いとされている。

最初 Winkel によつて注意され、Kolpohyperplasia cystica と命名され、後 C. Ruge の検査によつて Bindegewebs の Spalten に Gas があることが分り、Chiari によつて Kolpitis emphysematosa と命名されたもので、本邦に於ては殆んど報告例を見ない。

発生は妊娠殊に妊娠末期に好んで発生するが、非妊

婦の本症も報告されている。

症状としては帯下の増加、膿性帯下の外は特記すべきことはなく、経過は良好で放置しても自然に治癒する。殊に妊婦では分娩後間もなく消失すると報告されている。

治療は Seitz u Amreich は妊娠末期に発生し易いから余計なことをしない方がいゝと言われている様に殆んど治療を必要としないが、治療を行うならば空胞の穿刺、腔洗滌を行う程度でよい。

空胞内のガスについては Winkel は Trimethylamine であるといふ、Klauser は酸素と窒素との混合であると言っている。

興味深いことは発生原因であるが、現在の所決定的な原因は分つていない。

Palliez は組織像より本症がアレルギー性であることを暗示していると述べ、Martius は殊にヒステリー性婦人に発生し易いと言っている。

病原菌としては Hirschmann u Lindenthal は Fränkel's Gas-Bacillen を認め、Marschall は固有層の深部まで Gram-positive Kokken を証明し、Keller の症例では少数のブドウ状球菌を認めているに過ぎない。

15) 3才の少女に発生せるトリコモナス膀胱炎の1例

教室 朱以春・松尾正之・岸川政雄

トリコモナスは1936年 Donn'e の発見以来、夥しい研究発表がなされているが、未だ未解決の問題が残っている。即ち感染経路が明らかでなく、再発し易い事である。

膀胱内の本虫侵入は再発の重要な因子の1つであり、しかもかなり高率に膀胱内寄生が認められている。しかしこれ等膀胱内侵入ト虫が単独で症状を示すことは少く、多くは、他の細菌との混合感染により症状を示す様である。我々は最近、本虫により膀胱炎を起したと思われる3才6ヶ月女児の1例を経験し、尚其の母親がトリコモナス膣炎に罹患せる事実を確かめ、同時に加療した症例を報告する。

症例は3才6ヶ月の少女で、家族歴、既往歴に特記すべきことなし。血尿の主訴を以て来院す。現病歴として32年5月初旬より数度発熱、側頸部リンパ腺の数度の腫脹あり、5月17日、腸チフスの予防注射当夜より

発熱 39°C 及び顔部以外の全身に発疹を生じ、クロマイ 1 日 250mg の内服により 3 日間で発疹消褪し、1 週間後に解熱した。その数日後より再度の発熱と共に全身に浮腫を生じ、同時に血尿を認めた。4 日程前より浮腫は消失したが、血尿は尚継続し排尿時疼痛、尿意頻数、軽度の排尿困難を訴える。帯下は認められない。

32. 6. 14. 初診。体格、発育、栄養共に中等度、扁桃腺は軽度に充血し、左側頸部に鶏卵大の淋巴腺腫脹の他は全身所見に異常なく、外陰部に充血、分泌亢進等の炎症を思わせる所見なし。カテーテル尿は混濁黄赤色、弱アルカリ性、尿蛋白中等度陽性、糖(-) ウロビリノーゲン正常、沈渣は赤血球 \pm 、白血球 \pm 、膀胱上皮細胞 \pm 、運動性ト虫 \pm 、一般細菌は単染色により認め得ない。

血液所見は白血球 16,200、赤血球 325 万、血色素 58%、白血球百分率は軽度の好酸球の増加の外は正常範囲にある。

以上の所見よりトリコモナス膣炎と診断し、内服用トリコマイシン錠 (1 錠 1 万 E) を 1 回 1 錠、1 日 4 回、4 時間毎に内服せしめた。12 錠服用で培養により陰性であったが再発を考慮して 80 錠服用せしめた。その後 1 月後の検査で尿、外陰、膣にト虫を認めなかつた。尚感染経路追究のため母及び患児の手、爪、唾液、糞便について培養を行ったが、ト虫は陰であった。母の膣は炎症々状を呈し、膣、外陰部及び子宮腔内よりト虫を検出した。恐らく母より接触感染により感染を受けたものと思われる。

尚詳細は産婦科の実際、6 巻、12 号、昭 32. を御覧下さい。

16) 産婦人科領域に於けるコンドロイチン硫酸の応用

教室 朱 以 春

コンドロイチン硫酸はヒアロン酸と共にムコ多糖類を形成し、結合織の重要構成成分をなしている。

従来結合織は単なる支持組織として以外はあまり重要視されていなかったが、最近病理組織学の新しい傾向の一つとして細胞及び線維の研究から更に進んで結合織の細胞間基質に関する研究で、結合織も単なる支持組織でなく、重要な作用を持つ一種の機器系であることが判明し、注目を浴びるに至つた。

余は結合織細胞間基質を構成するコンドロイチン硫

酸について 2, 3 の実験を試み、次の成績を得た。

1) 硬「レ」線照射患者の疲労度に及ぼす影響：「レ」線治療患者について、照射前及び後に Danaggio-Ochi 反応 (D-O 値) を実施し、その疲労度の測定により本剤使用と非使用時を比較検討した。即ち 3% コンドロン 2 cc (科研) を照射直前まで 2~4 回皮下注射した場合と非注射時との D-O 値平均は夫々照射直前 2.6、照射直後 3.2、1 時間後 2.8、3 時間後 2.6、6 時間後 2.2、及び 2.8、3.8、3.2、2.6、2.6 で本剤使用時硬「レ」線により受ける疲労度は軽微である。

2) 硬「レ」線照射患者の宿酔症状に及ぼす影響：硬「レ」線照射により発現する宿酔症状は食慾不振が最も多く、疲労感、悪心、不快感、眩暈、不眠、頭痛の順に少数となるを認めた。照射前コンドロンの使用によりこれ等大多数の症状が軽快乃至消失した。

3) 膣トリコモナスの増殖に及ぼす影響：継代培養によつて得られた純培養の膣ト虫を諸種濃度コンドロン添加の浅見培地に移殖し、その培養状態を 24 時間毎に血球計算盤で算出観察するに、コンドロン添加群は無添加群に比し、有意の差を以て著明に増殖する。即ち 20 mg 添加群では 96 時間まで急激な増殖を示すが、それ以後は少々減少をたどり、5 mg、10 mg、15 mg 添加群では 72 時間まで急激な増殖を示すが、以後は 168 時間までの観察で、増殖を殆んど認めなかつた。無添加対照群は 72 時間まで増殖し続いても、添加群に比し、その程度僅少で、以後は 168 時間までの観察で、増殖は殆んど認められなかつた。

又高圧滅菌を行わず、煮沸滅菌の浅見培地内では、コンドロンの添加により、有意の差を以てト虫の増殖が促進され、この場合血清添加省略群ではト虫の増殖が著しく悪い。即ちコンドロン添加はト虫の増殖を著しく促進するが、培地中の牛血清代用とはなり得ないことを知る。

17) 凝血因子 Ca の代謝からみた止血剤の作用機転

教室 川 副 良 弘

演者は止血剤の作用機序究明に当り、先づ (柳沢法により) 血液凝固而かも凝固三段階共に関与する血清 Ca の代謝面をとり上げ、その消長の意義を検討した所 adrenergic の場合血清総 Ca は減少し、血清透析性 Ca (広義のイオン Ca) は増加後復旧するをみ、Cholinergic の場合 - 軽度 - は血清総 Ca 及び血清透

析性 Ca 共に著変なく、Cholinergic で高度の場合は血清総、透析性 Ca 共に減少する傾向をみた。

この事実と、嘗て馮の指摘した如く、血液凝固は自律神経に左右されること、即ち adrenergic の場合は亢進し、Cholinergic の場合は低下することゝを考え併せば adrenergic 下凝固性亢進に關与するものの、1つは血清透析性 Ca であることを知りうると共に他方 adrenergic なくして凝固性改善がありえないことを識つた。

18) 手術時ノブロン注の使用経験

三菱上山田礦業所病院 堀 昭 夫

三菱上山田礦業所病院に於て、開腹術患者22例についてピラピタルとクロールプロマジン及び塩酸ジフェドラミンの配合剤「ノブロン」を基礎麻酔に使用し、術中・術後の経過観察し良好なる成績を得たので報告する。

術前1時間にノブロンB及びオピアル各1筒を上腕三角筋に注射。同様に術前15分にノブロンA1筒注射を行った。

効果判定は腰麻のみ使用せるものを対照として無効・有効・術中睡眠持続のものを著効とした。

「むすび」

1) ノブロン基礎麻酔使用により22例中91%有効と認められた。更に全症例の中54.5%は著効と認められた。

2) 血圧は10~20mmHg下降の傾向にあるが概ね一過性であつて、クロールプロマジンの含有剤として当然のことである。20mmHg以上下降の2例は共に起立性低血圧を起したものであつた。

3) 術後軽度頭痛を訴えた者6例(27.3%)が認められた。

4) 注射後口内乾燥感を訴えた者が多かつた。

5) 術中嘔吐を催したものは1例みに過ぎなかつた。

6) 注射後全身脱力感を訴えた者2例あつた。

7) 術後尿閉は全くみなかつた。

以上の事により本剤は基礎麻酔剤として充分使用価値のあるものと認められる。

19) カチーフの卵巣に及ぼす影響についての実験的研究

唐津市 田 辺 厚

1. マウスの性周期に対するカチーフの影響

A. ビタミンKの大量注射はマウスの性周期延長及び静止期の延長を来す。

B. ビタミンKの小量の注射に於ては性周期に何等の影響を及ぼさない。

C. ビタミンKの注射中止後の性周期はまもなく恢復する。

2. ビタミンKのマウスの妊娠機能に及ぼす影響。

A. ビタミンK大量注射は成熟マウスの性周期を延長し妊娠機能の減退を来す。

B. ビタミンK注射中止後は妊娠機能も次第に恢復する。

C. ビタミンKの小量注射は妊娠機能に何等の影響を及ぼさない。

20) 妊娠悪阻に対する「グロンサン糖注」の効果について

教室 片淵陽一・花田長雄

吾々は久大産婦人科及び小倉新栄病院外来を訪れた妊娠悪阻症状のある婦人50名につき、悪阻程度にかかわらず原則としてグロンサン糖(20%, 20cc)の連日1回注射し、又は若干他の薬剤を併用し、治療効果に対しては自覚的症狀の他に、他覚的表示として主として肝臓機能検査を20名に採用した。

1) 悪阻患者で全例に症状の好転をみ、治療に対して極めて有効な薬剤と考えられる。

2) 注射回数と効果の関係は2~3回頃より軽快感を訴え、わずか2回の連続投与で症状が全然消失したもののさえ6例認められた。

3) 再発再治療を行ったものは2例である。

4) グロンサン糖単独使用で効果不良の者7例に就て、更に「コントミン」注射併用を行ったもの2例、「コントミン」内服薬併用を行ったもの5例であつたが、併用すると一層の効果が挙げられる様であつた。

5) 「ウロビリノーゲン」と悪阻との関係は、治療による症状の好転と共に減少傾向を示し勿論平行しない場合もあるが、治療終了時には大体正常になつている。

21) 腔トリコモナスに関する基礎的 並に臨床的研究

福岡市 岸川政雄

腔トリコモナス「以下ト」と略す」の基礎的、臨床的研究を行い、次の結果を得た。

1) in Vitro で各種ホルモンを無菌トに添加し、Estrogen, Trophoblast-hormon, Androgenでは発育に影響なく、Progesteronは抑制し、Praehormonは促進した。

2) in Vivo で無菌ト、虫接種マウスに各種ホルモンを注射した場合、Progesteronは病理解剖並に組織的に最少の感染率、病変、ト虫数の検出を見たが、Praehormonは最高度のそれを見、Estrogenでは対照と差違はなかった。

3) 臨床的にト検出率に於て習慣性流産、卵巣機能不全、子宮内膜炎、発育不全を有するものに高率にト虫を認め、概して腔脂疳角化指数の低いものに高率であつた。

4) 治療面に於て Estrogen 及び Progesteron を使用した場合、治癒成績良く再発も有意的に少い。

5) 再発について尿路中、頸管内のト虫が再発の原因をなすことを知り、且つ子宮内膜組織内にト虫が侵入して耐久型として存在する場合もあり、之がホルモンの不足状態と相俟つて月経後の再発の有力な原因となりうると思われる。難治再発例に於て子宮内膜よりト虫を検出し、子宮腔内に対し治療をなし治癒せしめ得た。

6) 性周期により再発頻度は異なり卵巣ホルモン及び黄体ホルモンの分泌減少期に多く、充足期に少い。Gonadropin 分泌上昇期に多い。

7) 実験により卵巣ホルモンはト虫に対し直接作用はないが、間接的に腔自浄作用の促進によつて抗ト的に働き、黄体ホルモンはト虫自体に抗ト的に作用することを知つた。

22) 子宮内外同時妊娠の一例

飯塚市 古賀英敏

専攻生28才の2回経産婦で、右季肋部の激痛の為来診、初診時仰臥位不能の為腹部詳診し難く診断が困難であつたが、当時妊娠8ヶ月兼羊水過多症兼胆嚢炎の疑いで入院経過を観察中、子宮内胎児は自然早産を来し、腹腔児は開腹術により娩出した非常に稀なる疾患

とされている子宮内外同時妊娠例を経験したので報告した。

子宮内胎児：体重1630g、身長43cm、胎盤の重さ420g。

腹腔児：体重1650g、身長44cm、頭囲31cm、胸囲29cm、臍帯の長さ26cm、胎盤14×11×厚さ11cm、膈上部切斷子宮及び胎盤の重さ800g。

産褥9日目子宮腔2.5×3.5cm、子宮壁の厚さ約4cm。

子宮内外胎児は共に妊娠8ケ月中ばに相当する正常な女児で、体重、身長其の他に殆んど差異を認めなかつた。

腹腔児の胎盤は子宮体の左後面約 $\frac{1}{2}$ 及び著しく肥厚した左卵管部に密に接着し、剝離不能で、普通の正常なる胎盤に比し、非常に強固なものに感ぜられた。

腹腔児の臍帯は正常なものに比し、著るしく短く、しかし結節其の他の異常は認めなかつた。

腹腔児を包む卵膜は、亦、最も特長があり、尚も鹿の皮を思わせる様な著るしく肥厚した且つ強靱なものであつて、胎児を8ヶ月半まで保護し得た役目が充分に窺われ、若し右季肋部の発作性激痛があれ程でなかつたら、満期産を成し得たのではないかと思考される。

23) 月経血中の Estrogen

佐世保市 岸 正人

演者は経血中 Estrogen の存否並びにその生理的意義を検討するに当り、藤井氏法により抽出した物質を $\frac{1}{2}$ 乃至 $\frac{1}{10}$ 濃縮後、生物学的検定を行つた所、いづれも陰性、経血、同時静脈血両方共夫々遠沈分離し、同一方法で抽出後 $\frac{1}{20}$ 濃縮程度でも陰性、反之全経血分離せず抽出し且つ $\frac{1}{20}$ 濃縮した場合陽性をみた。この二つの事実から血球中 Estrogen が含有されていない証明にはならない。他方血球・血清分離し、 $\frac{1}{30}$ 濃縮した所、経血は陽性、同時静脈血は陰性をみた。無月経に対する治療原理、又は生理的月経の出血機序は Withdrawal bleeding (尠くとも現在の学説に関する限り)による建前からいへば不合理なことではない。出血性メトロパチの1例にも陽性をみた。もとより病理組織学的検査で診断を裏づけたことは言を俟たない。

24) 妊娠腎に対するダイアモツクス の効果

久留米市 松本 眞

抄録未着

25) 肝臓機能障害時に於ける家兎の子宮自動運動に就て

北野町 岩橋 信夫

四塩化炭素を 0.1~0.3/pkg 2日間連続注射し肝臓を障害せしめたる家兎子宮の自動運動を東・熊谷氏の無麻酔生体内子宮運動描写法により非妊成熟子宮、妊娠子宮（前、中及び后期）の妊娠中及び流早産直后、並びに産褥子宮とに区別し比較研究し次の成績を得た。尚子宮亢奮剤の子宮自動運動に及ぼす作用は略す。

1) 肝障害家兎の子宮自動運動は非妊成熟子宮、妊娠子宮及び産褥子宮のいずれの場合に於ても正常家兎に比し振幅を減じ不規則となつたが、収縮回数は増加するものと減少するものとを認めた。

2) 肝障害の軽度のもので実験期間中、恢復せるものゝ（ウロビリノーゲン半定量法 B. Sp 判定）子宮自動運動は正常家兎と殆んど同一であつた。

26) アブレル氏人工妊娠中絶法の副作用に関する実験的研究

佐世保市 松尾 正之

1934年 Aburel によつて提唱された所謂 Aburel 氏人工妊娠中絶法は昭和22年山元が我が国に紹介され、一時は非常な勢で普及し、中期人工妊娠中絶法として優秀な方法であると絶讃されたが、その中に重篤な或は至死的副作用が観察されたので諸氏によつて副作用に関する研究が行われた。しかし副作用の原因に関し充分簡明されたとは思えないので余はこの副作用を究明すべく実験を行い聊か成績を得たので報告する。

1) 飽和食塩水は、正常家兎の肝、腎、肺、副腎に対し、種々の程度の鬱血を招来せしめ、又変性、壊死などの障害的作用を認め、この作用は肝障害、腎障害家兎に高度に認められる。

2) 飽和食塩水を静注すると小量では呼吸は抑制後興奮状態を呈し、血圧は一過性の下降を示すが、大量になると呼吸は最初から強い抑制乃至停止、血圧は急激に下降し死に移行する。

この作用はクロールプロマジンや抗ヒスタミン剤によつて抑制或は拮抗される。

3) 飽和食塩水を静注し、その血清中及び尿中濃度を見ると、正常家兎では血清中に一過性の濃度増加を認めるが、比較的安定で甚しい動揺を認めない。尿中濃度は一時間後より著しく増加し、6時間後が最高で

24時間後には注射前値に恢復している。

実験的腎障害家兎では尿中濃度は飽和食塩水の静注によつても高くなり、血清中濃度は著しく高い場合があり、却つて低下する場合があつて、電解質の平衡状態が乱れ、しかも調節機能の障害が伺われる。

実験的肝障害家兎では尿中濃度は腎障害例より高く、正常家兎よりも低く、軽度の排泄障害が伺われ、血清中濃度はやはり不安定で動揺が激しい。

4) 飽和食塩水静注により家兎脳波に棘波が出現し、これはクロールプロマジン又はチオペンタールナトリウムによつて抑制又は拮抗される。

5) 以上の如く飽和食塩水は生体に対し、強い障害作用があり、生体の生理機能を障害し、重要臓器に変性を来さしめ、しかも肝、腎障害家兎に於て著明である。従つて飽和食塩水を肝、腎障害婦人は勿論、健康婦人に応用することは充分慎重すべきである。

27) 日本住血吸虫症の産婦人科領域に及ぼす影響

福岡市 坂本 英雄

久留米周辺地区に今なお蔓延しつゝある日本住血吸虫症の産婦人科領域に及ぼす影響に就いて罹患婦人205例と健康婦人500例の臨床調査並びに諸動物による実験成績より検討し、以下の如き注目すべき知見を得たので報告する。

1) 初潮：臨床調査では罹患婦人に明らかな遅延を認め、d. d 系同腹マウスを用いた実験の場合も明らかに遅延を認めた。

2) 月経状態：臨床的に不順な者が高率で、d. d 系マウスを用いた動物実験でも性周期に著明な乱れを認めた。

3) 経血量：臨床的に罹患婦人の場合多量の者尠く、少量の者が著しく高率である。

4) 月経持続日数及び月経障害：臨床的に罹患婦人と健康婦人と大差ない。

5) 妊娠及び分娩：臨床調査及び動物実験ともに、罹患婦人の妊娠率及び分娩率に特に減退を認めない。

6) 流・早産：臨床調査に依り罹患婦人に高率な流・早産を認め、動物実験に於いても極めて高率に流・早産並びに妊娠中母体死亡を認めた。

7) 妊娠中毒症：臨床的に罹患婦人は健康婦人に比し高率である。

8) 子宮内感染：モルモット、家兎及びマウスによ

る実験で、子宮内感染を認めた。この胎仔への感染経路は、胎盤血行に依るものと推定した。

9) 児の発育に及ぼす影響：動物実験により時日の経過と共に著明な発育障害を認めた。臨床的にも同様な事が認められる。

10) 女性生殖器の組織学的変化：動物実験的に女性々器全般に亘る組織的検査の結果特別な変化を認め得なかつた。

28) トリコモナス膣炎は何故再発し易いか？

教室 朱以春 松本正敏 岸川正雄

トリコモナス膣炎は治癒極めて困難で再発し易いことは諸家の認める所で、如何に周到な治療を行つても現在の段階では再発を皆無にすることは困難である。その原因として、

1) 再感染：

a) 性行為による再感染：本虫の媒介は性行為によることを示唆する数々の臨床事実が指摘され、一時は本症を性病の一種とまで見做されたが、その後少女にも本虫の寄生が認められ、本虫の媒介は必ずしも性行為によるものでないことが明らかとなつた。しかし性行為によつて媒介されることは事実で、業態婦に本虫の寄生率が高く、又本症患者の配偶者の尿中にもしばしば本虫が証明され、配偶者の同時治療によつて本症患者の治癒率が向上する等はこの事実を証明していると思われる。

b) 性行為以外の接触による再感染：河川、プールの水、風呂の湯にも本虫が証明され、これらによる再感染は勿論、帯下の附着せるタオル、着衣等による感染も考えられる。又患者の膣に挿入せる手指、機械等も本虫を媒介する。

2) *T. hominis*, *T. tenax*, *T. bacalis*, *T. foetus* 等による再感染：これらは *T. vaginalis* とは全く別種類のものであり、これらの原虫による膣内感染はあり得ないというのが諸家の見解である。

3) 自家再感染：外陰部、尿道、膀胱、子宮膣部糜爛組織内、子宮頸管、子宮腔等に逃避せるト虫による再感染：膣以外の斯る部位にもかなり高率にト虫が証明され、しかもかゝる部位のト虫は膣内薬剤挿入による治療だけでは消失しない。この故に膣内治療を中止すればかゝる部位のト虫は速かに膣内に侵入し繁殖することは当然である。治療に際してはかゝる部位のト

虫をも同時に撲滅すべきである。

4) 嚢胞型形成：本虫が悪環境下に於て嚢胞型を形成することは既に認められている所であり、これが耐久型であるか否かの議論はあるにしても球状の嚢胞を形成して悪環境に対処することは確かである。著者等も外来治療患者に於て本虫が何らかの耐久型を形成することを思わせる症例に遭遇し、積極的に治療により本虫が球状の嚢胞を形成することを証明すると共に、実験的にも薬物の添加或は冷熱に際して本虫が球形化し、環境の改善によつて再び繁殖型に還元することを認めた。本虫のかゝる変化はいゝ加減な治療後に於ける再発の最も重要な原因と思われる。

以上の如く、本症の再発には諸種の因子があり、治療に際してはその一つ一つに対して十分な考慮と処置がなされるべきである。

29) 妊娠2ヶ月で両側卵巣嚢腫摘出後正常分娩せし一例

県立柳川病院 朔芳照・本村彪

妊娠時の合併症は多種多様であるが、この中妊娠と密接な関係にある性器殊に卵巣並に子宮腫瘍と妊娠との合併は興味深いものがある。外国及び本邦に於ても諸種の発表がなされている。我々は25才の初妊婦で両側卵巣嚢腫剔除後妊娠中絶も来さず、満期自然分娩を遂げた一例を経験したので報告する。

妊娠時の卵巣腫瘍のさいには原則として従来妊娠早期に腫瘍を剔除するがよいといわれておる (Falk & Bünkin, 木村-藤井, 高橋, 新妻氏等)。然し手術時期に關しての詳細の点に關しては報告者により必ずしも意見の一致を見ないが、最近 W. F. Peterson は妊娠4ヶ月迄に発見された場合は直ちに剔除するが、6ヶ月の場合は合併症のない限り分娩迄放置すべしとしている。我々は妊娠2ヶ月にて両側卵巣嚢腫を剔除し手術前後に黄体ホルモン 30mg を投与し正常分娩を遂げ又乳汁分泌発来には何等障碍がなかつた一例に遭遇した。又本邦に於ては木村-藤井は12例中5例、又新妻は6例中5例が正常分娩を遂げたと述べている。最近 Peterson は両側卵巣を妊娠早期に手術しても障碍なく且つホルモン療法なしに末期迄妊娠を継続し得たと報告している。

之等の症例の様に妊娠中に於ける手術は妊娠に対して影響はないと共に、両側の卵巣を全剔除しても妊娠の経過には影響はなく自然分娩が可能である。我々の例

も2ヶ月にて手術し、妊娠に影響なく自然分娩が可能であつた。而し我々の例は両側共に門部組織を残していたが、もし全部剔除しても自然分娩が可能であつたかもしれない。又動物実験例に於ては中絶を来たす場合多きを報告している。

これ等の事実より考へると、人類に於ては妊娠2～3ヶ月以後の卵巣黄体は妊娠に大した影響を及ぼすものではなく、胎盤が黄体の機能を代償していると思はれる。

30) 人工流産後の遅発子宮出血の一 例

八幡市 澁江 浩

昭和32年11月23日妊娠3ヶ月で某医により人工妊娠中絶術を受けた24才の婦人が、術後13日目(12月6日)に避妊のため太田式リングを子宮腔内に挿入してもらつたが、リング挿入後3日目(12月9日)より間歇性の強度の性器出血を見る様になつた。従つて、その2日後(12月11日)リングを除去してもらつたが、強度の出血が持続するので、翌日(12月12日)社会保険田川病院に入院し、直に膈上部切断術を施行した所、その後出血は全く停止した。

剔出した子宮は肉眼的にも、組織学的にも異常を認めなかつたので、本症例は人工流産後の子宮筋の弛緩による機能性の子宮出血であり、リング挿入がその誘因となつたものではないかと思考される。

31) 最近2年間の当科に於ける腰痛 症の分類と治療について

大牟田市立病院 五十嵐 啄磨

昭和32年1月より33年8月迄新患数2446名中

腰痛主訴 104名(4.3%)

併訴 190名(7.8%)

で、腰痛を訴える者12%の多きに達す。又疾患別では性器疾患に関係ありと見うる者138名 又関係ないと思はれる者115名 妊娠に関係ありと思はれる者41名腰痛を訴える婦人の殆んどが我々婦人科医を訪れる程

婦人性器と腰痛との関係は常識的となつて居る感があるが、所謂40腰(更年期)、腰部神経痛、ロイマチスと婦人性器に関係ないと診断せし者115名(36%)に意を致し治療して見た。

因に腰痛か自律神経脊髄神経の知覚伝導と今日猶不明の点が多く診断治療に当り困惑する事が多いが、例えばViscero-Viscerales reflexの如く子宮は勿論腰疾患にても此の反射で腰仙痛とを感ずる。カタル性虫垂炎による不正性器出血並性器炎症症状が虫垂切除後愁訴を止めるが如きは、良く体験する所である。

移動性後屈に対しその腰痛が必ずしも手術の適応でなかつた例が多い事に関し神経系の観念の一更を深く感ずる。

治療、疾患各細目により挙げる可きであるが大略新しい経験だけ挙げる。

① 手術. 腫瘍位置異状炎症に対し勿論であるが骨盤充血による腔部よりの瀉血(ミューゾー)にて肥厚せる感じの腔部を乱狭し週1回施行3例共軽著効。

② 理学的. 超短波. 熱性腔洗の他、レントゲン間脳照射(80γ)3例施行無効(卵巣機能不全症)。

32) ラミナリヤ使用による偶発症 2例

下関市 浜口 久明

『通常、ラミナリヤ(以下ラと略)挿置による障碍として、次の4点が指摘されている。

- 1) ラ桿抜去困難乃至不能
- 2) 子宮内細菌感染
- 3) 子宮損傷(穿孔、裂傷)
- 4) 「ラ桿の中毒」

第1例子宮損傷例(妊娠六ヶ月半)22才、人工妊娠中絶術(三ヶ月)1回経験、型の如くヘガール12号迄頸管拡大後、ネラトンカテーテル(10号)卵膜外挿入、リパノール液30cc注入、次でラ桿大2本、小1本挿置す。その間異常抵抗、出血なし、10時間後陣痛開始、18時間後自然遂娩す。然るにネラトン、ラ桿の脱出を見ず、内診するに両側は外子宮口に挿置時のまゝ緊着不動。頸管は延長し、右側壁に腔円蓋に達する8×2cmの不規則大裂傷を認む。僅かに外子宮口縁に

1 cm 幅の組織連絡あるのみ。分娩はこの裂孔より行われたものと確認す。ネラトン、ラ桿は強引に抜去するに、外子宮口は1指を通ずるのみ。幸い出血少く整形縫合す。創縁圧挫せられたるか3日後裂孔を中心として壊死、該部を剪除す。7日後子宮腔部は変形短縮し、瘢痕化治癒す。

障碍の主因乃至過程は、外子宮口に密着栓塞し、しかも之を支点として横走していたと思われるラ桿の先端が、子宮内圧が加わることにより、直接子宮下部の菲薄部を押し突破口を形成したものと想像される。従つて、ラ桿挿置中の陣痛に対しては充分警戒せねばならぬ（破裂前徴に対し注意内診）、ましてラ桿挿置中に陣痛促進剤を不用意にも使用するが如き暴挙は慎まねばならぬことを示唆していると云える。

第2例、ラ桿抜去不能例（妊娠二ヶ月初）21才、初妊婦、ヘガール8号迄頸管拡大し、中、小2本のラ桿を挿置す。24時間後抜去せんとするに、ラ桿は頸管に完全密着し、ラ桿粗悪なるか牽引糸離断す。よつて可視、下可能の限りラ桿を破碎し（約1/2）、残部を子宮腔に挿入せんとするも全く不能、外科用消息子すら挿入の余地なし。そこで感染に対する予防的手段を施し経過を、観察するに、茲后3日間不変栓塞されたまま、漸く90時間後に典型的瓢形ラ桿の腔内自然脱落を認め、子宮内容除去術の目的を達した。

以上よりして、ラ桿抜去不能に陥り、種々の方策をなし目的を達しない場合には、切開術を試みる前に、一応、充分感染に留意し、待期的にラ桿の自然脱落を待つのも一手段ではないかと思考される。

33) 手術時に於けるクロールプロマジンとラボナールの併用麻酔

柳川市 幾島 栄三郎

色々な薬剤による強化麻酔があるけれども、ラボナール併用により極めて良好なる麻酔効果を得たので報告する。

別表の如く血圧、脈搏、副作用にも顕著なる変化がないので、一時間前後の手術には好適で、而も翌朝まで（約十乃至十二時間）熟睡するので手術後の疼痛も殆ど感じないという利点がある。

No.	1	2	3	4	4	6	
年 令	37	33	34	40	26	30	
前 麻 酔	ウピオ インビス ミアタン 252535 mg	〃	〃	〃	〃	〃	
ラボナール	1.0gr	1.0	0.75	1.0	0.75	0.75	
術 式	子宮マド 内容レ（腔式） 除去ネル	〃	〃	〃	虫垂 切除	子宮マド 内容レ（腔式） 除去ネル	
血 圧	注前	105 68	152 96	140 90	118 70	130 90	110 80
	1 間 時 后	120 72	140 80	138 90	138 74	120 80	100 70
脈 搏	主麻 后	142 100	149 88	100 80	135 92	90 62	92 68
	最低	110 60	126 72	78 56	110 68	90 62	92 68
効 果	100 80	140 80	84 72	110 98	70 62	64 68	
副作用	著効	〃	〃	〃	〃	〃	
副作用	咳嗽	(-)	(-)	(-)	(-)	(-)	

③ 薬学的。鎮痛鎮静消炎にザルプロ。ザルグレ、ブロームグレランを使用特にブログレは他の更年期諸症にも著効があつて、内分泌系諸症にはトランキライザー、ブローム剤と共に Estrogen の小量持続投与又 Pregnandiol (Diol. 2γ) の長期使用で効果が挙げた（特に発育不全症に著効の者が多い）。

又筋肉痛に対してスパとホルモン（男女混合）も効果が著しかった。

腰部痛に対しネオビタカインは副腎皮質ホルモンの一つ前の段階のためかロイマチスに対する効果が強く又他の症状に対しても（ストレス）効果があつて、11例中7例著効。

猶他の薬品又治療は、頁の関係割愛する。全体の著効軽快の効果は61.2%であるが、此れは予後を明白にしない人、治療中断の人も多分ある様であるが、然し腰痛に対する大きい幾つかの問題が残つて居る感を強く感じた。

34) 無排卵性月経に対する甲状腺療法

福岡市 久保山 浩 秀

無排卵性月経は排卵性月経と外見的に全く酷似している。即ち週期は整順で持続日数も一定して居り、量も殆んど変りないので、本人は勿論我々も正常月経として見逃すことが多い。正常成熟婦人には1.1%から5.4%に認められ分娩後数回或は妊娠中絶後等にも認められる。Novakは機能性不妊症の婦人に於て、本症を約半数の48%に認めているのは注目し得る。初経後の数年と閉経前の数年は本症の最も屢々認められる時期であると言う。本症は卵胞のみ発育し成熟卵胞程度に達するが、何等かの障害のため排卵が起らず、その儘退行し、このため子宮内膜は増殖像変化のみを呈し、分泌像に移行せず、エストロゲン性消退性出血となるものである。Schröder & Tizeは、これを、卵巣週期の一相性週期或は不全一相性週期に該当せしめている。黄体期を欠如するため基礎体温は高温期を欠く一相型を示す。又月経後期に於て尿中プレグナンジオールを証明し得ず、頸管粘液の結晶形成が認められる場合がある。私は帯下を訴える成熟婦人を加療中、偶然本症を発見し、その治療に於て甲状腺製剤が著しく効果を挙げ得たので茲に報告する。

患者は24才の婦人で未婚である、初経14才、持続は5日、週期は初経以来30日型で整順、月経障害等はない。既往症として幼時より喘息がある。黄色帯下を主訴として来院した。子宮は前傾前屈、子宮体は正常大両側附属器に肥大腫脹等はない。子宮腔部は稍々充血し、分泌物は帯黄白色で量は中等度である。分泌物を鏡検するに葡萄球菌白血球多数を認め、腔脂膏には深層細胞を認め中層並表層細胞を認めない。

子宮頸管カタル及腔炎の下に、抗生物質、サルファ剤等を以て、加療し一時軽快するが間もなく再発する。数回の腔脂膏検査に於て深層細胞のみを認めるので、卵巣機能不全を疑い基礎体温を測定すると低温一相型である。然し月経は整順で持続も変りない、始めて無排卵性月経であることを知り昭和三十三年一月初頃より約半年間にエストロゲン—プロゲステロゲン週期投与法たるカウフマン療法を三週期に亘り実施したが、附表第一に示す如く、治療効果は芳しくなかつた。次いで甲状腺製剤による治療を試みた。即ち月経週期の第13日目より16日間毎日チレオイド錠（一錠中甲状腺0.1瓦含有）二錠を朝夕二回分服せしめた。服

用中は脈搏数、体重減少、その他の自覚症状に充分留意した。その経過は附表第二に示す如く、高温期が後半に稍々上昇を示している。次の週期は休業し成果を觀察するため腔脂膏並結晶形成等を検査するに止めたが附表第三に示す如く基礎体温曲線は始めて典型的二相性を示し腔脂膏検査に於ても、表層細胞並中層細胞の出現を多数に認め、明らかに排卵を誘発し得たと考えられる著しき卵巣機能の改善が認められた。

従来帯下を訴える患者の中に、種々治療を講ずるも仲々全治せず再発を繰返すものの中に卵巣機能不全に基く腔内上皮細胞の幼弱のため容易に感染し再発を繰返すものが少くない。此の場合少しでも卵巣機能の低下が疑われる場合は、腔脂膏検査或は基礎体温測定又は頸管粘液結晶形成の有無強弱等を検査すると、本症や一連の機能異常疾患を発見し得るのではないかと考える。

無排卵性月経の治療として第一に挙げられるのは、性腺刺戟ホルモン療法であるが、これは高価であるばかりでなく、必ずしも効果が適確であるとは言い得ない。エストロゲン—プロゲステロゲン週期投与法も、本例に於て見る如く効果は余り期待し得ない。今回初めて甲状腺製剤を本症に使用し何等の副作用もなく、短期間に著効を奏することが出来た事は注目し得る。然し本剤は種々の副作用を有し、中毒死等を招く恐れがあるので、その用法には充分の注意を払う必要がある。

35) 臨牀鎖談

佐世保市 宗 進

人工流産に就て。

人工流産手術後、時に原因不明の大出血に驚かされることがある。それが胎盤遺残や、所謂「搔き過ぎ」或いは、悪性絨毛上皮腫、子宮損傷等原因が判明すればそれぞれの処置を講ずべきであるが、そうでなくて術者の思い当るこれといった原因もなく出血する場合の中に低置着床ということがあり得る。私も最近それと思われる2例を経験した。この場合の処置としては、出血の強い時はとりあえず、外子宮口を縫合して閉じてしまい、成るべく早く子宮を全剔すべきであると思う。尚この低置着床に就て詳しいことは、日産婦会誌10巻11号所載の夏目操氏外の「低置着床の惨禍。流産処置に当り必らず念頭におくべきもの」を参照されたい。

エピロカインの局麻は使用に堪えると思う。方法は子宮腔部より内子宮口に向けて前後左右に各2.5cc宛注入して充分である。但し血管への注入を厳に戒めるべきで、血管に入ると大きな間代性の瘻れんを起し、数分後眠りに入る。あたかも、精神科で用いる電気衝撃療法のような感じがする。

36) 双角子宮の卵管結紮後に於ける卵管妊娠の一例

赤池鍼業所病院 郷 司 研 一

症例：30歳鍼員の妻，初経：14才，持続1週間，中等量，殆んど整調なるも時々遅れることあり。月経時下腹痛を訴う。既往妊娠及び分娩：第一回の妊娠は52歳時7ヶ月で前置胎盤のため早産を来し，メトロイリーゼにより遂娩せしむ。第二回目は妊娠9ヶ月にて早産，第三回目は妊娠4ヶ月にて自然流産，第四回目は昭和30年11月妊娠8ヶ月にて前置胎盤のため帝王切開術を施行す。此の際卵管結紮を行わんとするに，右卵管及び卵巣は異常に發育し特に卵巣は卵巣子宮端より上方1cmに於て子宮底より直接卵巣実質を以て始まり，卵管に沿い次第に大きさを増し，その長さ約9cmにして，卵管も又長大にして約13cmあり。さて次に左側卵管を求めるに左側子宮壁は全く平滑にして卵管及び卵巣は痕跡さえなく，よつて単角子宮と認め術を終る。

現病歴：初診昭和33年10月29日，月経は8月13日より約一週間正常通りあり，9月25日より約一週間量は僅かに少量なるも殆んど正常通りあり。次に10月13日より約5日間少量の性器出血あり。患者は9月末頃より廻盲部附近に一日に一，二回の疼痛を訴え，特に労働をすると疼痛が増強すると訴えて居る。数日来該部の疼痛が少々強くなりたるため来院す。

現症：一般状態は良好にして貧血等を認めず。腹部は一般に柔軟で廻盲部に軽度の抵抗があり圧痛を訴える。子宮は後傾し移動性にして略正常大，左付属器附近に少々抵抗を感じるも前回の手術時左付属器の欠除を認めているので少々不密に思う程度。右付属器は触れ難く，子宮体の右後方に抵抗を感ず。現在性器出血はない。腹部の所見と卵管結紮の既往よりして虫垂炎の疑にて外科に受診せしめ，外科に於て11月1日虫垂切除術を行うため開腹するに腹腔内に出血あることを認めたため，婦人科的のものならんと余が代り，正中切開にて開腹するに，子宮は正常大にして，あるべき

管の右付属器は痕跡すらなく子宮右側壁は全く平滑で，尚ほ驚いたことにはない管の左卵管卵巣は殆んど正常で，勿論結紮した様な跡は全然認められず，此処に於て手を右腸骨窩に入れて探究するに鶏卵大の腫瘍を触れたのでこれを視野に持ち来すに，なんとこれが三年前に帝王切開を施行した子宮で前面に大網膜の癒着を認めた。

之を切除し右付属器を見るに卵管は紫藍色を呈し約手指大に腫大しあり，此処に於て始めて卵管妊娠で，しかも双角子宮なることが判明し今迄の疑問も一瞬にして解決された訳である。該卵管及び卵巣を切除し一側の卵管結紮及び虫垂切除を行い術を終る。術後の経過は順調にして約二週間にして全治退院す。虫垂には軽度の癒着ある他特に異常は認められなかつた。

考按：帝王切開時に双角子宮なることがどうして分らなかつたかと思うに，当時全く附近にそれらしいものは全く見当らず，双角子宮にしても各子宮が全く独立して離れて存在し，手術時腸管に隠されて発見出来なかつたのではないかと思われる。子宮腔部は一つで腔中隔も認められなかつた。又今回の虫垂炎との疑いを持つたのも発病状況並に卵管結紮の既往等により一応妊娠なるものを除外したためかゝる結果となつたもので，診断並に検査はいやが上にも慎重でなければならぬことを今更乍ら痛感した次第である。文献：省略

37) 外妊診療所感

久留米市 畑 瀬 幸 雄

開業満2年間に教室でと違つた患者層と相對して特殊の感じを受けた疾患の中で，外妊に關しての所感を簡記する。

1) 外妊が非常に多い。2年間に36の手術例である。外に外科医が虫垂炎と誤診して開腹しているのを応援に行つたのが1例。外妊と思つて開けて違つていたのが2例ある。その中の1例は東大小林教授が言うメトロパチ→経卵管→腹腔へ逆流(?)と考えられる例であつた。

外妊が多い理由：—

(i) 戦争との關係——昔は戦争→性病→外妊と言われていたが，むしろ此次大戦後は性病は減少した様に感じるが，それはひどい性病が少なくなり，案外と不妊になる程はひどくなくて，外妊を起しきうな軽度に迄は治つている例が増えているせいではなからうか？

(ii) 中絶との関係：——3分の2は中絶のアナムネーゼがあり、此回外妊前1年以内に中絶手術を受けたのが3分の1もある。

中絶手術<感染 沃丁の逆流>→卵管炎→外妊が考えられる。又中絶による結果として間質部妊娠の増加を言われているが、私の場合も3例もあり、何れも大量出血、瀕死の例であった。

(iii) 地域的の関係：——私の周辺がスラム街をひかえているためか？

(iv) 外妊の発見が上手であるから？——昔から外妊の研究報告をいくつもやつたので特に関心をもっているから、他医で見逃されているのを発見したのが可成り多く、自分でも旨いと自信(?)をもっている。

3) 診断のコツ

(i) アナムネーゼと容貌による所謂「感」が非常に当る。

(ii) 止り難い出血は必ず外妊を疑うこと。

(iii) 肛門圧迫症状とダグラス氏窩の圧痛(炎症以上に鋭敏である)がある時は外妊を疑うこと。

(iv) 最後の決め手はダ氏窩の穿刺!!

4) 治療に関して。

(i) 麻酔は出来る限り腰麻でやる。

(ii) 切開は殆んど全例縦切開である。

(iii) 術前、中、必要によつて後も輸血(銀行血があるので便利となつた)をやる。

(iv) 腹腔内流動血液があれば自家輸血もやる。

(v) 腹腔内の残りの血液は、大低凝血をとつたら残つてもかまわないと考えている。

(vi) 一般状態が悪く、手術を急ぐ場合が多いから、罹患卵管のみか、附属器を剔除し、特に希望がある時の外は、子供が少い人が多いから卵管結紮はやらない。

死亡例は皆無である。(自抄)

38) サドル麻酔による無痛分娩に就て

大牟田市 桑野 稔

サドル麻酔による無痛分娩例はすでに多数の報告がされて居りますが、私も本年1月より10月迄に31例の経験を得ましたので報告致します。注射液は森、中川氏等の使用されたサドルカミンを使用致しました。

方法は初産では子宮口全開大の時経産婦は3~4横指開大した時に坐居にして第3~4腰椎間に腰椎斜にツベルクリン反応用の注射筒をつけ体重+ $\frac{1}{4}00 + 0.2$

~0.15cc のサドルカミン液を滑かに静かに10秒位の時間で注射し其の約8分間位同じ坐居の儘にして後に約15度の頭高位の傾斜された分娩台に横臥させた。麻酔は約10~15分后には外陰部、肛門附近、子宮頸管部、骨盤底が限局的に麻痺した。

血圧、注射后全ての例に於て下降したが最大下降は26最小は12で平均16であった。

出血量、一般に出血量が多いと云われて居たので分娩后直に脳下垂体製品並びに麦角製品を注射して居るが大體平均220cc位で普通分娩の時より少々少量の様であった、但し2例500cc以上の出血した人もあつた。出血量の多いのはクリステル氏圧出法並びに鉗子分娩例を施行した例に多く見られた。

子宮収縮及び腹圧への影響、未だ注射が慣れない故もあつたと思われるが注射后陣痛も腹圧も急に弱くなり、陣痛促進剤を使用する例が多くあつたが最近はあまり使用しなくても腹圧指導によつて分娩出来る様に成つた。

副作用、注射后20分位に嘔吐した例3例、但し1時的なものであつた。頭痛を訴えた者2例であつたが軽く注射后2日目には取れた。31例中鉗子分娩例9例、クリステル氏圧出法を用いた例3例であつた。何れも初産婦であつて経産婦にはなかつた。

尚、本例中横位1例と骨盤位2例あつたが横位の場合は廻転が楽であり骨盤位の場合も普通分娩の場合と比較して遂娩が楽で胎児の仮死度も軽かつた。

結論として初産婦では全開大后しばらく経つて注射し、経産婦の場合は、子宮口が4横指より全開大に近く成る頃まで待つて注射した方が好結果を得る様であつた。

39) 品体分娩の経験

久留米市 牛島 始

品体分娩の頻度其他に就ての文献を当産婦人科教室で調べて戴いた処によれば外国での頻度はヘレン氏は6,400回に1回、グレンリフヒ氏は約7,629回に1回、日本の内閣統計局の調査では44,911回に1回との事である。診断はX線によるのが最も多いがX線でも分娩前の診断はなかなか困難であり尚妊娠7-8ヶ月迄に中絶を起し易いとの事であつた。

小生は勤務医5年、開業医生活31年間中に25年前に1例と本年1例を経験したが共に妊娠前半期で余り興味も無いが簡単に報告する。

第1例. 34.5才. 数回経産婦で子宮出血多量の訴へで夜間往診した所3ヶ月末位の胎児が次々に娩出した者で性別も胎盤数も記憶せず.

第2例. 本年3月30日初診. 満30才. 健児3名.

現病歴. 月経は順調32年11月20日より5日間を終経として閉止, 悪阻も軽く経過したが約10日前より食思不振下肢に軽い浮腫を生じて来院.

現症及診断. 岡林氏妊娠計算器によれば初診の3月30日は妊娠5月半ば過ぎに相当するが子宮底の高さは丁度臍高に達し腹壁稍々膨満. 両下肢に軽い浮腫. 蛋白反応弱陽性の外に内外診共特別の病変を認めないので妊娠5ヶ月. 羊水過多症兼妊娠腎と診断した.

治療経過. 4月1日午後入院. 0.1%リバノール百瓦をネラトンカテーテルで注入留置. 2日午後中等大ブージー2本を交換挿入. 3日目の午後から陣痛起り8時半より写真の如く皆男性で5ヶ月の胎児が次々に自己の胎盤を別々に附随せしめて娩出した者であり, 分娩経過中陣痛がよく起り大した後出血も無かつたが要心の為スパチーム1筒注射, 強陰ガーゼタンポンを施し翌早朝抜出す. 其后2日を置き4月6日優生手術を施し在院19日間にて全治退院.

附記 33年9月25日久医大集談会に於て本報告に追加して甘木市熊本正熙先生が20数年前妊娠9ヶ月で生産した興味ある1例を報告せられた.

40) 婦人科領域癌患者に対する組織水溶性物質皮内反応の研究

教室 片淵陽一

諸組織水溶性物質による皮内反応が婦人科領域癌主として子宮癌に対し診断的価値の有無及びその予後判定の示標たり得るや否や, これ等水溶性物質の内孰れが最も強力であるか, 又その反応主体は何であるかを明確にすべく実験を行い, 次の如き見る可き成績を得た.

1) M. C. R. 成熟胎盤抽出液, 妊娠前期未熟胎盤抽出液, 子宮頸癌組織抽出液, 卵巣癌組織抽出液の5者に於て子宮癌に対する皮内反応成績を比較検討するに, 諸抽出液間の子宮癌に対する陽性率には明かに差が認められ, 就中未熟胎盤抽出液の陽性率が最も高く, 非癌患者及び健康者に対する諸抽出液の反応は殆んど陰性であった. 以上の総合成績により, これ等抽出液中未熟胎盤よりのそれが子宮癌診断用として最適であると言える.

2) この皮内反応は操作の簡単さ, 比較的高い的中率, 判定の迅速な点等より臨床的に子宮癌診断の一補助法として使用価値あるものと思われる.

3) 現在子宮癌等で諸治療中の者254例及び嘗て諸治療をうけ既に長期間経過せる癌患者95例に対し, 未熟胎盤抽出液を使用し, 連続的に皮内反応を試みた結果, その成績は大體臨床的経過の良, 不良と一致した. すなわち治癒すれば, 本反応は大多数陰性となり, 不治の場合は陽性に止る. 一般に完全に治癒したものは陰性反応を, 不完全治癒のものは多く陽性反応を, 再発の場合は再び陽性となる事を認めた. 以上の成績から該反応は子宮癌に対し予後判定の示標となり得るものとする.

4) 自家作製組織抽出液の反応主体が何であるかを明確にすべく, 人胎盤水溶性物質より「ポリサツカロード」及び「ポリペプチド」様物質を夫々抽出し, これ等の子宮癌患者に対する皮内反応を検討した結果, 前者がこの反応の主体成分である事を確認した.

41) 産婦人科領域における血液凝固の研究

教室 馮瑞麒

血液凝固機序は極めて複雑で最近その本態もかなり判然として来たが, それでもまだ明らかでない点が残されている.

著者は今迄と異つた観点から基礎的実験並びに臨床的検索とを行い, 次の如き諸点と密接な関係のあることを識つた.

即ち基礎的には添加水分の性状及び量の多寡, pH値の大小, 気圧の高低, 並びに好酸球の多少によつて凝固性の遅速が認められた. しかも好酸球の減少機序は凝血要素を介して Adrenalin の直接破壊によることを発見した.

臨床的には自律神経毒の負荷前後, 月経周期, 又は手術の過程を通して凝固性は自律神経に左右されることを確認した.

⊗

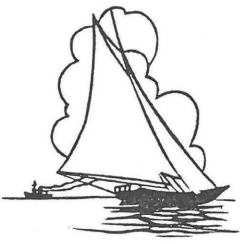
⊗

⊗

⊗

⊗

⊗



文 芸

産婦人科医の将来

宮 原 通 顕

昭和16年だつたと想うが、第2次世界大戦中の非常事態として制定された優生法は、敗戦後の国情大変革によつて、全く矛盾した法令と化したため、参議院議員谷口先生等の努力によつて、昭和23年に前法令の廃止とともに新たに優生保護法が制定実施されるに至り、其後数度の改正を見て今日に及んだ事は、我々産婦人科医にとつても忘れんとして忘れ得ない画期的な出来事である。これがため一頃は産婦人科医を志望して、大勢の若い医師が各大学産婦人科教室に殺倒し、他科の者はこれを産婦人科ブームと称し、確かに本法律の出現によつて、経済的に多少恵まれた産婦人科医もあつた様である。

当時一時的ではあつたが、世情の混乱、道徳の頹廢、生活の不安等と相俟つて、妊娠中絶希望者が門前にひしめいたのは当然の事である。この間手術手技の未熟や不注意等で、妊産婦に相当の犠牲者を出した事も事実である。かくて数年間は中絶希望者が年と共に増加の一途をたどり、結果的には出産率の急激な減少となり、この面では確かに国策に貢献した形となつた。しかしこの状態も最早過去の語り草にならんとしつゝある。

茲もと1・2年は流産数も略々一定化して来た様子だし、所謂産婦人科ブームも台風一過と言つた状態で、一頃のざわめきもようやく去つて、世間も従来の冷静さを取りもどしつゝある。この間10年を経過し、流産手技等も一般的に上達して初期時代に頻発した不幸な出来事も稀となり、一方世情も秩序を取りもどし、生活も略々安定して来た今日、大衆も流産による産児の制限よりも、受胎そのものを調節することによる計画的出産が、遙かに合理的であることを認識し、他方厚生省当局も避妊法の実地指導普及に積極的となり、指導員制度等をも設けて、大衆の啓蒙、実地指導に務め、又地区的に或は職場毎に家族計画と言う呼び名で協会

等が設けられ、近い将来にはこれら個々団体が全国的に合流して、日本家族計画団体などにまで発展せんとしつゝあり、厚生省もこれに援助を与えて、大々的にその成果を挙げる可く乗り出さんとしている状態である。

この家族計画運動は国策上また国民の保健上是非とも発展成功させねばならないのであるが、若しこれが産婦人科医に対する反感的運動に連なつたものであるとすれば、我々産婦人科医もこの際謙虚な気持で、大いに反省し、検討して見る可きではなからうか。

関係当事者等は受胎調節、家族計画運動が予期通り一般家庭に普及徹底しない責任を、優生保護法による人工中絶に負わせている様である。この事は先般来の優生保護法制定10周年記念会或は家族計画普及全国大会等の席上で散見された本法律や指定医に対する非難攻撃によつても窺われる所である。たとえこれが一部の者の偏見や誤解に基づくものとしても、我々はこの際この機会に、大いに過去を反省し、熟考してみる必要がありわすまいか。

従来でもそうであつたが、この際我々も一方的な立場のみにとらわれず、大乘の見地から自発的に、この家族計画普及運動に一層積極的に協力す可きでなからうか。斯くして、この運動が盛んになり、啓蒙が進むにつれ、人工中絶による産児調節が減少をたどる様になるのは当然で、斯くなつてこそ国策が軌道に乗つた事となり、これこそ本来の文化国家の姿であらねばならない。この様な進歩的な国情に一日も早くなるように、今まででもあらゆる角度から微力ながら我々お互も各個人の生活を通して、努力して来たはずである。

以上の事柄から、我々産婦人科医はいつまでも現状に甘んじている時期でなくなつた事は明白である。今の内に産婦人科医として将来発展し進んで行く他の方面を充分考究し、その準備に着手す可きである。

先般来6カ月間に亘る欧米の視察旅行で見聞したもろもろの事柄を参考とし、わが国の現状を色々考察して、従来我々産婦人科医は妊産婦に対する関心が比較的薄い事実を指適する事が出来ると思う。即ち普通分娩は疾患外の助産婦の仕事として、軽視し傍観している状態である。しかし我々は今後この方面に刮目し、大いに関心を向けてこそ相当発展の天地が開けるのでなからうか。これ迄この方面に対しあまりにも冷淡で、医師としての責任が欠けている様にも思える。国内一般的に医師の下での分娩希望者は、特に次の3

事項によつて、今後加速度的に増加する事が窺がえる。

- 1) 衛生思想の普及発達及び生活様式の変化
- 2) 無痛乃至和痛分娩の希望増加
- 3) 助産婦の減少並びに老令化

上記各項に対する説明は省略するが、これら各々が一般的に入院分娩を促進する重要因子となり得る。

終戦後の邦家のあらゆる方針は、好むと好まざるにかゝらず、又意識的にも無意識的にも、万事がアメリカ式に成りつゝある事は、既に諸般の事項に照らし、明白である。この風潮は、将来国に一大変革でも起らない限りは、相当永く続くものと思われる。さすれば正常分娩の分野も、前記諸事項が誘因となつて、アメリカ式に助産婦の手から医師の手に移るのも自然であり、当然である。従つてこれの対策を一步先んずる者が、将来の発展を約束されることになるとも言える。

しかし僕の願としては、折角今日まで存続して来た歴史ある立派な邦家の助産婦制度が、将来も永く隆盛に、しかも合理的に、妊産婦のために存続して貰いたい。この際賢明な助産婦各位が、これ等の点に充分想いをいたされ、助産婦制度崩壊の危機が目前に迫りつゝあることを悟り、機を逸する事なく、合理的な進歩的な対策を強力にたてられることを衷心から助言したい。

入局当時の思い出

八女市 三浦 智典

昭和七年四月杉森教授のもとに入局した。当時附属病院は京町にあつたが、六月に現在の病院に移転したと記憶する。新しい病院本館二階の西端の部屋が医局と決定し、荒木先生（大牟田市に開業の荒木新先生）を医局長として安達、井上、深水、本城、木村、桑野、富樫、三浦と九人が医局の住人だつた。

その頃今の助教室は水銀圧迫及び熱氣療法室で寝台が三台あつた。今の人は水銀圧迫療法は歴史的存在で御存じないと思うが、子宮後屈症で軽い癒着のある患者に良く試みたものだ。私は生来の怠け者で学問が嫌いだったので此の部屋が隠れ家で朝に夕に昼寝の場所だつた。此の頃私は子宮筋腫の患者を一人受持つていた。日田市から数里奥から来た人で手術後の経過は順調で三週間すぎた日退院を申出て来たが、此の患者を帰すと私の受持が無くなるので、体温が三十七度

二分位ある理由で引きのばしていた。突然午後二時頃腹痛を訴えたので診察もせず鎮痛剤の注射を看護婦に命じて昼寝していると五時頃痛みが増し診察したが原因不明、教授に報告したが鎮痛剤の注射する様指示があつた。八時過ぎ痛みは激しくなり嘔吐を伴うため再び教授に報告し、指示により高圧洗腸するも効無く、夜半教授の来診を求めた。夜明け頃糞便様吐物が出たのでイレウスの診断で外科に送る。大島教授の執刀で手術、小腸約三十糎切除した。癒着性イレウスで、荒木先生曰く「杉森氏法により切断端の処理を簡単にしたため」と、杉森氏法とは附属器切除の時断端を腹膜で包まずに置くことだつた。患者を無理引き留めて一命を救つた一例。

次はその後一ヶ月位経て絨毛上皮腫の患者を受持つた。術前の患者診察を怠けていたが手術後の経過は良い様だつたが、術後二週間になるも食欲なく、就床ばかりしていた。たまたま回診して胸部に変んな音を聴診した。荒木医局長に相談して内科の楠原助教授に診て貰つたら、田中教授の診察を受ける様言われたので、杉森教授の許可を得て田中教授に診てもらつた処、レントゲン胸部撮影に依り絨毛上皮腫の肺転移と診断された。私の不勉強から此の転移が術前からあつたものか術後出来たものか不明で、患者は間もなく死亡した。

入局当時のほろ甘い思い出とあと味の悪い思い出です。杉森教授に二年間と向井教授から一年間御指導を受けながら、朝に夕に怠けたため田舎の竹の子医者で暮らしています。

余談

大牟田市 桑野 稔

先日同門会で如瀬先生の講演中に電話があり出て見ました所、前日妊娠5ヶ月で人工妊娠中絶のためブザー、ラミナリヤを挿入して置いた患者が突然死亡したとの知らせを受けました。何うして死亡したのか、今朝出て来る時は何等変化なく元気だつたのに、電話では詳しい事は解らず、ついさつき浜口先生のラミナリヤの御話しを興味深く聴いた直後文に色々な事が思い出され次の私の講演は気もそぞろで落つかず原稿の棒読みですませ教授始め皆様には失礼と思いましたが直に大牟田へ帰つて来ました。以下其の時の模様を看護婦や内科の先生に聴いた事を書いて見ます。

患者 ○田○エ 21才。妊娠5ヶ月。未産婦。体格並に其の他特別異常はなく、経済的理由にて人工妊娠中絶施行。11月15日、ブジー1本ラミナリヤ小1本挿入、11月16日10時頃ブジー入換、ラミナリヤ小2本挿入、子宮口1横指半位開大して居た。熱37.2°、脈84、本人は平常と変わりなく時々陣痛があり、食慾はないと云つて居ました。僕は何ら気にもせず其の儘久留米に來たのです。午後1時頃看護婦が体温を調べに行つた時、熱37.4°、脈86、時々陣痛が来る外には大した変化もなく冗談話し等して來たと云つて居ります。所が3時15分頃患者の姉がベッドの横で綿物をして居たら患者が胸苦しく目が見えにくい様だと云うので看護婦を呼びに來たので看護婦は直に病室に行き脈を調べた所殆んどふれなかつたのでビタカンファー1本注射した所痛いと言つたままで様子が好転しないので直に内科の先生を呼び診て頂いたが其の時はもうすっかり駄目だつた相です。其の間約5分位だつたと申して居ります。内科医の話しでは恐らく急性胃拡張症だろうと申して居りました。内科でも此の様に急性に來る例は数少く予後は殆んど悪いと云つて居ました。僕は未だ此の様な急死例の経験はなく又ラミナリヤ、ブジー等のために起つたものか又別の原因によつて起つたものか家族の人々に病理解剖する様相当すすめてみましたが同意を得る事が出来なかつた。我々医者は尊き人命をあずかり、苦しみ悩みの世界より身体上の楽な世界にとあらゆる努力して居る者であるが、此の例の様に思わざる急死に出あい何んらか更めて空怖しく生命のはかなさをしみじみと感じさせられました。

私の「母親教室」

久留米市 畑 瀬 幸 雄

叔父が保健所制度が出来た当初から所長をしていたのにタイアップして「生めよ殖せよ」時代に妊孕力、不妊症、流産防止等の調査、指導をやつたのをキツカケに文部省の科学研究助成金も三年つづけてもらつて、社会産婦人科学的研究に非常な興味をもつていたので、開業以来も一つの副業(?)として医療の社会化を念願し、唯保険に規制され、税金にとらわれた医業の他に何か世の人のため、又自己満足にもなることを考えてやり出した計画の一つが此の母親教室である。開業三ヶ月目の昭和卅二年正月から始めて此月で満二年一ヶ月、即ち廿五回つづけて來た。幸い弟(久大小

児科助教授)が協力してくれるので好都合で、月の中旬から下旬頃の日曜か土曜の午后開催している。今月の例を示すと未熟児養育医療機関に指定された機会を利用して

一、未熟児の哺育について 畑瀬良夫

一、未熟児の生れる原因とその防止策 畑瀬幸雄
の題目を選んだが、会場は二〇畳の広間が使えるので、五、六十名は収容出来るし、話の外に、お産に関するよろず相談(婦長が主に当る)妊婦体操、無痛分娩の補助動作の訓練とか、医学映画の映写(乳業或は新薬会社の後援で)なども同時にやつている。テキストも乳業、新薬会社の寄贈のものを大抵使つている。

対象は当院に受診した妊婦だが、最近では新聞の「今月の催し」欄に毎月掲載してくれるので、一般の人も若干見えるようである。

受診する妊婦一人々々に詳しく、同じ話を話してやるのも厄介だから、まとめて話してやろうという意味もあるし、医院のPRにもなるという訳です。

最近では久大の教室でもやつて居られるらしく、又私がすすめたので愛知一宮市の谷君や、柳川市昭代の幾島君もやり始めたとのことでよろこんでいる次第です。

“ 思 い 出 ”

田川郡赤池町 郷 司 研 一

“光陰矢の如し”と昔の人は云いましたが、若い時はたゞ漢文の文句みたいに感じて、他人事の様思つていたのに頭に白いものがふえて來た今日此頃になつてみると始めてその字義が実感となつてしみじみ感じさせられます。

昭和10年の卒業と同時の入局だから、もう20有3年を過ぎ、徒らに馬齢を重ねた様で、昔の人生50年にまさに手が届かんとしているのに、精神年令の若いせいか未だに学生時代の気分で居ます。同じ頃入局した同輩連中が、それぞれ立派に成功されて安定した生活を送つて居られるのに比べて、未だに田舎の炭坑の中で、ボタ山眺めて20年、サラリーマン医師でピーピーしている自分を思う時、今迄比較的のんきにやつて來ただけに、ちよつと淋しい様な氣も致します。我々が入局した当時は、教室は大変賑やかで医局はいつばいで狭い位でした。それでも戦争中は畑瀬先輩の話によると、一時は教授と二人切りでやつたことがあるとのことで、

さぞ大変だつたらうと思います。在局当時の思い出は色々ありますが、未だに忘れられないのは、何といつても始めて内診させられた時のことです。それこそ生れて始めてシャイデに指を入れる時は胸がどきどきして顔がカーツとほてつて、あたかも初夜の如き感じで、純情そのものだつたと、あの時代がなつかしされます。勿論ペフンドは、はつきり分る筈もなく、ただあの時の感触が未だに指に残つて居る様な気がします。

それからこれは可愛らしい15, 6才の女学生でしたが、処女膜閉鎖症で、シャイデ内にヘマトームを作つて居りまして、これの切開手術を向井教授から命ぜられた時です。この時向井教授から「郷司君の掉代はいくらにするかな」ときんざんひやかされて冷汗をかいたことがありました。メスを入れた瞬間暗赤色のドロドロした血液がドクドク出て来たのをおぼえて居ります。

又或る時は手術後医局で一杯ひつかけていゝ気分になり、その勢いで大挙して、ワイセベルヒをひやかして廻つたり、又新医局員の給料日には分配の仕様もないので、皆で大喧、リヨン、一平等と次々に飲み歩いて一晩で使い果す豪遊ぶりを発揮したり、なかなか愉快的な思い出があり、これを読まれて同輩連はきつとそうそうと思ひ出されていることと思います。

僅か一年ばかりの在局で、薬師寺先輩の後継として飯塚病院に貰われて行き、これも一年有余の短かい期間でしたが非常にファルが多く、幸崎先生の御指導の下に、婦人科医としての実地をみっちり仕込まれまして、以後これが大変役に立つたことを感謝して居ります。それから明治鋳業に転任してからは外科の方もさせられた訳ですが、間もなく支那事変に引続いての大東亜戦争に多くの同輩と同様に引張られ、幸い、命永らえて歸つた訳ですが、戦争中のロスは何といつても残念でなりません。これは皆さんも同様の筈です。終戦後世の中は大きく変わり、教室も向井教授の御勇退後は学識豊富にして人格円満な宮原教授をお迎えして教室は益々発展の一途を辿つている次第であります。向井教授の御逝去を始め数々の逝かれた同輩連を思う時、感慨無量なるものがあります。色々下らぬことを申し述べまして恐縮の至りですが、今後宮原教授を中心として、わが産婦人科学教室が益々発展されんことを心からお祈して私の思い出を終りたいと思います。

デポ - 性ホルモン剤の功劑

久留米市 宮原泰之

近年に於ける性ホルモン剤の進歩として特記すべきものは所謂デポ剤の登場であらう。効果が大きである反面仲々使用が六ヶ敷様な気がしてならない。私も二、三の臨牀所見を述べて見ます。

35才の不妊症の患者で某病院で撮つたヒステロ、持参、見ると両卵管とも先端の卵管巢と思はれる所迄造影剤が通り中止している。之なら案外妊娠の可能性があるかも知れないと説明でてOP、強度に彩部がウテルスの後面に癒着、剝離し卵管整形術(外翻縫合法)を行い、どうやら通水疎通可能であつた。術後2, 3カ月して、メンゼスが順調となり、B. B. T曲線が正常となつて来た。未だ妊娠せぬと云うので2年来B. B. Tを続けてとつておつた所がメンスがおくれ、B. B. Tがぐつと上つて来るし、乳房の着色迄起つて来た、それから約三週間位してもメンゼスが未だないと云うので内診すると Cor. ut. etw. gross u. weich で何かふくれた様な感じがする。ロパール(10万単位)皮注すれども消退出血なし。恐らく妊娠だろうと大喜をしたのですが、次に来た時に見ると何だかウテルスが鶏卵大まであつたのが小さくなつている、どうもおかしい、後で良く聞いて見ると、その人にもう少し元氣をつけたら良からうと、近頃はやりのデポ剤が元氣が出て直ぐ妊娠するからと云はれて、夫の方にもホルモンを注射し、奥さんの方にも、デポ(プロゲデポ) ? を注射した事が分り、結局それは妊娠でなくてホルモンによるB. B. Tの上昇で一時的に不妊の患者に喜びを与へたけれども亦落胆を与へた。

49才、未産婦、主訴：性器出血。15年前右卵囊剔除、こゝ4, 5年来、頭痛、腰痛、等更年期障害のため、オバ(1000単位)オイバステン錠毎日連用との事、内診すると Cor. ut. etw. gross. Portio Erosion (-) で恐らくエストロゲン長期使用による不正出血だろうとエナルモンデポ(100mg)皮注、その夜より凝血を伴う多量の出血を訴へ来院、フローヘアウスして病理に検査の結果 Hyperplasia endomet. Krebs (-)、少しは出血が少なくなつたが未だ持続、仕方なく毎日ロパール(5万)1週間注射、どうやら止血した様だ。小さな Myom. Knoten があるのか、亦長期にわたるエストロゲン投与の不正出血か? 之に対するエナル

モンは逆効果か、ホルモンの定量もせず只慢然とデポ一剤の使用は六ヶ敷い。それで近頃は無難な両性デポーを好んで使用する事にしている。

23才。習慣性流産の患者。(1回4カ月, 2回6カ月, 3回3カ月で流産), W. R. P. h. 九大にて共に異常なく, モステロの結果, 頸管無力症と云われ, OPをすゝめられた。暫くは妊娠せぬ方が良からうと思つて, B. B. Tによる避妊をやらせ, もう良からうと7カ月後に禁をととき, B. B. T. 上昇1週間, S. S. せるものと思ひ毎日オーホルミン5mg ノアルテン錠朝夕服用, ビタミンE剤, 安静させ2週間位して夜三時頃突然凝血ありと往診依頼, 々あゝ亦流産か々先刻迄古賀兄と一杯やつて少々頭がおかしいが, 出来るだけの事はして見様と, プロゲ. デポ 125mg (10日に1回) オーホルミン5mg, ノアルテン1日4錠, 絶体安静を命じ毎日1カ月続けた。所が出血も少くなり, 経過良好, 目下妊娠6カ月, 先日戌の日に, にこにこして帯祝と, ビール一打持参した。之もデポーの効か?。

- 一. 菱売りに病棟よりの声かゝる
- 一. 新涼となりて縁談すらすらと
- 一. 波たてゝ何かよぎれる月の川
- 一. パーマ屋は隣紫苑の堀囲み
- 一. 天高し手摺にかけし温泉のタオル
- 一. 鵠何かさかしく捕え飛び立ちぬ
- 一. 稲むしろ銀杏落葉がつゝさゝり

三瀨郡筑邦町大善寺

加藤黙声

“ 赤ちゃんは下向きに ”

久留米市 橋本正澄

アメリカ式育児法として々赤ちゃんは下向きに々と云えば, 何事か?と仰言の方もありませんが, 赤ちゃんを腹這いにねかせるといふ事があります。これは先にアメリカの育児についてハリエツト, クラウダー夫人の称する赤ちゃんは下向きに寝せねばならないと

いう言であります。(是の赤ちゃんは新生児を含めません。)

これについて亦, 色々な功罪が問われることであります。即ち口が塞がれて窒息しはせぬか, 鼻が挫けはせぬか, 頬がいびつになりはせぬか, 心肺に異常はないか, 身体軟部組織の圧迫による症状が現われぬか, アメリカに於ては栄養過多による嘔吐が多いため習慣ではないか, etc. 併しこの中には吾々自身, 科学的に, はつきりと納得出来るものが多くあります。即ち赤ちゃんを下向きに寝せるのは合理的ですが, 但し枕は禁物であります。あくまでも枕布団による窒息は防がねばなりません。布団はフカフカしないやや堅めのものを用います。昔, 母親にならうとする女性は生れ出づる吾子のために温い出来るだけ厚い綿を入れた布団を準備していましたが, それも赤ちゃんの身体のためには疑問であります。

日本では不思議に昔から生れたての赤ちゃんでも上向きにねせていますが, 上向きにねせるとのみこんだものがどうしても気管に入り易く, 窒息しないまでもミルク等の蛋白質が気管に入つて滞留すると芳しくありません。だから赤ちゃんを上向きにねせたまま, 哺乳する事は今の若い賢い母親は好みません。例え上向きで頸を左右どちらかえ向けて哺乳しましても, 気管へ入つてむせぶ事は時にありがちな事です。

腹這いにすれば, 筋肉の発達に殊に上体に於て促されます。頸筋や胸鎖乳様筋, 上肢筋群(併し下肢筋の发育はやはり上向きで自由に動かした方が良いでしょう)胸筋, 背筋等に著明な发育を見ます。即ち首の坐わりが早くなり, 握力が強く, 心肺係数に好影響があり, 自ら食欲が亢進し1回の哺乳量も増加致します。

かく申し述べますと腹這いにする事が臥床のオーソドックスの様ですが, 私は4×6時中腹這いにする勇氣はありません。赤ちゃんの体操としてやる位より一歩前進して時間的に長くする程度の所を振り度と思ひます。

こんなことを書いてる中に吾国に於ても腹這い療法といつて古来より適応によつては使用されていたのを思い出しました。慢性ネフローゼに1日何回何分間といつて私自身, 患者に使用し尿量, 呼吸数, 脈搏, 血圧等を測定したインターン時代を回顧してそのデータを今更らの如く見直しましたが, 適応を厳にして行えば良好な成績が得られることは瞭らかな事です。

赤ちゃんにも器質的な異常がなければ, どんどん施

行して然るべきものと思います。

これは決してアメリカニズムでなく、日本古来よりあつたものでして吾々の先輩が幾世紀か時を選び施行して来たものを今更の如く感じまして、宮原教授就任10周年記念特集号の1頁を汚し、医療随筆と致します。

国家試験仕末記

福江町 富井 一 衛

十年前敗戦の産物として表われた医師国家試験なるものが施行されると云う報に、怠惰とデカダンな学生生活の中にあつた僕は、青天の霹靂かと驚かんばかりであつた。学年末の春休みが来る度毎に帰郷中の僕は落第通知が今日来るか明日来るかと身も縮まる思いで、刑の執行を待つ囚人の如き暗澹たる気持で送り且迎えなければならぬ態たらくであつた。この儘では医者卵のまゝで永久に孵化する事は出来ぬであろうと絶望と自棄糞で己の運命を呪いつゝ灰色のインターン生活を同憂の志士(?)達と将棋をしながら「マツカーサーの野郎」~~ノ~~と遙か東京の空を満感の恨みを以て呪みつけるのであつた。そのくせ情けない事に、呪みつけるばかりで一向に勉強しようとしないのであつた。

ポリクリでは皆の後ろに隠れて教授の質問の矢をそらすのに懸命の努力を払わねばならなかつたが、或る日最も恐れていた整形外科の生田教授の外来診察に腰が痛いと訴えて来た老人を前にして「君イ診断をつけ給え」とやられ、失敗つたと思ひながら、えゝいまゝよと目を瞑つて「ヴイルベルヰイレのルクサチオン」~~ノ~~と答えた途端、教授は途方もない大きな声で「馬鹿野郎」~~ノ~~と怒鳴つた。僕は鞆丸が胸につかえたかと思う位魂消て了つた。同じグルツペの面々も目の前に原子爆弾が落ちたかと思う位神妙に首肯だれて横目を使つて「富井の奴、馬鹿な答をしてくれたもんだ。仕様がねえなあ」と恨めし相である。僕は端々焉としながら只管被害の少なからん事を祈つた。時間が来ても僕は一人残されて散々に油をしぼられた。夕方遅く帰る途中木村ペーカーリーに寄つて自棄糞でコーヒーを五、六杯立て続けに呑んでいたら街の与太公が「一寸顔を貸して呉れ」と言うので、正直に顔を貸した所、旭館の裏の露路に連れ込んで五六人で寄つてたかつて僕を殴りつけた。僕は昼の鬱憤を晴らすのはこの時とばかり隠し持つていたナイフを取り出して応戦し二人を

傷つけたら皆逃げ出して了つた。下宿に帰つたら僕の血だらけのシャツを見て下宿の婆が腰を抜かした。僕は尚更勉強が嫌になつた。

保健所の水源池見学の時間は同憂の士六人で「今更飲み水の研究をしたつて始まらんだろうじやないか」と衆議一決して御井町の女郎屋にしけ込んだ。たまたまその家には一人だけ可愛い女の子が居て皆が皆強硬に「俺のものだ」と主張するので公平にジャンケンで行こうと云う事になり、その結果僕が一番バツターの幸運を引き当て、他の奴等は、隣の室で待機していた。人の好い僕は余り待たせるのは気の毒だと早々に切り上げた。特攻隊の志士達は全員一機づゝ反復攻撃を繰り返して多大の戦果を収めて無事引き上げて来た。僕等はその度毎に割れんばかりの歓声と拍手を以て迎へ入れるのであつた。然し最後に突き込んだH君は何時まで経つても帰つて来なかつた。僕等は撃墜されたのではないかといたく心配した。一時間も経つた頃彼は蒼白い顔をしてフラフラしながらそれでも無事帰つて来た。勇敢なるH君は只一回の突撃では物足りず二回も突撃を敢行したとの事だつた。殴りを承まはつたH君は彼女にいたく同情され、二度の突撃も彼女の切なる要望に応じただけに過ぎんだと嘯いた。

残り物に福ありだつたなあと僕等功を急いだ連中はぼやいた。

かくて迎へた第一回目の国家試験は僕等グルツペ全員罰を受けて物の見事にすべつて了つた。第二回目も又天の許し給う所とならず落つちた。

第三回目千軍万馬の古強者になつた僕等は試験場で互に顔を見合はせて「俺達は精神科の所謂、常同症つて奴だなあ」と笑い合つた。

宮原先生の御健康を衷心よりお祈り致します。

宮原教授開講十周年を祝して

教室 朱 以 春

光陰矢の如しとは言ひながら十年の月日は決して一瞬に流れ去つたものではありません。

十年一昔という言葉もあります様に十年の月日というものは長いものであり、この間世の中も又幾多の変遷が起るのであります。

宮原教授は昭和二十二年五月に就任されましたので、正確に言えば今年は一周年に当たります。しかし昨年

は教授が外遊のため十周年の祝賀行事が今年挙行され、そして宿願の同門会誌も宮原教授開講十周年記念号としていよいよ発刊の運びとなりました。

思えば小生が笈を負うて教授の門を叩いたのは昭和二十三年でありました。その当時は終戦後間もない時期であり、教室も大学の教室として脱皮しつゝあつた時期でありました。従つて世の中も又不安定で落付いてやる先生方も少く、研究室と名のつく部屋は確か二階に二部屋程あつたと記憶しますが設備としては何にもありませんでした。それが十年の間に地下に四つの研究室を持ち、研究施設も不自由ない程に充実し、此処で教室員並に十人に近いラバンチンが日夜営々として研究にいそしんでいます。この飛躍の大発展は決して偶然ではなく、教室員諸君がよく教授の意向を体し、大いに努力されたことは勿論であります。宮原教授の十年一日の如くたゆまざる御指導並に御鞭撻の賜物であることは言を待つまでもありません。

十年間に教を受けた弟子は百数十名に上り各方面で大いに活躍して居られることは教授に取りましてもこの上ない御満足であります。同門会の一員として誠に心強く且嬉しく思う次第であります。此度の開講十周年祝賀会に際しても一回卒の大先輩から最近教室を出られた方まで多数参集し、祝賀会が極めて盛大であつたことは全く教授の徳のしからしめる所であります。今後とも御健康に御注意下さいまして大いに御活躍あらん事を祈ります。

宮原教授開講十周年に際し、祝意を表して敢えて秃筆を取つた次第であります。

月 経 閑 話

教室 鹿 林 仙 人

メンスやメンゼスというといとも品よく聞えるが、月経とずばりいうとどうも品がよくない。山田先生によるとメンスでなくメンゼスだという。それは兎も角として昔から色々の言葉で表現されたものである。その多くはこれを不浄視し、神仏に参ることも禁じられている。

なぜでもと鳥居の外でおえん待ち

言わずとおえんは月に一度のあれである。

しかしこれは女を象徴する生理的の現象であり、ホルモン代謝の結果である。蓋しデリケートな女性の自

律神経はかゝる周期的な変化がなくは到底調節が困難かも知れない。

昔は初潮があるとお祝いをした風習があつたらしく、

泣く事はないと俄かに小豆飯

兄は訳知らずに祝う小豆飯

1人前になつたお祝いなのであろう。

お祝いまでして貰つたお客も嫁入つてからは月に一度とは言いながら苦になることがある。殊に結婚初夜に於てしかり、

気の毒さよめつた夜からおえんなり。

新婦の気の毒さもさる事ながら、新郎のいらだたしさもよく分る。新婚ばかりでなくちぎりに既に幾年月経た旧婚組も月に一度のあれがある為に少からず主に苦勞をかけなければならない。

有りものに聳ちよつと事を欠き。

よしな、いやぢやないけれど、けがれやす。

所がこの時期に性器は充血し、却つて性感強く、又禁を犯すという心理的作用もあつて却つていゝという説もある。

けがれてもよいとはきついはずみよう。

湯に入つて来なよ、わたしが罰になる。

昔も今も変わらず、禁を犯して強行する御仁もある。隣のアンサンそれと知らずに紅ショウガだが、それと知つての紅ショウガも又味なものであろう。

反対に夜毎酷使されている御亭主に取つては月に一度の生理休暇とばかり安眠をむさぼるものもあろう。

或はこの時とばかり羽をのばそうとする御亭主もあろう。

雲隠え女房お馬でかけつける。

お馬にまたがつている女房の角が見える様だ。馬とは股の間に挟まる何物かを馬に譬えて誠に軽妙である。

13, 4 姫馬に乗り習い。

御当人は馬に乗つている程いゝ気なものでもないでしょう。精神的、肉体的に何等かの障害がこの時期にありがちなものである。就床の止むなきに至つては病人と何等選ぶ所はない。月に一度かゝる災厄は逢はなければならぬとは女人は余程罪深いものであつたに違いない。しかもその因つて来たる所の原因も又単一でなく、治療も又的確な方法あるを知らない。多くは子宮筋緊張に対する緩解又は鎮痛の手段が取られている。曾て某科看護婦主任君、経時に下腹部の激痛を訴え、就床並にナルコチカの注射を余儀なくされていた。たまたま小生同君より持病について相談の榮に浴し、早

速ワゴスチグミン2筒を与え、前日及び第1日に注射した所、劇的に下腹痛が消失した。月経発来とアセチルヒヨリンとは密接な関係にあり、又自律神経とも何らかの因果があるので、ワゴスチグミンの投与によりAch代謝或は自律神経に何かプラスする所あらんとのアイデアの下にやつたのだが、それ程効こうとは予想もしなかつた。後日、L. Wilson の『月経困難症婦人は全く正常婦人の子宮と同一の緊張収縮を示し、従つて本症に黄体ホルモン療法が無効であつても敢て異とするに当らない』と、又 F. Schuck は『本態性月経困難症の原因を生理的に検索した結果、子宮筋の痙攣様収縮という従来の考え方は多くの場合適当でなく、多くの場合に於て疼痛はむしろ子宮動脈血管の収縮によるもので、従つて痙攣阻止剤よりも血管拡張剤が有効である様に思われる』との二文に接し、我が意を得たりといさゝか氣をよくした。その後かゝる症例の経験なく、的確な療法とは勿論明言の限りではない。

女性の神秘！これを知り尽し得べくもないが、月に一度のそれについてさえも多くを知っていない。主の苦勞は贅沢とも言えるが、御婦人の苦痛や不快は何んとかして除いてやりたい。そうすればどこの奥様も毎日朗らかで明るく、従つて会社で朝からむづかしい顔をする課長も浮かぬ顔をする社員も居なくなるであろう。これが婦人科医の務めでもあり、女性に対する奉仕であると考え。

『もつとやさしく』

教室 朱 以 春

何時か中学に行つてゐる長男にどなりつける様な大きな声で物を言つていたら、側に立つていた小学五年の次男が低い声で『もつとやさしく言つて上げなさい』と言つた。あまり思いがけない言葉だつたので内心どきつとした。おやじの威厳を保つわけでもあるまいが、お前は今何んと言つたか、もう一度言つて見ろ』と思わず大きな声が次男に向けられた。

日頃短気で直ぐ逆上するので反省はしていたが子供から忠告を受けようとは思ひもよらなかつた。白髪を鏡に写しながらもう子供から教えられる年になつたかと、心境は複雑である。

それ以後は『もつとやさしく』という子供の言葉を出るだけ実行したいと努力している。

『もつとやさしく』は女性にだけでなく、全ての人、否全ての生物に対してである。



第7回日本産科婦人科学 九州連合地方部会を回顧して

片 淵 陽 一

一昨年5月久留米市に於て、日本産科婦人科学会九州連合地方部会が宮原教授会長のもとに開催され、日本母性保護医協会会長谷口先生には遙々東京から御來臨を頂き、九州の各大学教授を始め各地から多数の先生方の御参会を得ました。

教室としましても、開講以来の大きな学会でありましたが、宮原会長を初め地元の諸先生方の御協力及び同門会諸先輩会員各位及び教室員の御援助にて、盛大に成功裡に終了できたことを心より感謝致します。

学会当時を振り返つて見ますと、2、3日來の雨で5月25日も午前中迄豪雨に見舞われ、翌26日の天候が氣遣われましたが、幸いにも全くの快晴に恵まれ盛会裡に終了することが出来ました。学会終了後1、2の大学及び会員より礼状送いたゞき我々の苦勞もむくいられ、嬉んでいた次第ですが、それでも何かと御不満、不行届の点があつた事と存じます。この点御詫びすると共に地元の諸先生方の御協力を感謝致し、本学会に御尽力下さつた会員各位に深甚の謝意を表します。

想　い　出

教室　空　閑　彰

「医局はぬるま湯だ、入つたらなかなか出られない」とかつて先輩が云われた事がある。まさにその通りで、部長のおこごとが無く、金さえあればこんな楽しい生活は無い。私は幸い、親父のお陰でもうそろそろ昔の生える頃になつたが、愉快的医局生活を送らしてもらつてゐる。まさに親の恩や海よりも深く山よりも高しと云う所だが、内心まだまだ親の脛の続く限りはと……

楽しい医局生活にも苦しい事がある。入局して始めてもらつた患者が、子宮腔部癌の四期と云う重患、毎日の様に部長からはしぼられるし、先輩に色々教えを受けて一生懸命やつたが駄目、一人前の医者になるには三百人殺さなければと云われたが、医者になつて始めてもらつた患者に死なれた時はしゆんとなつて一二日飯がいけなかつた。又中期中絶の患者の時、毎日とまり込みで出るのを待つたが駄目、とうとう七日日には自分の懐の方が出てしまつた。そこで産婆とも相談して、今夜は絶対出ないと確信のもとに、家に帰つて来てみれば、すでにお産はすんだ後、当時は産院もなく分娩数が少ない時なので、部長から「どうしてついでいないのか」としかられるし、まさに泣き顔に蜂と云うところだつた。

苦しい面はその位にして、入局当時は現在佐世保で開業してある宗先生監督のもとに、毎日野球をやつたものだ。その甲斐あつてか五六年は吾が教室の黄金時代が続いたが、最近の名選手の補強がなされず、まだ吾々老兵が第一線で活躍する現況で情けない次第である。

まだまだ面白い思い出話は沢山あるが、紙面の関係で残念だが、先輩諸先生方の御繁栄と御健康を祈りつゝ第一話の筆を置く。

五月帯と子の幸せと

大牟田市　五十嵐　啄　磨

日本独特の物だそうである

腹帯の妊娠中及産褥の効用を考えると、神功皇后以来日本人は甚だ科学性に富んだ国民であつたのである。

然し我が国はやはり神国であり、特に生命の誕生ともなると縁起もうるさくなるのも無理ない話である。

昔はとても厳粛にして壮嚴なる著帯の式が特に平安時代は盛だつたそうである。今でも田舎系?の人は、安産と子の幸せを祈つて著帯の儀?を施行される様である。

事実小生も、着任以来、此の着帯の式に友と招待の榮に浴して居る。然し一応全部お断りして居るので、その式次第は未だ不明である。

何も大きな男が汗をフキフキ満座の中で妊婦の腹に布を巻きつける図を想像して断つたのでなく、事実診療に忙しくその好意を示す閑がなかつたのである。

妊婦も五ヶ月になると良く腹帯の事を質問される。その度に保温とか腹の伸び過ぎを防ぐとか強く巻くと不可ないとかで、詳しく説明するが、妊婦としては、やはり平安の昔妊つた徴にこれをつけ、又徳川時代悪鬼退散、邪気除払と云う縁起に基き、来る可き大事なお産に対する精神的安心を、こうゆう物に求める気持も強いのかも知れない。

小生の知人が妊娠して福岡の開業の先生の診察を受けて居た。

その先生は妊娠の帯に必ず寿と書いて呉れるそうである。

大層良い事であり、妊婦も如何許り喜ぶ事だろう。

私は級で三筆と云われて、拙筆者である。友人が「君艶書だけは書くな」と忠告して呉れ、荷物が向うに着かないと不可ないと荷札を書いて呉れた位である。人の帯に寿なんて書けた物でない。

然し私も家内が妊娠した時五ヶ月になつた戌の日一世一代の達筆を家内の腹帯にだけは自分で墨黒々と書いた物だ。此の時はとても良く書いて、字の恰好と云い筆の運びと云い、妻の安産と生れる子の明るく幸多い事を祈り願い乍ら一心に書いた気持と良く書けたと吉祥を喜ぶ気持。

やはり五月帯は神功皇后以来の五月帯である。

妊婦検診の時帯に垢のついた人はあまり見ない、子の膚に着せて居る気持であろう。

有難い母心である。

最近欧米式か、コルセットの様なバンドをしばしば見る様になつた。

やはり物事は新しく新しく代つて行く。

我々の母も我々を五月帯で温く包んで呉れたであろうに。

宮原教授開講十周年を祝して

教室 片淵 陽一

宮原教授が御就任になつて十年、終戦後の不安定な時代より更に大水害による苦難をのりこえられ着々と研究施設も充実され、研究業績も次々と発表されつゝある現状までに育てあげられた教授の御苦労は我々の想像以上のものであつたと思います。

幸運にも私の医局長時代に教授会長のもとに九州連合地方部会が、久留米市で盛大に開催された事、当時が懐しく想起されます。又欧米に外遊され深い御研究、体験談等を拝聴でき、又盛大な開講十周年記念が催された事は医局員の一人として、医局生活のうちでも最も忘れ難い思い出の数々になる事と思います。尚待望の同門会誌も宮原教授開講十周年記念号として愈々発刊の運びになつた事は嬉しい限りであります。

教授及び先輩の御努力によつて、今日迄に発展された我が教室を傷つけることなく、久大産婦人科学教室の名声を益々たかめるのが我々の任務であり、尚一層ファイトを燃し一致団結頑張らねばと痛感します。

最後に宮原教授の御健康を祈り、大いに御活躍されんことを切望致します。

お祝のことば

教室 安部 宏

宮原教授が御着任になつて十年、先輩諸先生と共に盛大な開講十周年記念を催し得た事は誠に喜ばしく、又幸運にも、この佳き日を、最も身近かな医局員の一人としてお祝い出来た事は、多彩な医局生活のうちでも忘れ難い思い出の一つになる事でしょう。

終戦後の不安定な時代、更に大水害の危難をのり越えられ我が教室を今日あるまでに育てあげられた教授の御心労は我々の想像以上のものであつたと思います。

我々は、教授始め先人の御努力によつて固められた基盤の上に、更に、二階、三階と、とゞまる処を知らぬ拡張工事を行い、その内容を益々充実させ我が教室を天下の産婦人科学教室たらしめる事が教授始め先輩

諸氏に対する報いであり務めであると考えています。

私自身のことを考える時、まだまだ努力不足を痛感していますが、この記念すべき日に当り、なお一層のファイトを燃やすべく頑張ろうと思つています。

最後に宮原教授の御健康を祈り、簡単ながらお祝いのことばにかえようと思います。

残 照

教室 江頭 敬 親

冬林に傾むく陽差しの冷ゆる路
明日につながる不安にかえる

忘れしごとく落ちゆく冬の陽よ
消えゆかむ吾の影と佇ちつつ

寂しさはいつくより来る冬の陽の
落ちゆくまでを屋上に佇つ

明らかに吾が顔映すこの夜の
鏡割りたき拳はよわし

何時までを保つ命か掌に
かこむ焔に夜の風が吹く

天窓より一条透る冬の陽に
癒ゆる日杳き汝は掌を置く

熾烈に吾は生きたし舗道に
夕陽を反す水溜こゆ

甘き齒の仔犬に吾が掌噛ませつつ
育つことなき愛かと思う

人群に当なく紛れ行く吾に
しばらく從きて来し犬も去る

残照を映して寒き硝子戸に
断ちがたき恋情の額圧しつくる

⊗ ⊗ ⊗ ⊗

⊗ ⊗ ⊗

⊗ ⊗ ⊗ ⊗

内外消息

同門会員の消息

久留米市 畑 瀬 幸 雄

開業後はあちこちと出張して廻ることもなく、消息を知ることが少なくなつたが、私が知り得た最近の皆の動静を書きつづつてみよう。

◆ 恩師向井先生の死

昨春の日本産科婦人科学会総会（於福岡）の折に遠方からも旧友が来会すると聞いて私の発案で懐しい萃香園に於て有志相集いて一夕の宴を張り、向井先生を慰める会を催したが遠くは愛知一宮の谷（四回）、広島吉貴（四回）を始め三浦、木村（一回）郷司、可兒（四回）、下村、立山（五回）、中島（六回）等々久し振りに先生を中心に楽しい語らいをやつた。先生は非常に嬉しそであつたが、時々お会いしている私ではあつたが何だか顔色がすぐれずやせられたなという感をもつた次第である。

又一方、選挙の折に、廻り廻つた因縁で、稗田教授の選挙事務長に向井先生を引っぱり出す役の一端をかつがされた私は、選挙運動にかけ廻られる先生が、身体違和を口にされておられたらしく、後で聞いて病身に無理をさせて、心苦しく思つた次第である。

六月？日 胃癌と確定、早速西村外科へ入院、同月十三日手術、当日は宮原教授を始め教室員、三浦、石田氏を始め多数の弟子達がかけつけて手術の成否を見守つた。その後不幸にして3回もの手術をくりかえしうけられ、病気の進行には勝てず、再起不能となり、9月17日退院、后自宅に於て大往生をなされた。

その間教室を始め、同門各位の精神的、物質的慰問、見舞が相つぎ、そのついでに私のところに立寄つてくれる人が多く、病気の好転が話題に出なくて、暗い気持で過したことは残念でならなかつた。

9月20日神式により久留米市公民館に於て厳かな葬儀が行はれたが、大きな会場一杯にかざられた花輪や供物、席が無い迄に参詣された会葬者は全く先生の遺徳を偲ばせた。

最后のお別れだと大阪（高田）岡山（福田）米子（牧野）等からもはるばると同門の人達がかけつけら

れ、久し振りに会えたのは懐しいことではあつた。

向井医院の後には次男治次君が、アルバイトも終えて、大いに張切つてやつて居られる。（向井先生追悼録でも作成する機会があればその折に詳しいことも書きたいと思つている次第です）

◆ 北から南へ

地図を掲げ乍ら唯思い出すまゝに同門（旧い人達が主ですが）の消息を思い出してみよう

○ 北海道から東北地方

母校の地理的關係からか、同窓会名簿をみても非常に少いが、同門となると殆んど居ない。唯自衛隊医官になつた油田君（10回）が北海道に居ると聞いているだけである。

○ 関東地方

東京が主であるが、東京と言えば後藤春人君（3回）が色々な意味で有名であつた、その彼が昨年3月3日に自宅の二階の雨戸をくつていて墜落して、頸椎骨折で急死したことは彼らしい（？）トビツク的な事故であつた。牛島勝四郎君（6回）が終戦直後は銀座と他にも診療所を開いて大いに活躍していると聞いていたがこゝ数年来名簿では行方不明となつてはどうかどうしたことやら。

その他では浅草で開業していた渡辺修作君（14回）は最近では丸の内の小山診療所とかに勤めているとか、橋本武彦君（12回）は浅草あたりの病院をやめて、小岩町で開業しているようだが、同町には同門ではないが徳永氏（1回）も開業して居られる。

その他では、隠居して息子さんのところに悠居していた蒲原中佐氏（5回）は最近では塚本君の新設した精神病院につとめて居られる様子であり、蒲君（6回）は世田ヶ谷の国立病院の内科に、津田清君（5回）は第一生命本社に、岸君（9回）は千住あたりで開業、横浜の日本鋼管病院に村岡君（11回）がつかつて居られるので会うことも少い訳で消息にもうとい。

○ 東海道を下つて

大坪君（7回）が最近大阪の生命保険会社を辞めて沼津市の片浜養護学園というところにつとめているとのことだ。

愛知一宮市に谷君（4回）が盛大に（最近鉄筋にて増改築したとか）やつている。衛生啓蒙運動にも熱心で感心させられる活躍振りである。

○ 北陸、信越地方唯

富樫氏（1回）が新潟県下で開業して居られるのを知るのみである。

○ 近畿地方

京都の山口君（3回）が永く病気だつたと聞いているが最近ではどんなかと案じている。大阪の高田君（7回）は外、泌尿科をやつて活躍中らしく、向井先生の葬儀にもはるばるとかけつけ10年振り（？）に談合出来た。尼崎に室君（11回）、西宮に大原君（8回）が夫々活躍中である。

○ 山陽道

名簿を見ると岡山県下鴨井君（6回）が居ることになつてはいるが、詳細不明で、福山の福田勇君（7回）は同じく向井先生葬儀の折に20数貫の堂々たる貫録を現はしていた。広島市には中尾（3回）吉貴（4回）岡崎（6回）の三君が開業している。特に吉貴君とは昔からの深い因縁で大抵毎年立寄つたり学会で出会つてはいたが、先年来、デアベータスからマーゲン・ゲシユールなどといつて消極的になつたようだが堂々たる病院、立派な住宅を作つてゆうゆうとやつて居る。同市の日本生命支社に坂本君（15回）がつとめて居る。

山口県には入ると下関の古賀君（7回）が居るが会うこともなく、浜口君とは時々会うし仲々の勉強振りに感心している。

山陰線で約一時間余りの魚村に居る中島君（6回）とは交渉が深い、数年前奥さんを亡くし、チョンガーで通し乍ら、郷土玩具、版画、カメラ、8ミリ等々の外、山大の病理に通うという活躍振りで、たまに出て来ては昔なつかしい名演を披露してくれる。

○ 山陰地方

米子の牧野君は米子大学（解剖学教授）を辞めてからは結核療養所につとめているが、昔と同じく仲々の勉強振りで、昨年もどこかの学会で特別講演をしなければならぬと言つていた。同市内開業の川原君（8回）は息子が久大を受験するとかけ廻る世代になつて居る。大社の近くに吉岡君（十七回）が居る。

○ 四国地方

徳島の精神病院副院長に転向した樺島君（三回）も元気で、ロシア語の翻訳出版までやる活躍振りである。然し成田君（六回）は最近病気（高血圧症？）でやすんで居るらしく気の毒である。平木君（六回）は、日生社医で、最近では徳島から杉山へ転じて居る。

又宇和島附近に中村三幸君（十六回）が奥様の縁に

ひかれて（？）開業している。

○ 北九州地方

八幡の井上氏（一回）は仲々の盛業らしく、息子さんも久大には入り安心である。小倉では佐野（五回）藤岡（九回）が開業、花田君（十七回）が勤務医として活躍中である。その外では行橋に先年来浜井君が開業している。同市には大先輩の内田定勝先生が古くからやつて居られるがまだお会いするチャンスが無い。

○ 福岡地方

福岡の新宿といわれる電気ビルの近くに居る久保山（十回）も病気回復後、先年ブロック建の病院に改築して頑張つて居る。板付飛行場の傍らの稲富君（七回）も最近改築して大発展中である。目覚しい発展をつづける春日原に数年前から大きな家を購入していた嘉村君もつとめを辞めて一昨年来開業して仲々忙しい様子である。雑餉隈の朔君（十回）はどうした風の吹き廻しか小倉附近（？）でTB病院をやるといつて目下新築中であるとか。

○ 筑豊地方

直方の力丸氏（二回）は最近鉄筋に改築し盛業、同市には永らく渠鳴で苦勞して来た田代君も元気を出して頑張つて居る。

飯塚には新飯塚駅の近くで中村研一君（十六回）が仲々流行つて居るそうだし、近く飯塚駅の近（？）に古賀君（十七回）が開業するとか。

籍はあつたが大申兼司君（九回）、全良士君（十回）の兄弟は夫々炭坑病院の小児科、皮泌尿科の医長をし、石川君（十一回）も同じく外科に転向してしまつて居る。

田川地方では川崎町に薬師寺氏（一回）が炭坑病院を辞めて開業して物すごく流行り（元来ヘルツが悪かつた氏の健康を案じていたが先日学会で会つたらすぐ元気がつた）。同町には平野君（五回）も永く流行医として頑張つて居る。田川市では小坂君（三回）が医業もだが俳句作者兼選者としても盛名あり、先年は句集々医ごころ々を出版して大張り切りである。同市には二年前から栗原（十一回）も開業している。田川社会保険病院に居た渋谷君（十七回）が八幡市で開業したそうで、その後任には同じく十七回の古賀企図志君が赴任しているとか。

○ 筑後地方

久留米市は人口十四万余りに二十二、三名の優生保護法指定医が居る（外に大学、第一病院、国立病院あり）市内は全くの余地無しといふところだが、その中

同門会員が十名で（牛島、竹田津、井上、萩尾、宮原の諸氏は他校出身で同門の人であり、畑瀬（三）緒方（四）渡辺（八）山下（十一）浮亀（十七）夫々活躍中である。

八女市郡では福岡の三浦氏（一回）は専門開業の傍ら中村君（三回）等と協同で吉田山保養所を運営したり、近くは市議選に出馬するとかで大張切りの様子で、向井先生の病気の頃の世話振りは全く感心の至りであった。博物館行きまではないが一際目立つ自家用車を運転して魚釣りに出かけられるのも有名である。八女市内に編入された祈禱院には前記中村君の外に安達氏（一回）が居られるが息子さんの椿一郎君（十九回）は山鹿市立病院の産婦人科医長だし御安心というところである。又後ノ口というところに下津浦君（十回）が開業している。一時福岡市内に出て美容整形をやったが又元に戻って来たようである。

黒木迄上ると保健所長兼県立病院長として坂田君（十一回）が居るが、そのすぐ傍に構溝君（三回）が父伝来の医院をやつて居り、笠原には吉田誠君（十一回）が同じく伝来の医者として活躍している。

みかんで有名な白木に戸次君（十回）がやはり父祖ゆづりの医者として又町議などもやっている。

羽犬塚にくると内藤君（十二回）が最近では病院も新築して仲々流行つているし、久留米近くに来ると一条町に柳瀬君（十五回）がやっている。

○ 三井、浮羽、朝倉地方

三井郡では草野町の池尻君（五回）が父祖伝来の病院を町の国保直営病院に提供して、医師会、政界の世話までやつて活躍していたが、最近ではブツツリ色々のことをやめて会にもさつぱり顔を見せなくなつたがどうしたことだろうか？。その近くの大橋村に平塚君（十九回）が三、四年前から開業している。元来が造酒業の息子さんときているから我々みたいな背水の陣の借金もつての開業ではないだろうし楽なことだろう。

北野町にいくと町立北野病院に岩橋君（十八回）が居てその分院の大城診療所に淡河君（十九回）弓削診療所に石田君（十九回）が活躍している。

小郡町端間に開業していた義村君（二十回）は兄貴が帰家したのでやめて母校薬理学教室でアルバイト中で近く大牟田で開業準備中である。

朝倉では三輪村に久賀先輩（一回）が開業されているし同じ村の藤崎医院に居た坂本君（十五回）が生命保険医になつた後には最近では教室から角光君（学一）

がいつている。その外ではしばらく教室に居た井手君（十五回）が杷木町で開業している。

浮羽に行く则可児、日野、（四回）井手田丸（五回）の三君が田主丸で開業も古く盛業であり、重富君（十七回）が吉井町で昨年開業している。千足では平川君（旅医）と谷口君（十九回）がやっている。

○ 柳川、山門、三潞地方

柳川の木村先輩（一回）も永らく身体不調だつたが手術されて元気回復し、最近ではマーゲンが小さくなつたので早く酔うようになったといつて飲みもされるようになっていられる。大和町に曾根君（十三回）が開業している。三潞郡では安本大先輩は相変わらずの元気だし、大善寺に加藤君（十五回）大溝に国武君（三回）が活躍中である。

○ 大牟田地方

荒木大先輩と渡辺先輩が上官町で相接して開業され、何れもお盛んであるらしく、桑野氏（一回）は駅前に進出されて益々御発展だし、吉浦氏（二回）は銀水にて眼科を開業し、先には渠鳴生活より得た本を出版され、又大塚葉報などでいつも名文を拜見しているが推理小説などまで書かれる仲々の才能がある。

三井病院の河野君（三回）も永い間の辛捧の結果が報いられて部長になられて、その下に副島君（二十回）が働いている。五回の下村君は大正町、立山君は通町でまた開業であるが、立山君は先般来やめて役人になると言っていたが？。

市立病院には五十嵐君（十七回）が頑張っている。山川君（八回）鈴木君（十四回）、木下君（二十回）等は教室に籍があつた人達だが現在は内科系を主にやつて盛業中である。

○ 大分縣下

日田は昔から石田氏（二回）の外に戦后石橋氏（二回）も開業され、最近では古賀（一）（十七回）もやっている。ずつととんで久住高原の飯田診療所に工藤君が居る。別府までいくと岩永君（十五回）木下君（十六回）が盛業である。

○ 宮崎地方

唯小林市の近くに岩橋君（九回）が頑張っている外には都城地区の飯屋君（八回）が同門ではあるが今では専門が違つての開業である位である。以前は日南県立病院、中部病院あたりにも赴任していたが最近ではいつて居ない様子である。

○ 鹿児島地方

鹿屋市の川畑君（四回）は医師会の副会長をやつたりして居るとか、志布志では脇岡君（八回）と問世田（十五回）が仲々盛業だ。その外では奄美大島の名瀬市に大原勉君（十三回）が開業している。数年前まで東京で開業して自家用車まで購入していたが突然南の果にまで進出（？）していつたものである。

○ 熊本地方

山鹿市で開業の神山君（八回）全市立病院の安達君（十九回）の外は玉名郡の奥さんの家の医院をやつている中村君（十六回）が産婦人科もやつている位で、谷脇君（五回）は熊本鉄道病院の眼科だし、新生君（十一回）は鹿本郡で他科をやつて居られるらしく、案外と少い。

○ 佐賀縣下

中心の佐賀市内には一人も居なくて、佐賀郡の山の中の公立病院に川崎君（七回）があちこち開業を転じたあげくに落つて、母校の細菌学教室に勉強に来ているだけである。

鳥栖市には二、三年前から白水君（九回）久留米国立病院を辞めて外科、産婦人科で開業し、昨年よりは吉松君（十四回）が日南病院を辞めて田代町の自宅で開業している。豆津橋の向うの北茂安の松尾君（九回）は農協病院をそのまま引うけてやつているし、背振の山の中に小杉君（五回）が開業して居るらしいが全然会う機会もなく、時々クランケを介してその名を聞いている。

佐賀より唐津線で行くと先づ小城羊かんで有名な小城には土井氏（一回）が居られるが、医業の外に炭坑業などもやつて居られたらしく聞いているが？ 六回の森永君は先年来県会議員として政、医界にも活躍中である。多久にいくと、三菱古賀山炭坑病院に中野和君（廿一回）が、暫く欠員だった市立病院にはごく最近久富君（十八回）が赴任し、前任の樽松君（十九回）は唐津に近い田舎の炭坑村の診療所にいつた。又昔同院の産婦人科医長だった近藤忠七君（十三回）が佐賀療養所入院、医官と変つて最近同院のTB担当の内科医として赴任している。同地方の開業医としては太田（十三回）天ヶ瀬（十四回）野中（京城医）が盛業である。唐津ではギネより転向して精神科ブームにのつた井上君（九回）が名勝虹の松原で大発展中である。お父さんの病院をついだ田辺君も健康恢復して、産院経営の計画などをもち大活躍と聞いている。

伊万里方面に行くと、一回の本城氏が炭坑病院に居られ、小島満君（七回）は市議を兼ね、小島俊君（十二回）は同窓会支部長をやつてるし、同君と義兄弟になる近藤君（十二回）も少し町を変つて発展中と聞いている。

武雄の松村君（六回）は小児科に変つているし、三間坂の駅のすぐ裏に居る毛利晃天君はすごく大き病院を作つた。肥前白石の内田君（八回）も井上安郎君の跡をついで以来仲々流行り、先年来は長大に研究にも通つていると聞いている。多良の町立病院に居た片淵浩君が近くで開業して、その後任に有吉君（学三）が赴任している。

○ 長崎、佐世保地方

長崎市には今西君（六回）と河井君（九回）が開業している。少し手前の長与に八木君（六回）が居るし、もう少し来て国立大村病院には緒方君（十一回）がつとめていると名簿に載つているがはつきりした消息は聞かない。

佐世保に来ると田中重、副島（二回）宗（十回）松尾（十三回）松永（十四回）の諸君が何れ劣らずの盛業と聞いて心強い次第である。

○ その他

沖縄の那覇市で平敷君（20回）と奥山君（大邱医）の二人が開業して居る。

朝鮮には恐らく教室関係の人は居ないと思うが、台湾には黄君（九回）が居て、戦后一度便りをもらつたように覚えているが、その後の消息を聞かない。

○ あとがき

同門の消息記を引うけたものの忙しいのと資料を整理しないと簡単に書けないのとで、延び延びになり締切りはとつくにすぎせつぱつまつて記憶をもとに書きなぐつてしまつたので、抜けた人々（特に若い人）が沢山あるし間違いも多く、ぶつつけ本番で書き直してもせずに出したので文章もおかしいところが多いと思うが平にお許しを乞う次第です。

同 門 消 息

教 室 空 閉 彰

同門会名簿作成にあたり、不完全でその上誤りも多々ある点を御許し願います。

畑瀬先生在局当時は、同門会の連絡もよくとれ、会

員諸先生の消息もよく判りましたが、若輩の私ではとてもその大任を果す事も出来ず甚だすまないと思つて居ります。

恩師の御消息で御座居ますが皆様もすでに御承知の如く、宮原教授には、昨年三月半年間の外遊をおえられ、就任十周年を迎えられ、その祝賀会が昨年十一月盛大に挙行されました。目下益々御元気に診療に研究に励げんで居られます。

向井先生には昨年六月胃痛にて西村外科に入院、前後三回にわたる手術も効なく、九月十七日永眠されました。教授としては吾が教室今日の隆盛の基礎を築かれ、開業されましては筑後ブロック会々長、日母福岡県副支部長として斯道発展に尽力されました。此処に謹んで先生の御冥福を御祈りする次第で御座居ます。

杉森先生には相変らず御元気に、日母福岡県支部長として御活躍され、学会には何時も、にこやかな温顔に接して居ります。

名簿を御覧下されば判る事と存じますが、本校にて学位審査が出来る様になりまして、多くの方々が研究にいそしまれ、見事医博の名誉を受けられています。教室も研究設備もどうやら整いましたのでなにとぞ御利用下さい。

各地区で開業、又は勤務医として、御活躍中の各位には、その地の医師会等の重鎮として、奮闘されていますが、詳細な動向は、何分御会いする機会もなく、連絡も不十分で、失礼で御座居ますが、次号を約くしまして筆をおかせて頂きます。

最後に同門各位に御願で御座居ますが、住所等の変更が御座居ましたら至急御連絡の程御願ひ致します。

医 局 だ よ り

一時は数十名の教室員で盛況を呈した時代がありましたが、学生の少い今日では新入局者も次第に少くなつて参りました。しかしなお専攻生を含めて40数名を擁して居ります。

外来並に医局は殆んど昔と変わりませんが、地下の研究室が昭和28年6月の大水害にて一瞬にして泥沼と化し、機械器具は流失又は使用不能の状態となりました。教室員一同は一時茫然となり、希望さえも失つた様な状態でしたが、宮原教授は率先して荒廢した研究室の整備復興の御指導に御尽力下され、短時日の内に新し

い研究器具も整備され、今日では大学でも有数の設備と広さを誇るユニークなものとなつて居ます。既に朱助教授、馮、片淵両講師の学位獲得を始め、その他教室員の研究業績も多く、子宮癌、性ホルモン等数々のテーマと日夜取組み研鑽をかさねています。

一方診療方面では外来患者は年々増加し、婦人科病棟は常に満床の状態、特に子宮癌の患者は県内は勿論、県外からも多数外来を訪れています。又昭和32年9月には私達の念願でありました産院が中央病棟4階に完成致しましたが、開院と共に予約を断る様な盛況です。

最近の教室の主なる行事としては、32年5月宮原教授会長の下に日産婦会九州連合地方部会がB・S記念ホールで開催され、又同年9月1日より翌33年2月迄の半年間宮原教授が漱米に出張されましたことは既に御承知の通りであります。特に昨年11月16日には教室の最もお目出度い行事と致しまして、宮原教授開講10周年記念講演会が祝賀会を兼て多数の先輩の御出席を得まして盛大に開催されました。

以上簡単に教室の現況について報告致しましたが、尚現教室員は次の通りです。

教 授	宮原 通顕
助教授	朱 以 春
講 師	馮 瑞 麒, 空閑 彰, 片淵 陽一
外来医長	安部 宏
医局長	森光 敏行
副医局長	角光 勲
助手	佐野久弥太, 安藤 喜寿, 大田 重勝, 西島 重次, 池田 勺
副手	野田 制, 河原 浩作, 中川 博子, 江頭 敬親, 伊東 基裕
大学院	駒井 義治, 中村 隆輔, 江口 博之, 宮原 寧
研究生	川副 良弘, 幾島榮三郎, 平川 淳
専攻生	松尾 正之, 花田 長雄, 岩橋 信夫, 宇都宮実夫, 岸 正人, 松本 真, 田中 康栄, 福島 勉, 堀 昭夫, 田辺 厚, 古賀 英敏, 本村 彪, 田村 重親, 有吉 公, 益子 寿子, 高岡 長雄, 岸川 政雄, 吉村 悟, 津未 馨

以上 (森光敏行記)

野 球 部 だ よ り

教 室 安 部 宏

過去数年間、幾多の名選手によつて築かれた黄金時代に比べると、現在のチーム力が若干、劣つている事は、自他共に許す事実ですが、それでもファイトとチーム・ワークで非力をカバーし何とかAクラスの面目を保っている我が教室野球部の現状です。

毎年開かれる連合地方部会の際の五大学親善野球、対九大定期戦、春秋二回行われる教室対抗の他に、他の教室からの挑戦に応じたり、又こちらから挑戦したりして、碧空の下、大いに草野球を楽しんでいます。

野球はもとよりパーセンテージのスポーツです。そこで今年はスコア・ブックの記載を実行し、チーム編成の参考文献とし、以て機動力の強化につとめようと試みましたが、公式記録員を自らすすんで買つてでる奇特の士に恵まれず、遂に年の始めの日記帖の如き運命をたどり自然消滅してしまいました。しかし打率、本塁打数、投手の勝利回数等の三つだけは、正確に記録されており、各選手、何とか首位をねらい、野球部史上、不滅の記録を残さんものと闘志をたぎらせており、チーム力も漸次上昇の一途をたどる様になりました。今後は再び我が教室に往年の黄金時代を再現すべく頑張りたいと思つています。

なお、この度の同門会前夜祭の、現役対OBの試合には先輩各位、御多忙中にも拘らず、御参加を賜り、誠に有難うございました。今後、年中行事の一つに加える事が出来れば同門会の楽しみも更にふえて結構ではないかと思つています。

最後に現在の教室の主要メンバーを簡単に紹介しての便りを終りたいと思います。

- 野球部長 宮 原 教 授
- 総 監 督 安 藤
- 監 督 野 田
- 主 将 宮 原(寧)
- コ ー チ 空 閑
- 〃 安 部
- 部 員 医 局 員 全 員

1958 年 度 公 式 記 録

勝 率	14 勝 13 敗	0.518
-----	-----------	-------

打 撃 十 傑 (打数10以上, 1958年後半)					
順位	選手名	打数	安打数	打率	本塁打数
①	宮原(寧)	55	26	0.472	4
②	空 閑	43	16	0.372	3
③	安 部	44	16	0.364	1
④	駒 井	14	5	0.357	0
⑤	野 田	47	17	0.351	2
⑥	武 田	37	11	0.297	1
⑦	江 頭	11	3	0.272	0
⑧	西 島	26	7	0.269	0
⑨	中 村	36	8	0.222	1
⑩	森 光	20	4	0.200	0

打 数 10 以 下 の 部				
順位	選手名	打数	安打数	打率
①	宮原教授	1	1	1.000
②	伊 東	3	2	0.666
③	朱助教授	5	1	0.200

投 手 成 績					勝 率 に よ る 順 位	
順位	選手名	勝利	敗戦	防禦率		
①	安 部	10	5	不明	0.666	②
②	野 田	2	1	〃	0.666	②
③	古 賀	1	0	〃	1.000	①
④	空 閑	1	1	〃	0.500	④

最高殊勲選手	宮原 寧	打撃王・本塁打王・新人王のトリプル・クラウン獲得の功による。
--------	------	--------------------------------

昭 和 32 年 度 同 門 会 会 計

収 入 の 部

同門会費	11,200.-
31年度同門会懇親会費	33,100.-
十字屋よりの寄付	3,000.-
筑後ブロックより印刷代補助	2,600.-
九州地方部会時同門会募金より インターホン購入残金	25,336.-
32年度貯金利息	3,046.-
前年度繰越金	49,807.-
計	128,089.-

支出の部

懇親会（料理酒代）	31,180.—
通信費（切手，封筒，印刷代）	2,276.—
ラボランチン御礼	500.—
バス代	40.—
振替貯金払出用紙及び手数料	430.—
印鑑代（2ヶ）	500.—
幹事会茶菓子代	1,500.—
ノート代	190.—
計	36,616.—
差引残高	91,473.—

支出の部

向井先生の御見舞	5,000.—
向井先生御病気通知費	1,850.—
向井先生花環代	5,000.—
同門会名簿作製調査費	4,126.—
通信費	1,005.—
同門会開催連絡費	7,750.—
ノート及び雑費	44.—
計	24,775.—
差引残高	112,898.—
(33.10.31)	

(会計武田・久富)

昭和33年度同門会会計

収入の部

前年度繰越金	91,473.—
同門会費	46,200.—
計	137,673.—

術後疼痛に



武田販売

ノブロン注

クロルプロマジンとグレランとの
相乗効果を發揮する新鎮痛催眠剤

クロルプロマジンとグレランとは、相乗的に鎮痛作用を増強すると共に効力持続時間を延長することが既に確認されている。
本剤は更に抗ヒ剤による催眠作用を強化し、術後の鎮痛と安静保持に最も満足すべき効果を發揮する新鎮痛剤である。

手術後疼痛・手術前麻酔・外傷痛・骨折痛・疼痛又は
神経性不眠・胃痙攣・結石疼痛など

【用量】 通常1回2ccを筋肉内に注射する。

【包装】 ノブロン注A 1管2cc 10管入 ノブロン注B 1管2cc 10管入

文献送呈

製造 グレラン製薬株式会社
東京都世田谷区野沢町2丁目147

販売 武田薬品工業株式会社
大阪市東区道修町2丁目27

同 門 会 名 簿

名簿発刊に当り出来るだけ正確に
と努めましたが大だまだ充分に御
満足頂けない事と存じますこの点
深く御詫び致しますと同時に住所、
身分、電話番号その他御変更があ
りましたら教室宛迄御連絡下さ
います様御願ひします

	氏名	卒業 年度	入 年	局 月	退 年	局 月	(現住所又は勤務先)	電話番号
医博	宮原通顕	九大	22.	5.20			久留米市櫛原町4丁目	久留米 4143
医博	杉森司	九大	7.	1.15	9.	1.15	福岡市天神町取引所裏通	福岡 ④0315
医博	富樫重三郎	昭7年	7.	4.	9.	11.	新潟県中蒲原郡小須戸町5	小須戸 102
	三浦智典	7	7.	4.	10.	5.25	福岡県八女市福島区京町	八女 198
	木村澄雄	7	7.	4.	8.	1.	柳川市曙町30 木村回生医院	柳川 2012(院) 3572(宅)
	土井勝己	7	10.	4.1	10.	4.	佐賀県小城郡牛津町上砥川165	
	石田友逸	7	8.	4.	9.	12.	日田市堀田町134の2	日田 2513
	安達秀信	7	7.	4.	7.	10	八女市上妻区祈禱院	八女 431
	薬師寺塩道	7	7.	4.			福岡県田川郡川崎町川崎劇場前	川崎 37
	深水主	7	7.	4.			熊本県葦北郡水俣町江添207	
医博	井上英武	7	7.	4.	9.	5.	八幡市黒崎町1丁目	
医博	桑野稔	7	7.	4.	8.	6.	大牟田市笹林町 笹林婦人科	
	本城恒	7	7.	4.	9.	9.	伊万里市大川町 立川鉷業所病院	
	久賀明	7					福岡県朝倉郡三輪村上高場	
	平田虎雄	7					久留米市金丸小路	
医博	有馬保俊	7					直方市日吉町29	
	野見山重寛	7					山口県大島郡蒲野村三蒲	大島 11・317
	牛島始	熊本専					久留米市西町六ツ門	久留米 3270
	安本源始	長崎専					福岡県三潞郡三潞町玉満	
	内田定勝	日大専	5.	4.1	5.	5.7	福岡県行橋市行橋町魚市場通	
	荒木新	東京専	5.	4.	8.	6.	大牟田市上官町1丁目	
	山田彰	日医大					長崎県西彼杵郡大串村	
	上原豊	京城専					東京都太田区女塚3丁目29	
	蓑毛長久	長専					鹿児島県始良郡帖佐野鍋倉1479	
医博	天ヶ瀬六三郎	8	8.	4.	8.	5.	福岡市香住ヶ丘6丁目21	
	吉浦亀雄	8	8.	4.11	10.	4.10	大牟田市大字草木	
	力丸豪	8	8.	4.	9.	5.	直方市新通町1丁目	直方 1112
医博	副島勇次	8	10.	4.18	10.	5.	佐世保市神島町108	
	田中重治	8	21.	1.14	21.	5.31	佐世保市若葉町35	

	渡辺雅之助	8			大牟田市上官町1丁目	
	石橋淳一郎	8			日田市小淵町1丁目	
	井上正之	岡山大	8. 4.	8. 6.	久留米市東町聚楽荘ホテル前	久留米 2619
	畑瀬幸雄	9	9. 3. 31	31. 4. 30	久留米市繩手町302の3	久留米 2180
	国武博紀	9	9. 3. 31	9. 7. 11. 2. 14	三潞郡大木町大溝字大角139	
	横溝東一	9	9. 3. 31	10. 6. 20	八女郡黒木町黒木142	黒木 2
医博	樺島春男	9	9. 12.	10. 5. 12	徳島県鳴門市瀬戸町 阿波井島保養院	堂浦 10
医博	河野司	9			大牟田市天嶺町 三井三池病院	
医博	小坂平三郎	9			田川市伊田春口町3008	
	山口義男	9	10. 1. 7 10. 3. 7	10. 12. 12. 8. 31	京都市上京区一条通千本西入	
	中尾行道	9	11. 3. 3	12. 8. 28	広島市小綱町	
	中村政雄	9	9. 3. 31	9. 7.	八女市上妻区祈禱院	
	川畑秀蔵	10	10. 4. 1	10. 10. 30	鹿児島県鹿屋市向江町7195	鹿屋 232
医博	郷司研一	10	10. 4. 1	11. 2. 29	田川郡赤池町 赤池鉱業所病院	直方 920
	大場九明	10	10. 4. 10	11. 8. 30	浮羽郡浮羽町姫治妹川	
	可児栄	10	10. 4. 1 18. 6. 9	12. 3. 8 21. 10. 25	浮羽郡田主丸町中町221	田主丸 266
	谷隆亮	10	10. 4. 1 12. 1. 14	10. 7. 12. 7. 28	愛知県一宮市松井町1丁目44	一宮② 3863
	吉貴吉一	10	10. 4. 1	12. 7. 31	広島市鷹匠町12	
	緒方定満	10	10. 4. 1	12. 8. 30	久留米市山川町1200	
医博	日野陽智	10	10. 4. 1	15. 1. 31	浮羽郡田主丸町中田主丸	田主丸 27
	津田清	11	11. 4. 11	11. 6. 24	東京都武蔵野市吉祥寺本田南2472	
医博	平野覚	11	11. 3. 31	12. 5. 14	田川郡川崎町本町2	川崎 123
	下村実	11	11. 3. 31	12. 6. 28	大牟田市大正町1丁目	大牟田 2031
	小柳正美	11			佐賀県神埼郡東脊振村横田	
	池尻泰一郎	11	11. 3. 31	12. 6. 30	三井郡草野町 国保直営病院	草野 20
	谷脇琢磨	11	11. 3. 31	12. 5. 6	熊本市二本木町 熊本鉄道病院	熊本 2324
	井手田丸	11	11. 4. 6	11. 6. 15	浮羽郡田主丸町1の5	
	佐野正人	11	11. 3. 31	11. 6. 7	小倉市大字蒲生766	
	立山虎男	11	11. 3. 31 12. 10.	11. 10. 17	大牟田市通町1丁目 通町産婦人科	
	松村知利	12	12. 4.	12. 10. 18	佐賀県武雄市西浦町	
医博	蒲吉次	12	12. 4. 1	12. 7. 3	川崎市上麻生1146	

	中 島 元	12	12. 4. 1 12. 11. 18	13. 8. 30 14. 9. 14	山口県豊浦郡豊北町天玉	
医博	牧野礼一郎	12	12. 4. 1	14. 2. 25	鳥取県米子市内町155	
	岡崎正憲	12	12. 4. 1	12. 6. 30	広島市下柳町28 岡崎婦人科	
	鳴井正明	12	12. 4. 1	12. 7. 29	岡山県児島郡粒江村黒石8	
	森永恒範	12	12. 4. 1	12. 7. 1	佐賀県小城郡芦刈村	
	平木正明	12	12. 3. 31	13. 4. 30	愛媛県松山市二番町 日本生命松山支社	松山 823 824
医博	今西憲治	12	12. 4. 1	14. 4. 27	長崎市山里町257	長崎④ 0964
	土橋安高	12	26. 5. 31	27. 5. 31	長崎県壱岐郡郷の浦町	
	八木弘	12	12. 4. 1	13. 10. 20 休18. 4. 20	長崎県西彼杵郡長与村	長与 3
	成田悦郎	12	12. 6. 7	13. 8. 4	徳島県美馬郡脇町	脇町 14
	高田一郎	13	13. 4. 1	13. 4. 26	大阪市阿倍野区播磨町東1の40	
	小島満義	13	13. 4. 2	13. 6. 21	伊万里市南波多町	南波多 9
	稲富賢一	13	13. 4. 2	14. 4.	福岡市那珂町板付875	
	川崎龍彦	13	13. 3. 31	13. 5. 20	佐賀県佐賀郡富士村小副川 共立病院	
	古賀章生	13	13. 6. 16	14. 3. 31	下関市彦島町江の浦	
	福田勇	13	13. 3. 31	13. 4. 31	広島県沼隈郡瀬戸村地頭分422	
	大坪瑞樹	13	13. 4. 21	13. 7. 17	沼津市 片浜養護学園	
	山川成海	14	14. 4. 19	14. 4. 27	大牟田市一部町83	
医博	大原英五	14	14. 4. 19	15. 9. 7	西宮市甲東園駅前	
	川原良雄	14	14. 5. 15	14. 9. 25	米子市加茂町1丁目	米子 1206
	肱岡豊次	14	21. 11. 10	23. 4. 30	鹿児島県噺喉郡志布志町志布志302	
医博	神山光輔	14	14. 4. 5	17. 6. 30	山鹿市大字山鹿	山鹿 2595
	田代次郎	14	14. 3. 31	14. 10. 11	直方市下境4431	
	万年義人	14	20. 12. 17	24. 2. 28	三潞郡城島町江上184	
	内田博	14	14. 3. 30	14. 8.	佐賀県杵島郡白石町福田1452	白石 30
医博	渡辺静夫	14	14. 3. 26	16. 8. 7	久留米市国分町224の13	久留米 2394
	仮屋寿生	14			宮崎県都城市下水流町	
医博	平田尚志	14	30. 8. 9	33. 4. 7	田川郡川崎町 古河大峰鋳業所病院	川崎 200
	渡辺良枝	東京女	14. 4. 15	14. 11.	大牟田市上官町1丁目	
	黄錦煌	15	15. 5. 6 16. 9. 1	15. 12. 7 17. 7. 18	台湾省雲林県虎尾鎮中山里132	
	山口勘藏	15	15. 3. 24	15. 5.	三重県度会郡小俣町2941	伊勢 4909

	藤岡 俊紀	15	15. 3. 30	15. 9. 24	小倉市下到津4丁目130	
	松尾 哲夫	15	15. 3. 31	17. 10. 21	佐賀県三養基郡北茂安村東院	
	今本 正義	15	15. 3. 24	15. 5.	山門郡瀬高町本郷695の1	瀬高 2323
	大串 賢士	15	15. 3. 24	15. 5.	嘉穂郡穂波村 嘉穂鋳業所病院小児科	
医博	河井 敏夫	15	20. 11. 13 25. 9.	22. 11. 20	長崎市桜島場町110	
医博	岩橋 信種	15			宮崎県西諸郡飯野町原田70	
医博	井上 安郎	15			佐賀県唐津市鏡町 唐津保養院	唐津 3854
	豊田 利生	15	16. 7. 4	16. 10. 13	三潞郡筑邦町荒木	
	久能 澄刀	15	28. 12. 23	30. 3. 31	小倉市三萩野 県立三萩野病院	
	武内 雄輔	15			直方市殿町 武内婦人科	
	古賀 三太郎	15			大分市 県立病院婦人科	
医博	前岡 正則	15	27. 12. 12	30. 12. 27	小倉市産川町2丁目67	小倉 30
	白水 博信	15	29. 10. 9	30. 12. 28	鳥栖市中通町	
	久保 山浩秀	16. 4	16. 3. 26 21. 8. 10	16. 5. 1 22. 1. 31	福岡市住吉花園町大丸市場横	
医博	大串 良士	16. 4	16. 3. 26	16. 5. 5	嘉穂郡筑築町鳴生 三井山野病院皮泌尿科	飯塚 2190
	油田 愷生	16. 4	16. 3. 26	18. 4. 30	三重県飯南郡大石村大字小片野	
医博	朔 進	16. 4	16. 5. 1 21. 6. 1	16. 10. 13 23. 4. 30	小倉市日明RKB前板ビツ病院	
	福田 新	16. 4	22. 9. 30	24. 2. 16	築上郡大平村 国保直営診療所	
医博	宗 進	16. 4	22. 6. 18	26. 11. 21	佐世保市宮田町28	佐世保 4473
	徳安 晴郎	16. 4	21. 7. 5	23. 11. 30	八幡市荒生田1丁目7条	
	下津 浦裕三	16. 4	21. 6. 11	22. 1. 31	八女郡上妻区后江54	
	清水 猛	16. 4			松山市三番町59	松山 3651
医博	木村 武	16. 4	29. 8. 19	29. 9. 25	東京都八王子市本町3の22	
	戸次 鎮敏	16. 4	25. 11. 21	28. 9. 16	八女郡立花町白木村一瀬552の1	
	村岡 徳保	16. 12	16. 12. 29 17. 1. 6	17. 12. 13 17. 1. 16	横浜市鶴見区小野町1の5 日本鋼管鶴見病院	
	緒方 弘登	16. 12	17. 1. 6	17. 11. 30	大村市 大村市民病院	
医博	山下 保海	16. 12	17. 1. 26	18. 6. 30	久留米市天神町4丁目	久留米 4325
	吉田 誠	16. 12	17. 1. 6	17. 1. 19	八女郡黒木町笠原	
	本村 享	16. 12	17. 1. 6	17. 1. 27	熊本県飽託郡小山戸島村戸島	
医博	室美 弘	16. 12	17. 1. 6	17. 7. 8	尼崎市本町1丁目90	尼崎 48・5742
	石川 良次郎	16. 12	17. 1. 7	17. 1. 20	山田市下山田 古河鋳業所病院外科	
	新生 聖博	16. 12	17. 1. 11	17. 1. 20	熊本県鹿本郡田底村正清58	田底 28

	小島嘉二郎	16.12	17. 1. 23	17. 8. 13	宗像郡津屋崎町津屋崎789	
	坂田義治	16.12	22. 4. 4	26. 4. 15	八女郡黒木町 黒木保健所	
	栗並実	16.12	24.11. 26	24.12. 23	佐賀県神埼町4丁目	神崎 177
	栗原幸弘	16.12	27.10. 28	29.10. 31	田川市西区大字川宮1825	田川 225
	淡河浩日大				三潞郡筑邦町安武	
医博	伊藤哲夫	17. 9			山田市上山田町1437の2	
	山隈輝大	17. 9			八幡市中央通3丁目	
	蒲池国敏	17. 9	26. 3. 23	27. 9. 19	八女郡黒木町	
	亀尾進	17. 9	24. 3. 17	25. 5. 9	久留米市宮ノ陣八丁島	
医博	嘉村浩治	17. 9	26. 4. 2	29. 4.	福岡市西春町1丁目	雑餉隈 441
	近藤欣一	17. 9	21. 8. 10	22. 1. 31	伊万里市松浦町桃川	
医博	内藤順治	17. 9	22. 6. 18	24. 7. 18	筑後市和泉	筑後 440
	小島俊夫	17. 9	24.12. 12	25.12. 22	伊万里市黒川町小黒川	
医博	橋本武彦	17. 9	26. 3. 14	28.11. 15	東京都江戸川区小岩町5の176	
医博	井上晋	18. 9	30.12. 2	32. 3. 30	福岡県糸島郡前原町 井上医院	
	近藤忠七	18. 9	18. 9. 23	18.10. 28	多久市 市立病院内科	中原 48
	太田健一郎	18. 9	21. 5. 1	21. 9. 10	多久市北多久砂原	
医博	大原勉	18. 9	21. 1. 14	21.10. 15	鹿児島県大島郡名瀬市幸町	名瀬 741
	曾根確郎	18. 9	18. 9. 23	18.10. 29	山門郡大和町皿垣128	
	松尾正之	18. 9	24.12. 12 23. 3. 21	28. 1. 31 26. 1. 15	佐世保市山県町12	佐世保 6097
医博	朱以春	18. 9	23. 5. 19		久留米市津福今町字六割98の4 (教室)	
	渡辺修作	19. 9	20.10. 18	22. 2. 28	東京都北多磨郡小金井町1829	
	松永隆義	19. 9	20.11. 12	22. 2. 15	佐世保市若葉町32	佐世保 4741
医博	吉松喜芳	19. 9	21. 7. 20	24. 7. 12	鳥栖市田代町田代	
	上妻道隆	19. 9			鞍手郡若宮町三ヶ畑 吉川診療所	
医博	高橋謙三	19. 9	29.10. 9	31. 3. 31	浮羽郡吉井町金川	
	江頭敬親	19. 9	33. 9. 9		久留米市御井町堀の上アパート (教室)	
	角河武延	19. 9				
	柘植愛弥	19. 9			三重県尾鷲市梶賀町314 梶賀診療所	
	鈴木久生	19. 9	19.11. 20		大牟田市泉町13	
医博	馮瑞麒	19. 9	25. 4. 17 25. 8. 1~	25. 8. 11	山門郡三橋町藤吉486の3 (教室)	

医博	田村重親	20.9	32.2.13(専)	福岡市箱崎上社家町2639	
	毛利晃元	20.9	26.5.25 30.2.10	佐賀県杵島郡中通村三間坂	三間坂 12
	専頭時義	20.9		久留米市西町南畑225	
	片淵浩治	20.9		佐賀県杵島郡稲富村中区	
	岸川政雄	20.9	31.12. 33.9.30	福岡市平尾山荘通一丁目	
	幾島栄三郎	20.9	20.10.5 22.4.30	柳川市昭代町七ツ家	柳川 3411
	柳瀬静夫	20.9	25.12.22 28.9.16	筑後市一条町	下広川 8
	浅野昌男	20.9	20.11.9 21.5.9	八幡市黒崎 厚生年金病院整形外科	
	坂本圭一	20.9	20.11.5 21.6.29	広島県佐伯郡五日市町楽々園西	
	井手潤田	20.9	20.9.21 21.12.24	朝倉郡杷木町池田	杷木 163
	荒木大助	20.9	20.9.21 21.3.25	遠賀郡芦屋町祇園崎3091	
医博	本松伸一	20.9	23.5.31 23.10.18 24.6.1 27.	名古屋市中種区丸山町2の49	
医博	間瀬田秀之助	20.9	21.3.31 22.1.31	鹿児島県曾根郡志布志町	
	龍 亮	20.9	30.8.12 32.5.2	鳥栖市基里町曾根崎	
医博	岩永邦喜	20.9	20.9.21 21.10.10	別府市浜脇	別府 349
医博	加藤栄朗	20.9	26.11.	福岡県筑邦町宮本1467	大善寺 33
医博	宮原泰之旅医	20.10.5	22.9.4 25.3.31	久留米市日吉町	
	秋吉五郎	22		佐賀県三養基郡中原村西寒水	
	原 八郎	22		鳥栖市藤の木	
医博	中村雄一	22	23.7.8 25.1.20 26.6.20 29.10.31	玉名市伊倉町南方 財津医院	伊倉 8
	花田覚	22	24.1.8 24.9.14	静岡県御殿場市 滝ヶ原キャンプ要員診療所	
	平川淳旅医	21.7.31	26.6.10	浮羽町朝田393	
	野中瑞穂京城医	20.10.9	21.10.5 22.4.12 23.4.30	佐賀県多久市北多久町砂原	
医博	萩尾右蔵京城医	20.10.18	21.2.15	久留米市西町金丸	
	丸岡基喜	22	29.5.27 32.5.27	大阪市大正区三軒屋木樋町2の13	
	馬場功	22	29.3.23 31.7.25	大阪市西成区西皿池町32	
	中村研一	22	23.7.8 23.12.25	飯塚市立石	
医博	原口一広	22	23.7.31 25.6.30	鹿児島市草牟田町3970	
	木下玄明	22	23.7.8 26.2.28 27.8.10 27.10.17	別府市流川通9丁目	
医博	中村三幸	22	23.7.8 25.9.15	愛媛県南宇和郡城田町	
	富井一衛	22		長崎県福江市福江町	
	八尋忠義	22		福岡県筑紫郡春日町東町3丁目	

	古賀英敏	23	30. 5. 7	32. 5. 22	飯塚市菟田中通り	古賀産婦人科	飯塚 1541
	吉岡豊樹	23	27. 5. 1	29. 2. 10	島根県出雲市莊原町		
	古賀一成	23	24. 8. 22	26. 12. 13	日田市三本松		
医博	五十嵐琢磨	23	25. 8. 18	27. 8. 31	大牟田市不知火町	市立病院	大牟田 4107
医博	浮亀角助	23	25. 8. 18	27. 2. 6	久留米市原古賀		
医博	渋江浩	23	29. 8. 2	31. 2. 1	八幡市羽衣町2丁目590		
医博	古賀企図志	23	31. 8.	33. 8. 1	田川市西区西本町	社会保険田川病院	
医博	武田良一	23	31. 7. 27	33. 12. 1	嘉穂郡嘉穂町	町立病院婦人科	
	安藤喜寿	23	31. 5. 12		福岡市香椎町新浜町684の1		
	重富泰爾	23	24. 8. 1	26. 3. 14 26. 12. 13	浮羽郡吉井町		
	原口初雄	23	24. 7. 25	27. 1. 18	小倉市中井鉦ヶ丘	西内病院	
医博	浜口久明	23	24. 8. 5	28. 9. 30	下関市高尾	市立中央病院婦人科	
	福島辰一	23	24. 10. 5	24. 12. 14	大阪市生野区中川町2の62	生野中央病院	
	下松巖旅医	23	25. 3. 10	26. 8. 18	佐賀県東松浦郡浜崎町玉島	上野医院	
	花田長雄	23	24. 7. 24	28. 3. 6	小倉市辨天町17	新栄病院	
医博	大隈克己	23	24. 8. 31	27. 1. 16	鞍手郡小竹町新多	古河目尾鍼業所病院	飯塚 5
	橋本正澄	23	24. 7. 20	27. 11. 5	久留米市櫛原町	第一病院婦人科	久留米 2448
	吉原宏	23			鞍手郡若宮町黒目		
	草野裕次	24	25. 8. 18	27. 9. 1	長崎県西波杵郡西海村面高本郷		面高 10
	篠原恒男	24	25. 9. 7	26. 12. 12	宮崎県門川町上ノ町		
医博	河田民春	24	25. 9. 4	26. 4. 20	茨城県日立市	日本鍼業日立病院	
	岸正人	24	25. 9. 4	27. 11. 5	佐世保市今福免290	三河内病院婦人科	三川内 13
	岩橋信夫	24	25. 8. 1 31. 11. 14~	27. 9. 30	三井郡北野	国保直営北野病院	北野 17
医博	樋口重仁	24	25. 8. 1	26. 5. 31	浮羽郡吉井町	浮羽保健所	吉井 258・321
	豊福哲夫	24	25. 8. 18	26. 4. 14	横浜市戸塚区柏尾町	殿谷BSアパートCの2	
医博	津末磐	24	33. 6(専)		福岡県山門郡三橋町	大字百町1556	
医博	久富武博	24	31. 7. 27	33. 12. 20	多久市	多久市立病院	
	松尾芳包	24	26. 4. 16	26. 10. 22	嘉穂郡庄内町綱分庄内	国保診療所	
	浜井啓一	24	26. 4. 23	28. 4. 4	行橋市大字大橋	2497の1	行橋 715
	松井敬篤	24			山田市上山田町	大橋	山田 465
医博	川原賢悟		25. 10. 17	30. 8. 30	佐賀県神埼郡仁比山村		

	田中康栄	31. 7. 11~		久留米市高良川	久留米 5789
医博	木下重久 九大	(専)24. 12. 12		久留米市東町462	久留米 3163・3566
	杳掛純三 慈大	(専)24. 9. 30		山門郡三橋町久末190	
	空閑彰 24	25. 8. 1		日田市大和町	日田 2017
	颯原俊一 大印医	24. 10. 28		下関市彦島町	
	城崎千吉郎 金大	25. 9. 15		荒尾市緑ヶ丘三本松商店街	
医博	松枝猛 日医大	3. 1. 24 33. 8. 28		三潞郡筑邦町白口	荒木 111
	森山正種 25	26. 8. 4 28. 10. 15		福岡市東高宮八反町61村田方	
医博	朔芳照 25	28. 11. 5 32. 5. 19		柳川市筑紫 県立柳川病院	
医博	松浦朔郎 25	26. 7. 21 28. 10. 14		福岡市薬院 (開業)	
	樽松和夫 25	30. 2. 10		佐賀県東松浦郡北波多村岸山 岸山診療所	徳須恵 45
医博	吉村茂松 25	26. 8. 4 27. 8. 20		田川市弓削田2800 麻生産業株式会社田川工場附属病院	
医博	工藤一男 25	27. 2. 4 29. 2. 28		大分県玖珠九重町町善 飯田高原診療所	飯田高原 8
	石田三男 25	31. 5. 18 32. 8. 31 27. 12. 24 29. 12. 31		三井郡北野町 弓削診療所	
	淡河昭二 25	29. 2. 9 31. 3. 31		三井郡北野町 大城診療所	
	安達椿一郎 25	26. 8. 4 29. 2. 16		山鹿市桜町 山鹿市立病院婦人科	
	谷口博之 25	26. 8. 9 28. 12. 22		浮羽郡浮羽町千足	浮羽 20
	平塚光 25	29. 4. 12 29. 9. 25		三井郡大橋村常持869	
医博	福島正名 25	26. 8. 4 29. 1. 14		福岡市井尻東町 (波多江藤太方)	
医博	片淵陽一 26	27. 12. 22 34. 4. 20		鳥栖市鳥栖町12区	
	恵紙照一 26			別府市秋葉通り9丁目 山本病院	
	向井治次 26	28. 1. 12 30. 11. 30		久留米市日吉町	久留米 3103
	田辺厚 26	27. 10. 2 32. 2. 11		唐津市坊主町	唐津 4704
	義村泰彦 26	28. 3. 8 30. 5. 3		大牟田市三川町1丁目43	
医博	副島峻義 26	27. 8. 7 30. 10. 31		大牟田市天嶺町 三井病院	
	平敷好吉 26	28. 3. 8 30. 11. 12		沖繩那覇市ゴザ市センター区22班	
	木下和昭 26	27. 10. 6 29. 12. 31		大牟田市神田町143	
	星野浩 熊本専	30. 3. 29 30. 6. 20		小倉市北方 星野薬局内	
	松本真 九大附専	27. 10. 20 30. 7. 31		久留米市通町 通町婦人科	
	友成達 東京専	26. 12. 7 29. 12. 31		玖珠郡玖珠町塚脇 森産婦人科	
	久保賢治 熊本附専	27. 12. 5 29. 12. 6		大牟田市日の出町2丁目	大牟田 5828

	奥山 巖	大邱医	27. 11. 10	29. 10. 31	沖繩ゴザ市センター区一班	
(本村)	的場伊都子	東京女専	27. 7. 29	29. 10. 14	神戸市兵庫区荒田町1丁目	小原診療所
	梶原 忠政		29. 1. 12	29. 8. 31	大牟田市八本松2丁目76	三池粘煉所診療所
	佐々木 浩之				大阪府守口市南寺方北通り2丁目2	
	鳥村 良一		27. 9.	31. 3. 31	大牟田市加納町1丁目76	
医博	浅川 清隆		24. 8. 10	31. 12. 26	柳川市西蒲池	柳川 2853
	宇都宮 実夫	長大	31. 6. 10		八女郡立花町兼松	
	益子 寿		32. 3. 1		柳川市茂庵町4	
医博	高岡 長雄	九大	32. 5. 22(専)		荒尾市西原区1041	
	松本 正敏	京附医	28. 9.	33. 5.	大牟田市上官町4丁目	大牟田 7487
医博	吉村 悟	九附専	32. 3. 1	33. 3. 31	八幡市徳広町 济生会病院	八幡 2881
	田中 繁雄				東京都世田ヶ谷区松原町2丁目704	
	中野 和一郎	27	30. 8. 9	32. 8. 10	佐賀県多久市北多久三菱古賀山鋳業所病院	北多久 362
	本村 彪	27	28. 10.	31. 5.	柳川市筑紫 県立柳川病院	柳川 3306・3447
	辻 嘉昌	27	28. 6.	30. 12.	久留米市東合川町泉	
	安部 宏	27	28. 7. 13		大分市荷場町8 (教室)	
	森光 敏行	27	28. 7. 31		久留米市京町3 (教室)	
	角光 勲	27	29. 5. 20		嘉穂郡穎田町 町立穎田病際	
医博	西島 重次	27	31. 12. 20		久留米市日吉町41の5 (教室)	久留米 2537
医博	池田 勻	27	32. 4. 11		八女市民生病院婦人科	
	川副 良弘	日大医科	33. 4. 7(研室)		佐賀市松原町41 (教室)	
医博	坂本 英雄	28	29. 6.	33. 10. 3	福岡市藤崎町2丁目139の10	福岡 ⑤2458
	堀 昭夫	28	30. 1. 6	31. 1. 12	山田市上山田 三菱磁業所病院	飯塚 1
	福島 勉	28	31. 7. 25		久留米市 国立病院	久留米 4571
	伊東 基裕	29	33. 10. 1		久留米市東櫛原町1494小篠医院内	
	駒井 義治	29	30. 7. 4		門司市東明ヶ丘 (教室)	
	有吉 公	29	30. 6. 28	32. 7. 31	佐賀県藤津郡多良町 多良病院	多良 16
	佐野 久弥太	29	30. 6. 29		久留米市日の出町 (田中正彦方) (教室)	
	浦部 利一郎	29			小倉市三萩野 県立三萩野病院	小倉 ⑤2179
	大田 重勝	30	31. 6. 6		久留米市旭町柳原松尾方 (教室)	
	中村 隆輔	31	32. 5. 10		二日市町国鉄駅前 (教室)	

野田 制	31	33. 3. 20	大牟田市大字草木368 国崎豊医院
江口 博之	32	33. 4. 1	函館市外大中山 大中山診療所
河原 浩作	32	33. 5. 6	大牟田市原山町189 (教室)
中川 博子	32	33. 5. 6	東京都板橋区大和町14 富士見病院
宮原 寧	32	33. 6. 3	福岡市井尻美松町7組

物 故 者

向井 治雄	橋口 陽男	有村 虎雄	後藤 春人
弘中 稷	郡山 幹夫	光山 恒夫	有村 利貞
住吉 高雄	柴山 義英	森藤 栄一	筑柴 重臣
小川 恭二	山崎 道明	広田 衛	松尾 大人
真田 秀人	安岡 秀之助	栗田 孝義	江崎 静夫
中村 アツ子	水鳥 清一	黒川 清之	松本 明光
久能 正樹	藤本 盛人	池田 雪夫	光安 光
益永 登美男	原 茂城	岩井 満	豊岡 道雄
吉 永 清	山崎 淳一		

編 集 後 記

同門会誌の編集は予ねてからの懸案であり、会員各位の熱望する所である。曾つて畑瀬先生によつて編集しかけたこともあつた様でしたが発刊には至らなかつたのは残念である。

宮原教授就任10周年を祝してこゝに記念号を発刊することが出来たことは一同と共に慶賀に堪えない次第である。何しろ編集子は素人ばかりなので皆様の御満足が得られるまでは未だ幾多の努力を必要とするものと思う。幸に皆様の御叱正並びに忌憚なき御意見を御聞かせ下さいまして、今後毎年一回本誌が発刊され、会員相互のより緊密な繋がりともなれば幸である。最後に玉稿を御よせ頂いた各位に厚く感謝する。

尚表紙の同門会誌の4文字は宮原教授の揮毫でありまして、永遠に本誌を飾ることが出来ることは会員一同大いに喜びとする所でありまして、宮原教授に厚く謝意を表する次第である。

〔朱記〕

編 集 委 員

朱 以 春	空 閑 彰	片 淵 陽 一
森 光 敏 行	安 部 宏	駒 井 義 治



量産施設完成により

注射用コンドロイチンの値下断行

コンドロロン注

として 新発売

注射用コンドロイチンは

発売以来強力細胞賦活剤・総合解毒剤として医学界に大きな話題を生み、昨年度の医学会で更に、動脈硬化・肝臓障害・腎臓障害・ストマイ難聴等、従来処置困難とされた諸疾患にも優れた効果のあることが発表され益々その声価を高めています。弊社は今回注射用コンドロイチン純末の量産施設完成により新製品コンドロロン注として、高濃度でも安価な新注射液を新発売致しました。一層の御愛用を御願ひ中上げます。

2%	2 cc. × 10 A	440 円
	2 cc. × 50 A	2000 円
3%	2 cc. × 10 A	580 円
	2 cc. × 50 A	2500 円

科研薬化工株式会社

(旧社名 科研薬販売株式会社)

東京都中央区日本橋本町3ノ1